

第8章 観光重点地区と重点項目の戦略的整備

環西寧圏への旅行者は省内旅行者が 86%以上を占めており、域内中心の開発と利用が進められてきた。今後の環西寧圏観光は、従来の省内地域に限定された観光産業から脱皮し、省の経済をリードする基幹産業への発展、省の社会経済開発へ寄与する産業への成長を目指さなければならない。そのためには、近隣省市自治区や大都市圏、東部沿海地域の先進省市自治区等の全国的な有望市場を手始めに、国際的な観光市場も対象として、全国的・世界的な観光地域づくりを戦略的に促進することが必要である。また、限りのある投資資源を有効に活用しつつ、需要に応じた効果的な開発を進めるため、観光市場開発の進捗に応じた短・中・長期の段階的な開発を目指す。

今後は、予測される旅行者数の大幅な増加や戦略市場の拡大・多様化（大都市圏や海外市場）に沿った観光圏域づくりを進め、省の経済をリードする産業への成長が期待される。ここでは、地域が有する観光資源と開発ポテンシャル、そして将来目標とされる市場の需要の両面から、環西寧圏の観光サーキットにおいて開発・売り出すべき観光プロダクト、及び観光サーキットの整備（観光ルートや拠点）に対する提案、整備施設の開発規模、主要整備拠点の整備概要、プロジェクトの実施手順・手続きについて検討を行う。

8.1 観光プロダクト開発戦略

(1) 短期開発戦略（2010年まで）

市場の拡大と多様化するニーズに対応するため、既に観光開発が進む西寧観光拠点都市と青海湖観光サーキットの観光施設開発を促進し、観光需要の量的拡大に対応した受け皿機能の拡充と集積を図る。同時に、既存観光スポットにおける施設の改善と質の向上を図り、観光・レクリエーション活動の多様性を高める。また、新たな黄河観光サーキットと祁連山観光サーキットの確立のためのルートを整備し、新設拠点に施設開発を誘致する。環西寧圏内の短期観光施設投資規模は国内の有望市場を引き付けるため、一定の標準を持ったプロダクトを整備する必要があり、これまでの観光投資規模に比べて大きな初期投資が必要となる。

(2) 中期開発戦略（2015年まで）

市場規模の拡大と中・高級への質的な転換に対応するため、西寧観光拠点都市での施設拡充だけでなく、先行の青海湖観光サーキットにおいても、短期開発戦略で開発した観光拠点や観光スポットの施設拡充とサービスの向上に合わせ、新たなエコツーリズムや歴史・文化遺産を活用する観光プロダクトの開発と多様化を図る。また、短期において開発着手した新たな黄河・祁連山観光サーキットでは、観光拠点の本格的な機能の拡充と向上を図り、観光スポットの施設整備を進めて選択性の高い魅力的な観光プロダクト群の形成・提供を目指す。

(3) 長期開発戦略(2020年まで)

観光市場の成熟に伴う滞在の長期化とより高い客単価の客層に対応するため、客単価が高い滞在型客層のニーズに応じた高品質宿泊施設整備、観光プロダクトの高品質化とサービスの向上、長期滞在を飽きさせないような多様な観光プロダクト開発を行う。同時に、青海省全体（三江源観光地域開発等を含む）、及び近隣省自治区と連携した広域の観光回廊開発、あるいは青蔵回廊の鉄道ルート開発等に資する観光拠点の形成・拡充を各観光サーキットにおいて進める。

8.2 環西寧圏観光サーキットの特定

市場の量的拡大とニーズの多様化へ対応するには、地域の魅力と特徴を明快に市場に示すことができる周遊観光サーキットの形成が必要である。これは観光対象が点から線へ、そして面へ進化するよう誘導する手段でもある。観光サーキットの形成は、観光資源の特性によって形作られるだけでなく、地域の地勢的条件や既存・計画中の観光基盤施設（道路や鉄道など）の整備状況を考慮し、西寧観光拠点都市、及び3つの観光サーキット（青海湖、黄河、祁連山）の形成を提案する。

8.2.1 観光サーキットの提案

現在の環西寧圏の観光構造はごくシンプルで、西寧市がゲート機能、宿泊機能と観光活動拠点機能を兼ねた観光活動の核となっており、周辺に点在するタール寺、互助、青海湖（151、及び鳥島）などの既存観光スポットへ日帰りで往復する形となっている。

この空間構造では、観光客は西寧市と各拠点の間の往復移動に時間を費やし、既存・潜在的観光スポットにおける滞在時間は短く各地の魅力や潜在的観光活動を活かせず、拡大を目指す有望市場を惹き付けるのが困難である。そこで、以下に示す観光サーキットの形成を提案する。

- a) 西寧観光拠点都市、及びその周辺に3つの観光サーキットを整備する。
 - 西寧観光拠点都市（西寧市を中心とするタール寺、互助民族村、日月山などを含む半日・日帰り観光圏）
 - 青海湖観光サーキット（青海湖151基地・鳥島・沙島を含む西部の観光地域）
 - 黄河観光サーキット（貴徳、カンブラ森林・地質公園、孟達自然保護区、同仁レゴン文化地区を含む南部の観光地域）
 - 祁連山観光サーキット（北山、門源、祁連を含む北部の観光地域）
- b) 各サーキットは下記の3つで構成する。
 - 宿泊観光拠点（主要、その他）
 - 観光スポット（主要、その他）
 - 観光ルート（主要、その他）

環西寧圏の観光は、環西寧圏の観光地は以下の点で改善される。

- a) 現在の西寧市への一極集中型の宿泊機能配置から、短期→中期→長期の各観光サーキットの宿泊・観光拠点開発を通して徐々に多角構造へと変革し、宿泊地の多様性・選択性を高め、観光客にとって魅力のある観光地の形成・提供を可能とする。
- b) 既存の都市型宿泊拠点の充実に加えてリゾート型の宿泊拠点を開発し、多様で選択性のある宿泊地を提供する。これにより、環西寧圏の観光が都市立地型の西寧観光だけでなく、自然や文化・歴史の魅力を持ったリゾート立地型の観光地開発を可能とする。
- c) これまでは西寧市宿泊の日帰りであったが、今後は各観光サーキットの宿泊拠点をベースに行動でき、活動圏域が各地域に広がる。また、サーキット内に複数の宿泊拠点を置くことで、観光客の宿泊地の選択肢が多くなる。
- d) 環状道路整備によって観光客の移動の往路復路で違ったルートを選択でき、より魅力的なルート設定が可能となり、またルート変更（ツアープログラムや天候・事故などに伴うルート変更）に対応できる。サブルートや船舶による水上ルートの整備により、観光の魅力度をさらに高めることが可能である。

宿泊・観光拠点や観光スポットは、下記のプロセスで選定する。

- a) 省・州、及び県が策定の第十一次五ヵ年観光計画で提案したプロジェクトの拠点
- b) JICA 調査団が現地調査やヒアリング結果から選定した拠点開発適地（これらの拠点数は 260 拠点に及ぶ）
- c) この中から以下の基準で 149 の拠点（短・中・長期対象）に絞り込み
 - サーキット上に位置する（ルートから余り離れていないこと）
 - 地元住民が主な利用対象となっている文化、商業、公園施設は除外
- d) さらに、以下の基準によって高い優先度を持つと考えられる 96 拠点を短期整備拠点として絞り込み（短期整備拠点の中から、各サーキット形成において特に重要な地区を主要整備拠点として 12 地区選定）
 - サーキット形成上重要な地区（資源性、魅力度、キャパシティなどの観点から）
 - 道路などインフラ施設の整備が既になされている、またはそれが容易な地区（短期において大規模なインフラ投資を必要としない地区）

8.3 西寧観光拠点都市整備と観光プロダクト開発

西寧観光拠点都市の整備では、西寧市の都市基盤集積を活用し、交通拠点機能の拡充（道路・鉄道・空港）、星級ホテルを中心とする宿泊機能の量的拡充と質の向上、飲食・土産品機能、文化・娯楽機能などの観光拠点都市機能を拡充する。同時に、夏都・西寧の観光スポットとして中心市街地の都市型観光・文化・ショッピング拠点の整備・形成、馨廬（官邸修復）・馬歩芳官邸・虎台や文廟等の歴史観光スポットの形成、南山と北山の緑地整備に合わせた展望観光スポット形成、市南郊に新たに開発計画の進む城南新観光拠点の形成を促進する。また、市内だけでなく衛星観光地である大通・橋頭鎮、日月山、タール寺、互助・土族民族風情村、楽都の瞿曇寺や柳湾遺跡、博物館等を含む湟水谷地域の観光地整備を進め、多様な観光プロダクト群を提供する。それによって、概ね半日観光行動圏としての西寧観光拠点都市の形成を目指す。



図 8.3.1 西寧観光拠点都市

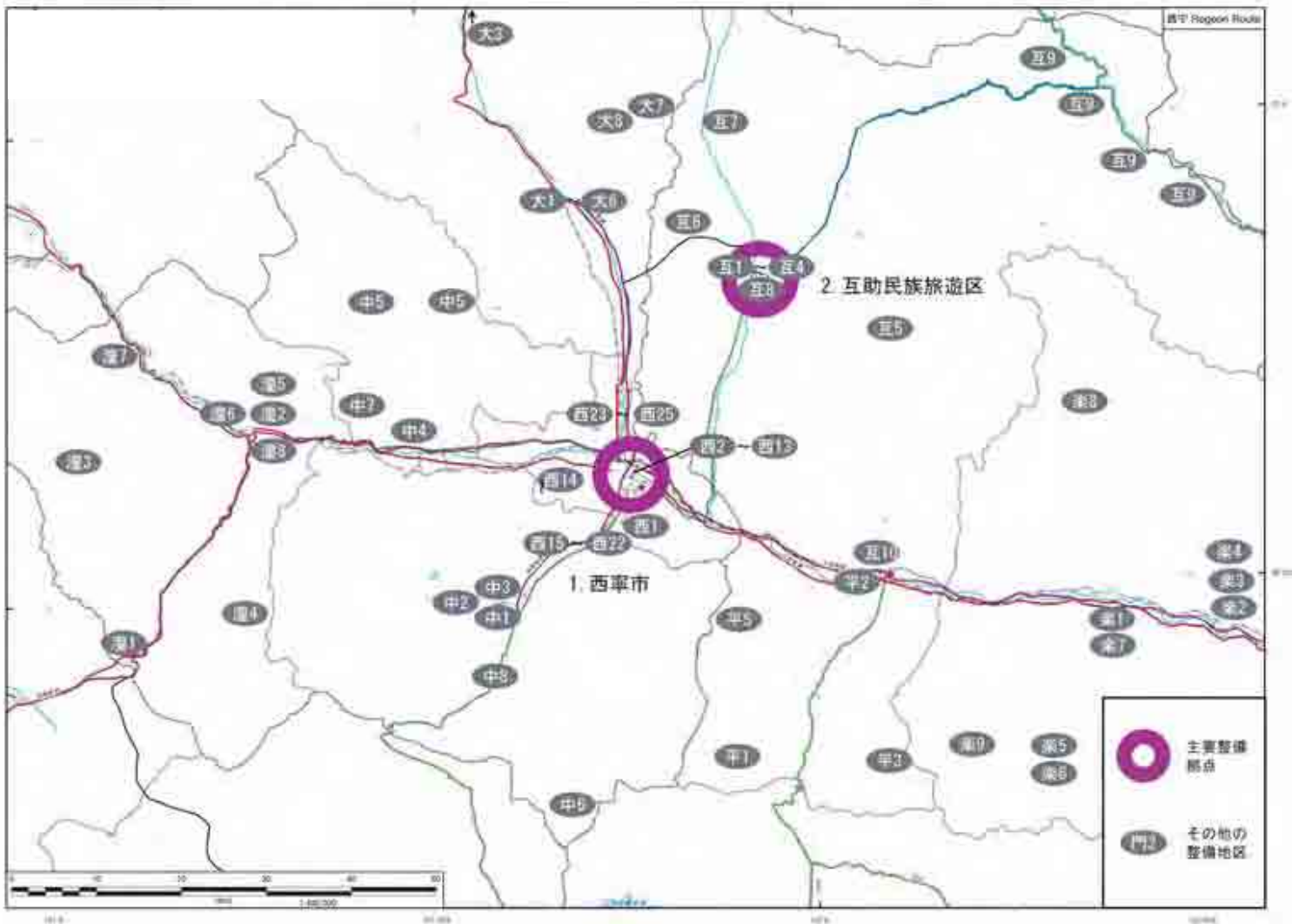


図 8.3.2 短期プロジェクト位置図（西寧観光拠点都市）

(1) 西寧観光拠点都市の交通施設整備

環西寧圏の玄関機能である交通拠点は、西寧空港、青蔵鉄道の拠点駅となる西寧駅、及び主要幹線道路網である。

西寧空港は、滑走路と駐機場の拡張工事と新設ターミナルの整備が完了し、供用が開始された。しかし、空の玄関に相応しいターミナル周辺の景観整備、西寧や周辺都市への路線バスの導入とバスターミナル整備、タクシー乗り場整備、送迎者乗降場所の整備、ターミナル内の観光案内設置が必要である。また、北京市、上海市、広州市などの大都市観光市場、及び国際ハブ空港を結ぶ既設航空路線の増便と合わせ、国内の主要観光市場や香港等との新路線開設を継続的に目指し、空路利用の観光需要に応じた機能の拡充を図る。

西寧駅は、青蔵鉄道延伸・規格改良による利用客の増大に応じた機能強化、鉄道利用客に対する玄関機能強化による利便性向上を図る。既存の駅舎の大規模な内部空間を活用した観光案内所の開設や待合室の増設、西寧市内や周辺都市への路線バスルートの整備によって、観光利用客の利便性を向上させる。

道路網は、蘭西高速が広域幹線道路として東西に縦貫しており、西寧市を拠点とする放射・環状道路網の形成が目指されている。現在、大通と湟中への放射高速道路が供用され、互助と阿岱への高速道路が建設中である。内環状道路は、放射環状の起終点である平安～互助～大通～多巴～湟中～阿岱～平安を結ぶ路線で第十一次五ヵ年計画以降の整備が予定されている。外環状道路は民和～門源～海晏～青海湖 151 基地～共和～貴徳～同仁～循化～民和を結ぶ地区の幹線道路レベルの整備が進められ、放射幹線と外環状道路の拠点間の道路拡充整備も進められている。これら高速道路と放射・環状幹線道路網により、西寧周辺の大部分の観光地へのアクセスと観光サーキットの骨格が形成される。

(2) 西寧市中心地区の観光アメニティーゾーン・親水地区整備

西寧市では、中心市街地の再開発が進められる一方、西部と南部においては新市街地の開発事業が大規模に進められている。西寧市の第十一次五ヵ年計画では以下の観光開発事業が予定され、既存CBD地区である城中市街の都市再開発（観光アメニティーの再生²³）が計画されている。

また、紅軍西軍記念館や城壁、歴史的な虎台の指揮台の修復と周辺練兵場跡地の園地整備など、歴史観光スポット化へ向けた整備事業も計画されている。その他、東関清真大寺、文廟、青海省博物館等の既存観光スポット活性化のための補足的な整備事業の実施が期待される。

²³ 特産・土産品販売の開発・販売、各民族の伝統民謡・舞踊を中心とする伝統芸能センター、飲食・娯楽、宿泊機能拡充のための都市再開発

表 8.3.1 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（西寧市中心地区）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
西.1	紅軍西軍記念館	城中区	記念館整備	3,000
西.2	5星ホテル	城中区	新規建設	20,000
西.3	水井巷商店街改善	城中区	再開発・近代化	5,000
西.4	山峡会館修復・改善	城中区	歴史的建造物の修復・再建	2,000
西.5	西寧城跡修復	城中区	城壁の修復・保護・環境整備	7,000
西.6	夏都大劇場	城中区	劇場・土産・娯楽施設、駐車場	50,000
西.7	青海名物センター	城中区 71路	物産店・販売店、娯楽施設など	18,000
西.8	長江路飲食・娯楽センター	城中区 長江路東	3ha 再開発	10,000
西.9	北大街ファッションタウン	城中区 大通路	再開発	2,000
西.10	青蔵高原文化展示センター	城中区	人民映画館の改装（文化・服飾展示）	8,000
西.11	城西区酒店・ホテル	城西区	5星ホテル新規建設	5,000
西.12	青海民族民俗風情園	城西区	40ha（600苗）再開発、娯楽、飲食、宿泊、会議、民族舞踊など	20,000
西.13	虎台修復・ホテル開発	城西区	古代練兵場・指揮台整備、及び新規18階3,000m ² のホテル建設	3,000
西.14	蘇家河湾薬水泉	城西区	泉周辺地区の環境整備・園地整備	5,000
西.27	文廟	城東区	建物の保全・歴史的街区整備	5,000
西.26	東関イスラム寺院	城東区	建物修復・保全・観光利用	3,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 西寧市第十一次五ヵ年計画

（3）西寧市城南区の新観光副拠点開発

湟中県では、西寧市街地の飛び地である城南新区開発が進展しており、城南区として西寧市への編入が予定されている。城南区開発では、宿泊施設、温泉保養施設、スポーツ施設、特産品センターなど多様な観光施設の開発・整備が大規模に計画され、西寧市の既存観光拠点に対する新たな観光副拠点機能の形成が目指されている。また、西寧市の南山山麓一帯では、省都・緑化整備事業だけでなく観光・レクリエーション施設整備も計画され、新たな森林レクリエーション・スポットの形成が目指されている（ただし、緑化事業の成果は第十一次五ヵ年計画以降の中長期目標である）。

表 8.3.2 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(西寧市城南区)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
西.15	大南山旅遊休暇区	市南部(城東・城中区)	森林公園、動物園(人民公園からの移転)、スキー場、風情館、ゴルフ場、キャンプ場等の整備	50,000
西.16	城南新区大型スキー場	城南区	雪と草スキー場(冬・夏利用)開発	10,000
西.17	夏都国際温泉休暇村	城南区	既に掘削済みの温泉を利用し、4星温泉ホテルの建設	30,000
西.18	城南新区5星ホテル	城南区	ホテル・商談・会議・娯楽施設整備	20,000
西.19	青海国際絨毯センター	城南区	絨毯の展示・販売施設整備	15,000
西.20	手作り絨毯館	城南区	手作り絨毯づくり見学、展示・販売施設整備	12,000
西.21	西寧自然公園	城南区	45ha(680苗)、都市公園整備	6,000
西.22	西寧科技館	城南区	科学技術展示、体験館(3ha)の整備	9,500

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 西寧市第十一次五ヵ年計画

(4) 西寧市城北区の観光スポット整備

湟水以北の城北区では、中期開発を目指し北禅寺の石窟の修復と周辺の景観整備・観光スポット化による魅力・質の向上を目指す。その他にも、自然系・歴史遺産の観光スポットの整備も計画されている。

表 8.3.3 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(西寧市城北区)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
西.23	北禅寺「九窟十八」修復	城北区	石窟の修復、環境整備	13,000
西.24	沈那遺跡二期整備	城北区	緑化、環境整備、原始部落館建設等	8,000
西.25	青海生態農林山荘	城北区	改築	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 西寧市第十一次五ヵ年計画

(5) 西寧市城東区の親水スポーツセンター整備

西寧市城東区では、寧湖風景区整備が湟水北岸で進められている。第十一次五ヵ年計画では体育訓練施設を中心に休憩・娯楽施設の拡充整備が計画され、市民だけでなく省内・外のトレーニング・レクリエーション拠点としての活用が期待される。

(6) 観光拠点都市としての都市美化・環境整備

現在、蘭西高速道路の沿道緑化が進められ、市内の幹線道路でも沿道の再開発事業に合わせて道路と歩道の再整備、沿道景観の整備・美化が進められている。

今後、青海省都・観光拠点都市形成に向け、城中・城西区の観光拠点機能が集中する地区、湟水沿岸の人民公園や南川の親水地区では、街路樹植栽や街灯、道路案内・観光案内板・観光案内所の設置、歩きやすい歩道など、観光客の利用に適した環境整備事業とゴミのない綺麗な環境維持対策を実施する。西寧駅周辺や整備事業計画が予定されている観光スポット周辺では、同様の事業と対策に加えて駐車場の整備を実施する。また、観光拠点・副拠点や駅、空港、主要観光スポットを結ぶ市内の観光ルートでは、道路・沿道の美化・清掃を実施する。

(7) 湟中県のタール寺観光スポット整備

湟中県では、青海省を代表するタール寺観光スポット周辺の蓮花山湖や南佛山等の整備、タール寺地区の拠点化整備が第十一次五ヵ年計画の対象とされている。また、道教建築・文化と古代古墳・遺跡等の新たな文化観光地区整備、エコツーリズム地区の整備が計画されている。既存の多巴高原国家体育訓練基地を拡充整備し、国内だけでなく国外市場も含めた高地トレーニングセンターの形成が提案される。中長期には、自然系観光地区や崑崙文化にまつわる伝説の地等、新たな観光地区開発が計画されている。

表 8.3.4 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（湟中県）

図中番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト(万元)
湟.1	タール寺周辺 (魯沙尔鎮 葯水灘 南佛山)	魯沙尔鎮	タール寺道路・環境整備、文化・娯楽施設整備	4,000
湟.2	蓮花蓮花山(湖) 旅遊風景區	魯沙尔鎮	タール寺周辺の湖畔の文化・娯楽施設整備	4,700
湟.3	南佛(朔) 山景區	多巴鎮	タール寺周辺の文化・娯楽施設整備	4,700
湟.4	扎麻隆～多巴旅遊區	多巴鎮	道教建築・文化観光スポット整備	4,000
湟.5	上五庄～李家山旅遊區	上五庄鎮、李家山鎮	古代歴史観光スポット(崑崙文化の古墳と彩陶土器等)	4,000
湟.6	群加生態旅遊區	群加蔵族郷	文化・娯楽施設、群加營林場、積雪地帯、峡谷、山峰、原始森林景観整備	12,000
湟.7	多巴高原国家体育訓練基地	多巴鎮	国際的な高地スポーツ・トレーニングセンター再整備	6,000
湟.8	上新庄薬水泉	上新庄鎮	山水レジャー、「紅河原」ミネラルウォーター水源地整備	2,000
湟.9	扎麻隆鳳凰山	多巴鎮	九天玄女生誕地、崑崙文化の重要要素のスポット整備	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 湟中県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

(8) 湟源県の日月山スポット整備

湟源県は、第十一次五ヵ年計画において日月山景区の拡充と質の向上を目指すと共に、県都・城美鎮の歴史的街区や湟源古城、湟源城隍廟などの歴史的街路景観を修復・保全して歴史観光スポット化を目指す。

中長期では、日月山周辺で夏都徑地雪域風情園を新たに開発して日月山周辺の観光集積を高めると共に、大黒澤のエコツーリズム地区、貨石山の探検地区開発、巴燕郷の扎蔵寺・チベット仏教寺院を整備し、観光プロダクトの多様化を目指す。

表 8.3.5 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（湟源県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
源.1	日月山景区（第二期整備）	日月蔵族郷	散策路、蔵族文化館、接待施設、石刻走廊など	2,800
源.2	茶馬互市古建築一条街	城美鎮	建築補修・復元、歩道、インフラ施設など	6,000
源.6	湟源古城	城美鎮	城壁、及び古建築の保全、観光利用	2,000
源.8	湟源城隍廟	城美鎮	伝統宗教神社の修景、観光利用	2,000
源.3	大黒溝生態旅遊景区	東峽郷	景区内道路、インフラ、飲食、娯楽、休憩、テントなど	1,090
源.4	貨石山探検旅遊景区	日月蔵族郷	道路、インフラ施設、飲食・宿泊施設など	1,200
源.5	夏都徑地雪域風情園	城郊郷黨家庄村	蔵式建築・展示館、テント、記念館、娯楽・飲食施設など	3,000
源.7	扎蔵寺	寺寨郷	チベット仏教寺院の修景、観光利用	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 湟源県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

(9) 大通回族土族自治県の橋頭鎮と大通森林公園の整備

大通回族土族自治県は、第十一次五ヵ年計画で西寧を中心とする都市住民の日帰り観光の回復・拡充を目標に、県都・橋頭鎮の歴史・文化観光スポットの改善、橋頭鎮に近い大通森林公園、及び仏教地区の整備に努力を傾注している。一方、地区の観光資源は必ずしも省内の市民向けだけでなく、省外や外国からの観光客にも対応できる価値を有している。また、シルクロード南ルート上にも位置しているため、長城遺跡の活用・観光地区化を含む観光プロダクト開発を進め、対象市場を拡大して西寧観光拠点都市の主要な日帰り観光地形成を提案する。

計画の開発プロジェクトは、橋頭鎮で市の中央公園でもあり春のお祭り広場ともなる北川河旅遊觀光帯（川敷公園）内の施設の改善・拡充、道教寺院のある風光明媚な老斧山の道路・遊歩道などのネットワーク改良、娘娘山の道路・自然探勝路網整備、地場産品や土産品販売店の整備が上げられ、それらに加え市内の長城遺跡の観光利用整備を提案する。橋頭鎮の北 10km に位置する大通国家森林公园の察汗河風景地区では、農家民宿や農家レス

トランの開発・営業が既に振興されており、地区へのアクセス道路整備や公園内のネットワーク整備を提案する。

中長期においては、橋頭鎮を中心とする歴史・文化観光地区の質を高め、省外・外国人観光客のニーズに対応した施設整備とプロダクト化を進め、その他の市内の土産品販売拠点整備、及び省を代表するアルミニウム工場の産業見学・産業観光化スポット、北山森林公園の鷓子溝淘景区や広恵寺地区整備を進め、周辺都市の市民の余暇・日帰り観光地区として強化する。

表 8.3.6 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（大通回族土族自治州）

図中番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト(万元)
大.1	北川河旅遊観光帯	大通県城(橋頭鎮)	緑地帯、彫塑、娯楽施設(リクレーション)、食飲店、観光亭、観光長廊、水上釣堀、遊船娯楽施設など	10,000
大.2	老斧山風景名勝区	大通県城(橋頭鎮)	前後山道路舗装、遊歩道、長廊、駐車場、インフラ施設など	2,500
大.3	娘娘山生態旅遊区	大通県城(橋頭鎮)	3級道路改善、登山路、駐車場、インフラ施設	3,400
大.5	長城観光	大通県城(橋頭鎮)	アクセス道路、駐車場、観光案内板、園地整備など	4,000
大.9	大通県国家森林公園察汗河風景区	宝庫郷	景区内道路、駐車場、観光遊歩道、インフラなど	4,000
大.4	建国東路旅遊土産買物一条街	建国東路(橋頭鎮)	総合市場、駐車場など	6,000
大.6	青海アルミニウム工業有限公司	大通県城(橋頭鎮)	工場見学施設整備(産業観光、児童・生徒の産業見学)	1,000
大.7	大通県国家森林公園鷓子溝淘景区	東峡鎮	観光3級道路、4級支線路、景区観光歩道、駐車場、インフラ施設	4,630
大.8	広恵寺民俗宗教旅遊一条街	東峡鎮	広恵寺～大通国家森林公園道路改善、商店街改善、山門、駐車場など	8,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 湟源県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

(10) 互助土族自治州の土族伝統文化観光スポット整備

互助土族自治州は、青海省の3大観光地となっている県都周辺の土族民族風情観光区の規模拡大と質の向上を図り、土族刺繍村、青果酒物産センター等の開発を計画している。これらの観光地区整備に合わせ、1,300室規模の宿泊機能を有する民族風情村・民宿の集積を誘導すると共に、伝統的な民謡だけでなく舞踊、生活文化や料理、接客サービスに関する講習会を実施し、青海省の民俗風情村開発のパイオニアに相応しい観光プロダクトの質の向上を図る。これら県南部の観光開発に合わせ、後述の祁連山観光サーキットの拠点となる広大な北山国家森林公園を活用した週末観光拠点開発を進め、西寧・湟水谷地域や蘭州の都市住民を市場とする観光プロダクトを開発し、相互に連携の取れた観光プロダクト開発も目指す。

中長期では、県内の他地域に分布する潜在観光資源の活用と観光プロダクトの多様化を目指す。祐寧寺と白馬寺の宗教観光地区、五峰寺の「民歌（花卉）苑」観光地区、南門峡の池周辺のレクリエーション地区開発を計画している。

表 8.3.7 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（互助土族自治県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
互.1	土族民族旅遊区	威元鎮	土族伝統家屋、伝統民謡・芸能 演舞場、土族文化展示館、 駐車場、環境衛生施設、	670
互.2	中国土族刺繍專業村	威元鎮	デザイン・作業室、展示室など	100
互.3	国家 4A 級故土国中心 景区	威元鎮 (6km ²)	民族旅遊区、休閒渡假区、 食飲買物区、高原文化展示区	6,000
互.4	中国青裸麦酒物産館	威元鎮	陳列・販売館	600
互.8	北山国家森林公园	加定鎮	ビジターセンター、林間学校、 宿泊施設、環境衛生施設など	6,000
互.5	祐寧寺宗教観光朝観 旅遊渡假区	五十郷寺 灘村	歴代高僧大徳記念館修復、展示 館、現有殿堂修復、大門修復	800
互.6	五峰山青海 「民歌（花卉）苑」	五峰郷 北多脳村	大型「花卉」演唱表演区修復、 民歌資料展示館、山門	600
互.7	南門峡旅遊渡假区	南門峡 水庫区	主要建設渡假区別野群、 旅遊観光、魚釣り場	600
互.9	白馬寺	紅崖子澤口	チベット仏教寺院の保全・利用	800

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 互助県第十一次五カ年計画、及び JICA 調査団

（11）楽都県の柳湾遺跡観光スポット整備

短期・第十一次五カ年計画では、高苗鎮の彩陶博物館と柳湾遺跡の整備、瞿曇鎮の瞿曇寺の修復・整備に重点をおいて観光施設を集積させ、環西寧圏における主な観光地区開発、及び観光プロダクトの形成を目指す。

中長期的では、展伯鎮の西来示の古典的中国庭園・博物館の観光利用や上北山省森林公園の倉家峡エコツーリズム開発による観光プロダクトの多様化を目指す。また、瞿曇寺周辺地区や高苗鎮の長里で民族村や休暇村び開発が計画されているが、地域住民の伝統的な生活文化や環境に対する意識を高め、独自性が高く特徴を際立たせた観光村の形成が肝要である。開発に際しては、当地区の観光イメージをリードする歴史・文化観光地区に相応しい調和の取れた施設開発が求められ、省内都市住民を対象とする週末の飲食を中心とする余暇施設の整備には十分な配慮を要する。県が整備を計画する展伯鎮の新楽公園整備や崗溝鎮付近の湟水川ライトアップ等のプロジェクトは、省文化庁や都市基盤整備事業との調整が必要である。

表 8.3.8 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(楽都県)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
楽.2	彩陶博物館	高苗鎮	彩陶博物館拡張整備	2,000
楽.3	柳湾墓地	高苗鎮	新石器・青銅時代の文化遺跡周辺の 修景・施設整備など	6,000
楽.5	瞿曇寺	瞿曇鎮	寺院修復、修景整備など	6,000
楽.1	新楽公園	展伯鎮	公園、大門、記念塔など	2,000
楽.4	長里民俗村	高苗鎮	民俗村、苹果園休閒施設など	6,000
楽.6	瞿曇寺周辺区	瞿曇鎮	瞿曇寺周辺生態環境建設、葉草台森 林遊歩道、瞿曇民俗村、葉草台寺維 修、及びチベット医薬	6,000
楽.7	七里店黄河灯	崗溝鎮	湟水と併走する国道沿いにライトア ップ	4,000
楽.8	上北山森林公園 倉家峡登山線路	引勝郷	上北山省森林公園の登山道路、 エコツアー関連施設など	4,000
楽.9	西来寺	展伯鎮	古典漢庭園式宗教施設、博物館など	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト、

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 楽都県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

8.4 青海湖観光サーキット整備と観光プロダクト開発

3,200m を越える高原にある巨大な塩湖・青海湖は、北は祁連山系の 4,000m 前後の大通山脈、東を 4,000m 級の日月山の間々、南を 4,000m 弱の青海南山脈に包まれ、東西・南北が 150km を越える巨大な草原盆地の中に形成された内陸湖である。涼しい夏には周囲の雄大な緑の草原景観に包まれ、そこには希少かつ多様な水鳥の繁殖地である青海湖自然保護区の鳥島などの核心区がある。また、希少動物である普氏原羚が生息し、夏には群れを成して繁殖に遡上する湟魚の大群が河面を盛り上げるなど、豊かな自然資源に満ちている。一方、歴史・文化資源は青海湖の西に吐谷渾遺跡や壁画などの歴史的遺産が点在し、牧歌的な羊・ヤクの群れる牧草地には、チベット族の伝統的な生活文化や民謡や舞踊等の多様な民族文化などの人文観光資源も分布している。既に整備された青海湖周回道路と新たにラサまで延伸する青蔵鉄道を当観光サーキット形成の基盤とし、自然・人文資源を観光地形成に活用する。

この地域を清涼な夏の高原リゾート、高原スポーツ・レクリエーション、希少生態系のエコツーリズム、歴史・伝統文化を活用した文化観光などを整備し、多様かつ選択性のある観光プロダクトオプションを整える。冬期には、寒さを利用した冬期スポーツ・リゾート開発を進め、従来の夏季観光地としてだけでなく観光活動の平旬化を目指すと同時に、青海省の冬季観光地開発のパイオニアを目指す。



図 8.4.1 青海湖観光サーキット

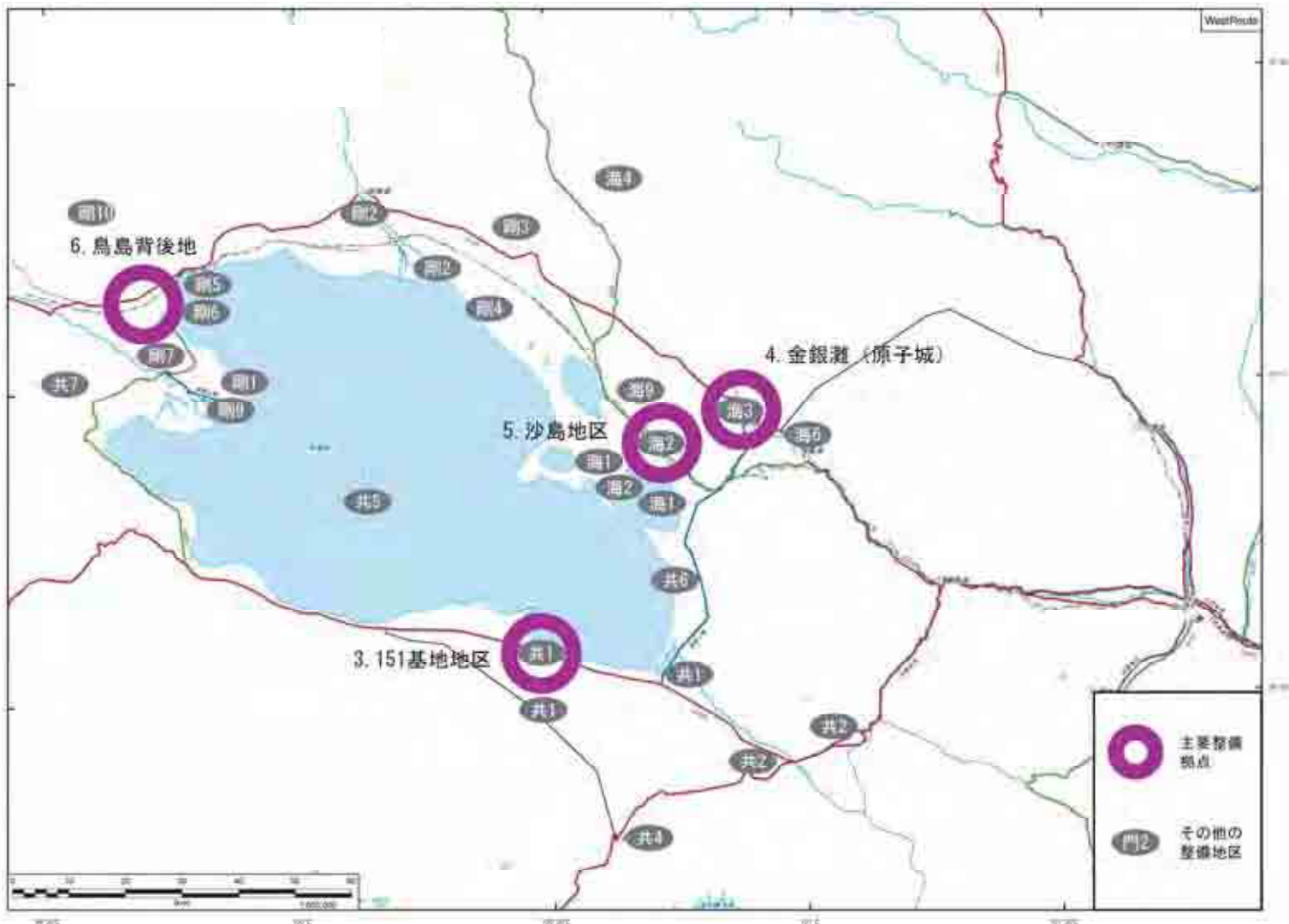


図 8.4.2 短期プロジェクト位置図(青海湖観光サーキット)

(1) 周回路・地区整備

青海湖観光サーキットの周回路は、西寧を基点とする高速道路・国道の道路網とラサへと延伸する青蔵鉄道が基幹となって構成され、既に青海湖を周回する道路が完成し供用されている。同時に、これらのネットワークは広域の青蔵観光回廊や唐番古道回廊、シルクロードの南ルートと柴達盆地ルート等へのネットワークを兼ね、これらの広域観光客に対する宿泊・休憩ポイントとしてだけでなく、滞在・立ち寄り形の観光拠点としての需要の増加が見込まれる。

道路網の整備はほぼ完成しており、一部で舗装の改善が必要とされる程度である。鉄道については、青蔵鉄道のラサへの延伸と複線化、新型車両の導入事業が進められ、主要な観光市場に関心が高まり観光客の大幅な増加が見込まれ、青海湖北岸の観光拠点開発に対応した新駅の開設、及び既存駅の改善事業が必要である。鉄道利用客の増加に応じた駅舎・駅前広場の整備と同時に、プラットフォーム、改札口、待合室、出札口、トイレ、観光案内所、タクシー・バス乗降場、駐車場や周辺の修景等、質的な改善も必要である。

青蔵鉄道旅客列車便の運行においては、青海湖北東岸ルート上の観光拠点での停車と需要に応じた増便など、鉄道の柔軟な運行・管理体制による協力を要する。

青海湖の湖上交通は、観光遊覧を兼ねた水上交通として活用されており、ルート整備、栈橋等の付帯的施設・設備の整備に合わせ、舟艇の更新や遊覧サービスの向上・改善策も必要である。「第6章 環境管理と観光振興の融合」にあるように、十分な環境配慮を要する。

中長期的には、西寧観光拠点都市を中心とする3つの観光サーキットの連携強化を目指し、祁連山観光サーキットの青石嘴鎮と当サーキット北東部に位置する西海鎮とを結ぶ西寧都市圏の外環状道路の新設・整備、南東部の青海湖151基地から黄河観光サーキットの龍羊峽・貴徳方面とを結ぶ外環状道路を整備する。

(2) 青海湖沙島湖畔・砂丘レクリエーション地区整備

青海湖沙島地区には青海湖岸で唯一大規模な砂丘が広がり、砂洲の成長によって小海や沙島湖等の小さな湖が分割・形成されている。従来、砂漠化・荒漠化対策が実施されて草地の回復が目指されてきた。同時に、青海省人民政府は、沙島の特異な自然景観・環境を利用し、青海湖の観光・レクリエーション開発をリードする拠点開発を決定した。一方、国家と省の林業局は、沙島を含む青海湖周辺の自然生態環境調査を実施し、2002年に沙島と周辺地区を国家第1級保護動物・普氏原羚の生息域と判定した。その結果を受け、国務院は青海湖周辺を青海湖国家自然保護区に指定し、鳥島、海心山等と一緒に沙島地区を核心区、その周辺を取り巻く地区を緩衝区に指定した。

生態調査から5年が経過した現在、地元情報では草食獣・普氏原羚は砂丘で草の少ない青海湖沙島地区ではほとんど見られず、沙島砂丘に続く西岸や東岸、南岸の草地に多く見られるとの情報も有る。科学的かつ詳細な生態調査を実施し、普氏原羚保護計画を作成して核心区、緩衝区、実験区の線引きを見直し、適正化を図ると同時に省観光開発方針との調整・整合を計る時期に来ているものと判断される。

自然保護区の線引き見直しの結果、青海湖沙島地区が核心区・緩衝区指定の解除を受け、第十一次五ヵ年計画で策定した青海省・海北州・海晏県の事業の実施が期待される。沙島地区観光開発計画は国家自然保護区指定の改定の結果に依拠する。国家自然保護区の規定

と現在の核心区指定では、沙島の開発は不可能であるが、前述したように指定見直しの時期にきていると判断される²⁴。改定されない場合は計画の実施が不可能である。

中長期においては、自然環境保護・保全との調整が完了して開発が可能である場合には、西藏鉄道ルート上の観光拠点として湖畔リゾート開発を促進すると共に、近隣にある白佛寺や湖東種羊場等の観光開発も進め、省内外の観光客を対象とする観光・レクリエーション地区形成を目指す。

表 8.4.1 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（海晏県 1）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
海.1	沙島、金沙湾基礎施設	青海湖郷	棧橋、接待施設、青海湖自然博物館、展望塔、広場、道路・インフラなど	5,330
海.2	沙島、金沙湾観光施設	青海湖郷	遊覧船、水上遊び施設、湖浜浴場、民俗風情園、砂丘滑走施設、熱気球、環境保護対策など	3,915
海.5	白佛寺	青海湖郷	チベット黄教寺院（大規模伽藍配置）の修景と観光利用	2,000
共.6	湖東種羊場	倒尚河鎮	観光牧場（生態観光を含む）	1,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 海晏県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

（3）青海湖 151 基地の南岸湖畔総合リゾート整備

青海湖南岸部は、湖面標高より 300 - 800m 高い青海南山が湖岸から 6 - 20km 南に迫り、北岸に比べて山麓のなだらかな草地が狭い。また、湖岸に沿って広域幹線国道 25 号が走り、国道以北の草地と水域は青海湖国家自然保護区の実験区に指定されている。南岸の国道沿いには大小の集落・町が形成され、東部には青海湖の漁業基地であった青海湖漁場（自然保護区指定に伴う禁漁で、遊覧船・湖上交通業に転業）、青海湖 151 基地、紅西溝郷、鳥島方面道路と国道の分岐点に位置する黒馬河郷が点在する。

青海湖 151 基地は、二郎剣・砂洲東側の波の影響が少ない箇所に機雷発射実験場として開発され、90 年代には実験場機能の移転に伴い施設の観光再利用が開始された。国道 25 号と湖岸との間に残された研究・管理施設の一部の建物を観光施設、及び管理・従業員施設として再利用し、レストランやホテル、テント等が新設された。また、151 基地から湖岸に沿って二郎剣まで未舗装道路が整備され、先端部には湖畔の休憩施設等も整備された。151 基地前面の湖岸には実験用船舶の船着場を兼ねた防波堤が整備され、30 - 40 艘の小型・中型観光船が利用し、沖合約 500m の機雷発射管理・監視棟は観光客の見学施設として活用されている。151 基地施設は観光的再利用を図る目的で共和県に移管された後、省旅遊局関連の青海省旅遊集団公司に開発権が移されてホテル等の新設・運営が開始された。移管された開発権は 151 基地だけでなく、紅西溝郷以東の湖岸と青海南山との間の広い地域をカバーしている。

²⁴ 改定された場合を想定した計画の概略を第 16 章に述べる。

151 基地隣接地では、国道沿いの区画された民間牧草地にテント村やレストランの開発が進行しており、新たな雇用発生を背景に域内外の地元集落も拡大しつつある。青海湖漁場では、禁漁後に観光産業を代替産業としてレストランを建設して入場料を徴収し、遊覧船を運営している。

共和県の第十一次五ヵ年計画では、南岸の青海湖観光地区に道路・インフラ、文化・体育施設、ホテルの整備を計画している。151 基地では、既存の老朽化した建物群の再開発を進めると共に、国道南側の緩傾斜地を利用して観光牧場やスポーツ施設、リゾート宿泊区の整備、二郎剣の親水スポーツ地区整備を進め、青海湖観光サーキットの観光拠点の形成を目指す。海心山は東西 2km、南北 1km の鍬型をした島で、青海湖自然保護区の指定に伴い野鳥繁殖地の保護を目的に核心区に指定された。一方、同島にある道教古刹は古くから道教聖地の一つとされ、冬季には氷結する湖面を徒歩で参拝するとも伝えられ、現在も寺院が維持されて国外からも敬虔な信者が青海湖漁場から漁船で参拝している。海心山は青海湖の湖心に位置しており、広大な青海湖の湖上交通や遊覧の休憩や野鳥観察の拠点として活用が期待されるが、現在の周辺海域を含めた核心区、及び周辺の緩衝区の指定下では既得権のない観光利用は容認されない。冬季等、野鳥が飛び去った時期においては、自然生態保護との調整の下に、海心山往復ノルディックスキーレースや徒歩での参拝ツアー（湖岸から最短で 15km、二郎剣から 35km）等の活用を提案する。

中長期では、省外客と外国人客の増加に伴う中・高級の宿泊施設や観光プロダクト需要の増加が見込まれる。それに対応した宿泊施設開発を二郎剣と国道間の湖畔リゾート予備地に集積して開発し、宿泊施設集積が 5,000 室を超える前に南岸部の青海湖漁場などで第二の新たな宿泊拠点開発に着手する。

表 8.4.2 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（共和県 1）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
共.1	青海湖景区	江西溝郷	道路・インフラ、二郎剣親水観光区、湖畔公園、遊園地、民族物産・飲食区、観光牧場、雪・草スキー場、宿泊施設区など	22,431
共.5	海心山、三枚石	恰卜恰鎮	野鳥、道教	1,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 共和県第十一次五ヵ年計画

（4）原子城・金銀灘リゾート整備

海晏県は、第十一次五ヵ年計画において、90 年代に核研究施設の跡地を利用して開発された新しい海北州の州都・西海鎮を中心とし、原子力の開発研究を記念する諸施設・公園を整備し、国道 315 号沿いの既存観光地の改善・拡充による新たな観光拠点づくりを目指している。

核研究記念施設や公園整備は、立ち寄り型の観光地として省内外の観光利用が期待できるが、滞在型の観光拠点の形成が難しく、青海湖沙島自然保護区周辺の観光地等の観光プロダクトと連携した宿泊拠点機能の整備が不可欠である。

東大灘ダムは湟水に造られた人造湖で、金灘郷にある既存のテント村・金銀灘に隣接しており、親水性レクリエーションと自然探勝の場としての整備が計画されている。夏格日山は初夏まで山頂に雪の残る山であるが、比較的軽装で山登りが可能であり、広大な青海湖と周辺の草池を一望する展望スポットとしての活用を目指して夏山登山用のルート、休憩・展望スポット整備を計画している。

短期には青海湖沙島地区開発と調整しつつ、金銀灘のテント村を含めて1,500室前後の宿泊施設集積を目指す。中長期では、夏格日山の夏山登山や東大灘ダムの湖畔園地等の観光スポット整備を進め、国道315号沿いの観光プロダクトの多様化を目指す。

表 8.4.3 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（海晏県2）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
海.3	原子城（金銀灘）	西海鎮	王洛賓音楽生平展丁、原子博物館、飲食・買物・娯楽・宿泊施設、市民公園	16,850
海.4	夏格日山	甘子河郷	夏山登山・トレッキング施設、記念碑など	1,000
海.6	東大灘ダム	金灘郷	人造湖の湖畔園地整備	1,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 海晏県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

（5）沙柳河鎮・国营農場整備

剛察県は、第十一次五ヵ年計画において主に3地区での観光開発を計画している。最も重点を置いているのは鳥島の自然保護核心区周辺の生態観光拠点整備で、次いで県都・沙柳河鎮、及び周辺地区における民族風情村・宿泊拠点開発とネットワーク整備、その次に湖岸の沙陀寺周辺の観光地点整備である。

県都・沙柳河鎮周辺では、夏に沙柳河を遡上する湟魚の大群等、沙柳河沿いや湖岸湿地の自然資源を活用した生態観光地の整備、ホテルや民族風情村を整備し、観光拠点の形成を開始する。また、湖岸部の国营農場が既にコテージ型の宿泊施設を開発して観光業を開始しており、これらの既存開発による国内客を対象とする農村・牧畜観光プロダクト開発を地区観光の軸とし、沙柳河鎮の国营農業の拡充、湖岸東部の拾尔盖郷にある国营牧場の一部を観光牧場として整備する。これらの観光農場・観光牧場や民族風情村などの宿泊機能を短期で500室程度を目標に整備し、省内外の観光客の需要に対応する。

中長期では、国道315以北に位置する剛察大寺の観光利用に向けたスポット整備や瓦彦山旅遊区等の開発を進め、観光プロダクトの多様化と宿泊機能の強化を促進する。

表 8.4.4 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(剛察県1)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
剛.2	沙柳河鎮観魚長廊、 及び民俗風情村	沙柳河鎮	水上廊下、風情渡假村、剛察賓館改 善3星、文化広場改善、沙柳河至青 海湖湿地道路など	7,150
剛.4	観光農場(国営)	沙柳河鎮	観光農業、宿泊施設	2,000
剛.3	瓦彦山旅遊区	哈尔盖郷	公共駐車場、瓦彦山賓館2星など	2,148
剛.7	剛察大寺	沙柳河鎮の 北40km	駐車場、観光サービス施設、案内板 など	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 剛察県第十一次五ヵ年計画

(6) 鳥島・沙陀寺生態観光拠点整備

剛察県西部では、水鳥の繁殖地で有名や鳥島地区周辺と青蔵鉄道の鳥島駅周辺にある泉吉郷の観光開発に重点が置かれている。

鳥島地区は、多様な水鳥の繁殖地として国家自然保護区の核心区に指定され、水鳥の生態観察観光の地として最も知名度が高い観光地となっている。地区内は、半島南端部の湿地帯、卵島、鶉島の3箇所が核心区に指定され、これらの地区の間にアクセス路と水鳥や野鳥観察用の施設(生態系への影響防止)が整備、または整備されつつある。これらへのアクセスとしてゲートから電気自動車を運行し、全ての入場者を静かにかつ大気汚染なしに観察地点へと輸送している。今後、音楽・会話・その他の騒音や夜間の照明等にも十分に配慮した地区内外の利用と施設の整備が必要である。

県の第十一次五ヵ年計画での鳥島地区の事業計画は、核心区内における水鳥の生態観察施設の再整備(環境対策)、地区ゲート付近の観光拠点施設開発に重点が置かれている。これら拠点施設開発は、建設時の騒音・振動・照明や運営時の夜間照明による生態系への配慮を要する。必ずしもゲート付近に集積するのではなく、青海湖西岸道路とアクセス道路の分起点である向公・布哈河口水文站付近、青蔵鉄道鳥島駅周辺や沙陀寺地区などとの間で機能を分担し、相互に連携の取れた拠点機能の開発・集積を提案する。新たな宿泊施設や飲食・娯楽施設等については、鳥島駅周辺と沙陀寺地区に重点をおいて開発し交通宿泊拠点機能開発を進める。短期では、沙陀寺地区でのテント村やその他ホテル開発、鳥島駅周辺の宿泊施設開発と向公地区の既存施設とを合わせ1,100室規模の宿泊施設集積を目指す。

観光スポット整備は、鳥島駅周辺地区ではチベット族の伝統的な青海湖礼拝の地となっているダライラマ5世の泉、その周辺に整備された祭海台の駐車場整備と観光資源周辺の修景・園地・案内板の整備を行い、歴史・文化観光スポットを形成する。その他、伏埃城址(共和県)や壁画等の歴史的遺産が周辺に点在しており、環西寧圏外であるが都蘭には吐谷渾の大規模な遺跡もある。これら資源への簡易なアクセス路整備や案内・情報板の設置、小規模な園路や修景整備を行い、歴史観光スポットの多様化を進める。また、布哈河では夏の観光シーズンに遡上・繁殖する湟魚の群が見られる等、水鳥以外の自然資源を活かした観光スポット整備も進め、鳥島地区全体として観光プロダクトの多様化を図る。

中長期には、より一層の訪問者・観光客の増加が想定され、生態環境保護との兼ね合いから、核心区に近接する水鳥観察地点への入場者数を安易に増やすのは問題となる。入場料金の値上げによる料金抵抗、または時間当たりの入場者数制限等の方法が必要となり、魅力的な代替観光スポットの整備・提供がより一層必要となる。同様に、宿泊施設や飲食・娯楽施設需要の倍加が予測され、これらの施設開発需要の開発・集積には、核心区の生態環境保護との調和の観点、及び鉄道利用客と道路利用客の量的需要を勘案し、沙陀寺地区と鳥島駅周辺の拠点に適切に開発を誘導する必要がある。

表 8.4.5 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(剛察県2)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
剛.1	鳥島景区	吉尔孟郷	飲食、宿泊、娯楽、休憩施設、野生生物博物館、道路・インフラ、文化広場、記念館、棧橋など	15,833
剛.5	祭海台、ドライラマ 5世の泉	泉吉郷	チベット族の青海湖礼拝地周辺の修景整備	2,000
剛.8	海西山 (卵島)	吉尔孟郷	青海湖の卵島核心区を野鳥観察施設の再整備(林業局)	4,000
剛.6	布哈河	吉尔孟郷	生態観光路整備(湟魚の遡上)	2,000
剛.9	哈龍岩画	泉吉郷	アクセス路・案内板	2,000
共.7	伏俟城	石乃亥郷	アクセス路と周辺の修景・案内板整備	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 剛察県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

(7) 倒淌河鎮、及び恰卜鎮

共和県は、青蔵高原回廊と唐番古道回廊の分岐点に位置する倒淌河鎮の拠点開発を狙い、宿泊・観光拠点機能の集積を目指すと同時に、県都・恰卜恰の温泉を利用した温泉リゾート開発を目指している。しかしながら、広域観光回廊の分岐点に位置する倒淌河鎮に期待される機能は観光情報や休憩・飲食場所の提供である。宿泊機能については西寧観光拠点都市や青海湖 151 基地に近く、小規模開発にとどめる事を提案する。県都・恰卜恰の温泉リゾート開発は、市内の飲食・娯楽施設の集積が低い状況にあり、大規模な日本型の温泉リゾート開発ではなく地元・省内客を対象とする温泉保養施設の整備を提案する。

龍羊峡へのアクセスには 3 つのルートがある。県は県都から湖岸経由で龍羊峡鎮へのルート整備を検討しているが、既存道は龍羊峡ダムの計画水位よりもかなり低く、水没を防止するには新設相当の大規模なルート変更を要するので、既存の日月山からの舗装道路の補修整備と休憩・展望台整備を提案する。

表 8.4.6 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(共和県2)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
共.2	日月山～倒淌川景区	倒淌川鎮	「貨夏牧苑」、ホテル、情報センター、小泊湖周辺整備、倒淌河街づくり	55,000
共.4	恰卜恰温泉度假区	恰卜恰鎮	温泉利用の休暇村	720

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 共和県第十一次五ヵ年計画

8.5 黄河観光サーキット整備と観光プロダクト開発

中原を潤す黄河が東西に縦貫するこの地域は、比較的標高が低く温暖な気候に恵まれ、水量豊かな黄河の流れ、河の両岸に広がる緑豊かな農地、周囲にそそり立つ奇岩・山肌剥き出した急峻な丹山、厳しい地形と緑の谷と河が織り成す変化に富んだ景観が展開している。その間には、黄河の豊かな水量を活用した龍羊峡や李家峡等の人造湖が点在し、李家峡脇には丹霞地形の奇岩で特筆されるカンブラ国家地質公園、甘肅省境には天池で有名な孟達国家森林公園が位置し、黄河流域の景観に大きな変化と潤いを与えている。また、黄河沿岸の農業地帯では、地域の名産・特産とされる果物や野菜が豊富に生産され、ペルシヤの言葉と伝統的な生活文化を引く継ぐサラ族や、チベット族、回族などの少数民族の伝統的な生活文化豊かな村や町が点在している。同時に、古くよりチベット仏教・文化の回廊となっているタール寺から同仁、甘肅のラプラン寺を経るルートが南北に横断し、同仁の街には原初に近い大規模な伽藍配置を持った多数の寺が残されている。その周辺には伝統的な宗教美術・熱貢芸術の街並みが集積し、今も生きた産業として省内の各寺院の仏像、仏具や内装品を一手に生産している。質の高い仏画は、仏教徒だけでなく観光客にも土産品として高い評価を得ている。観光拠点として、貴徳、李家峡・カンブラ、同仁の3地区を対象として宿泊施設の開発・集積を図る。また、地区内、及び周辺の観光資源を活かしたエコツーリズム、歴史・文化観光、風景探勝、各民族の伝統文化等の観光地区整備を進める。

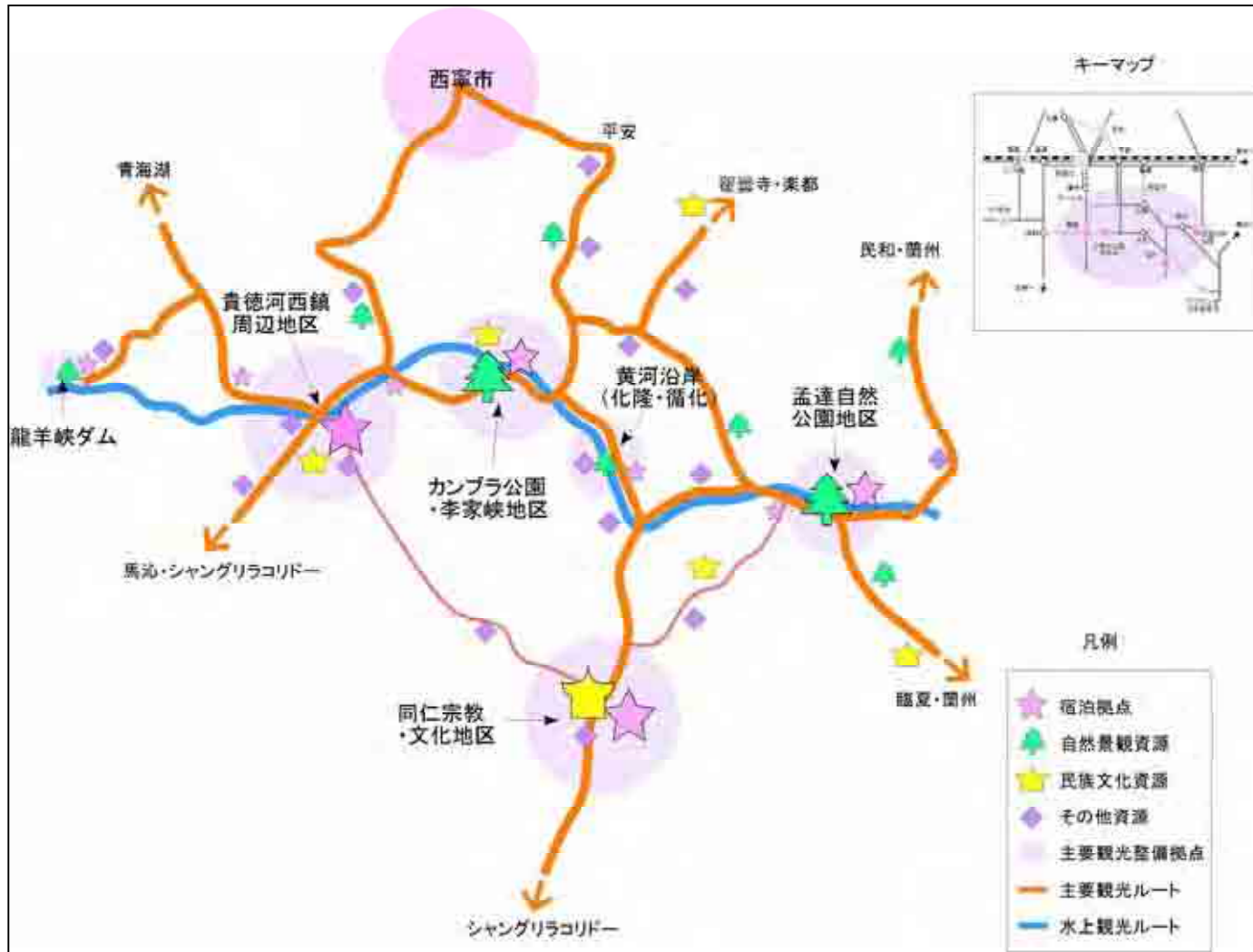


図 8.5.1 黄河観光サーキット

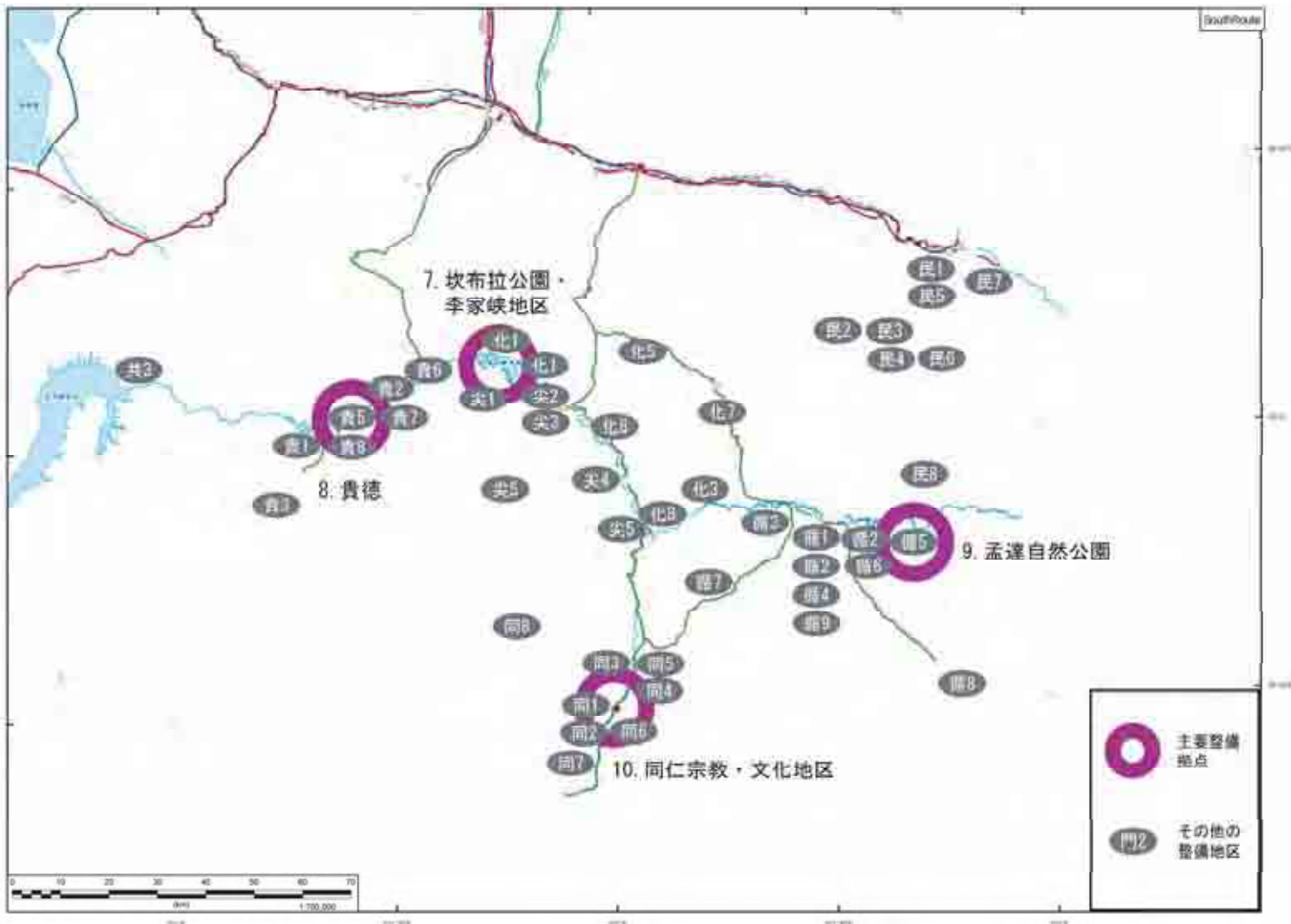


図 8.5.2 短期プロジェクト位置図 (黄河観光サーキット)

(1) 周回路・地区整備

黄河観光サーキットは、南北に走る 5 つのルートとそれを東西に結ぶ 2 つのルートから構成される。南北ルートは、一番東が蘭西高速の民和と孟達を結ぶ道路、東から 2 番目が蘭西高速の楽都から瞿曇寺、化隆を経て循化へ至る道路、3 番目は蘭西高速の平安から整備中の放射環状道路で扎巴へ出てカンブラへ至る道路、4 番目は放射環状高速道路で湟中・タール寺を經由で貴徳へ至るルート、西端の 5 番目は高速道路の日月山から龍羊峡近くを經由して貴徳へ至るルート等、観光プロダクトに合わせて選択性の高いルート構成を既存・整備中・計画中の道路網から選定・整備する。また、これらの南北ルートは概ね湟水谷から一山越えて黄河谷へ下るルートであり、ルート上には峠からの眺望ポイントや溪谷美を採勝できる区間がある。そのため、各々の路線・区間において展望台や休憩ポイントを整備して観光サーキット形成要素とする。

南北 5 ルートを東西に結ぶルートとしては、黄河の北側を貴徳から扎巴、化隆へと結ぶルート、黄河の南側を貴徳からカンブラ、同仁、化隆、孟達へと結ぶ整備中の外環状道路を整備する。東西の 2 ルートは黄河谷の両側にそそり立つ急峻な山の裾野、中腹、尾根をぬって黄河と併走する道路であり、黄河谷の溪谷美や珍しい景観地点には南北ルート同様に展望台や休憩施設を整備し、観光ルートに相応しい快適なルート整備を行う。東西ルートには黄河の河下りルートを加え、龍羊峡～貴徳、貴徳～李家峡、康揚～公伯峡、公伯峡～孟達の 4 区間で整備する。また、道路だけでなく水上ルートを整備することで、黄河沿いに展開する観光拠点や観光地点を船で結ぶ多様かつ選択性の高いルートを構成する。水上交通拠点では、カヌーやカヤック等の黄河下りスポーツ・レクリエーションの拠点としても活用する。

(2) 李家峡とカンブラ国家森林公园、カンブラ国家地質公園

尖扎県と化隆県にまたがる当地区は、急峻な丹山が黄河の両岸に迫り、そこに李家峡ダムが建設されている。ダムの建設に伴い、康揚鎮からカンブラ鎮、ダムサイトへと道路が建設された。さらに、ダムサイトからカンブラ国家森林公园・国家地質公園へと観光道路が整備され、現在黄河南岸を貴徳とカンブラ国家森林公园を結ぶ広域道路が急ピッチで建設されている。また、化隆県では李家峡、及び黄河の北岸に東西広域幹線道路新設の予算を確保し、2006 年からの事業化を決定している。これらの道路は黄河の南岸と北岸を東西に結ぶ地域道路であると同時に、黄河観光サーキットの観光道路としての機能をも担う。

2004 年に完成・供用されたダムサイトと森林公園を經由して李家峡を結ぶ道路は、北部の河川敷内に整備した区間が 2005 年夏の洪水で流失した。ダムサイトから徳洪公園管理事務所の間の盛土区間も谷川に滑って路盤に亀裂が走り、10 - 40cm の段差が生じて落石も頻発している。黄河谷は長期にわたる黄土層の沖積層から形成され、地質・地盤条件が不安定で、それに配慮した十全な設計基準の適用と特別な工法・処理の導入による再整備も必要と考えられる。現在、道路新設工事の行われている貴徳・カンブラ国家公園区間においても同様の配慮が必要な区間があると想定され、安全性確保の視点から、当面大型・重量車両の交通を制限する必要がある。

カンブラ国家地質公園には、黄河谷を埋めて堆積した黄土層が風雨の浸食を受けて出来た珍しい丹霞地形の景観を有する。地区北側に形成された李家峡の湖面との組み合わせは黄河観光サーキットの一大景観地区となっている。これら風光明媚な李家峡とカンブラの

組み合わせは、景観探勝だけでなく生態観光や親水性観光活動を含む多様な観光プロダクト開発の可能性がある。

化隆県では、李家峡北岸の観光開発と連携した山麓部での観光スポット整備による観光プロダクトの多様化を計画しており、尖扎県では李家峡ダム下流に船着場施設を整備し、黄河沿岸のカンプラ鎮、県都・馬克拉鎮等で河下りと連携した民宿村や別荘地、余暇村等の観光スポット整備を計画している。

中長期においては、南岸の貴徳～カンプラ国家公園～カンプラ鎮の道路が整備・安定され、南岸・公園側の観光利用が本格化できるようになり、国家公園の内外を利用した宿泊施設を含む観光拠点開発を進める。同時に、カンプラ公園内では短期で整備するロープウェーを徳洪ゲート地区から南宗地区まで延伸して公園内を南北に結び、新たな交通機能の確保と丹霞地形探勝観光施設として活用する共に、李家峡北岸に新たに開発する観光拠点との連携の強化を提案する。

表 8.5.1 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（化隆県、尖扎県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
化.1	黄河三峡旅遊区	李家峡北岸 ・黄河沿い地区	北岸湖畔リゾート、アクセス道路 (李家峡北岸広域道路)、船着場、 黄河渡假村、沙灘浴場、夏涼寺修 復など	100,000
化.8	康揚下流～ 公伯峡水上旅遊	康揚ダム～ 公伯峡ダム)	旅遊船、棧橋など	6,000
尖.1	カンプラ国家森林・ 地質公園	カンプラ鎮	接待サービス中心、インフラ施 設、宿泊施設、展望、博物館、飲 食・娯楽、ホールなど	17,075
尖.2	李家峡ダム	カンプラ鎮	棧橋、遊覧船、河川道路、河川敷 休暇村など（近中期）	3,340
尖.3	カンプラ鎮	カンプラ鎮	棧橋、旅遊プロダクト一条街、バ スターミナル・チケット売場など	1,352
尖.4	馬克唐鎮	馬克唐鎮	棧橋、尖扎県文化宣伝中心、尖扎 県文化公園、スポーツ会館など	4,080

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 化隆県、及び尖扎県の第十一次五ヵ年計画、JICA 調査団

（3）龍羊峡から黄河下り

龍羊峡は国内で 3 番目の貯水容量を持つ発電用ダム湖で、深く切れ込んだ溪谷に満々と水をたたえ、広大な湖面を形成している。ダム堤のある龍羊峡鎮へのアクセスは、共和県都からダム湖の湖岸を経由するルート（水位が上がると水没）、幹線国道 25 号の日月山から貴徳への地域の幹線道路から分岐し、龍羊峡ダム建設に活用された舗装道路の 2 ルートがある。当面は、日月山からの広域幹線道路を黄河観光サーキットの西端ルートとして整備し、そこから龍羊峡地区へ分岐する舗装道路をアクセス道路として整備し、溪谷の眺望が開ける地点にある既存展望地を休憩スポットとして再整備・活用する。

ダム建設完了後、寂れつつある龍羊峡鎮の活性化を兼ね、湖畔と黄河下りの観光拠点として、空洞化が進む龍羊峡鎮の都市インフラを活用しつつ小規模宿泊施設整備とダムサイト下流の黄河下り拠点整備を提案する。広大な湖面に対し、ダム堤から下流の谷は岩が深く切れ込むダイナミックな景観が展開し、黄河下流の貴徳に新たに作られたダム湖までの間を河下りルートとして活用するため、両ダムの下流と上流に船着場の整備を提案する。

表 8.5.2 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（共和県）

図中番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト(万元)
共.3	龍羊峡景区	龍羊峡鎮	道路・インフラ、水遊び施設、娯楽・飲食・サービス施設、河下り拠点、展望・休憩ポイントなど	5,800

備考 太字は県計画に JICA 調査団提案の開発プロジェクトを追加

出所 共和県第十一次五ヵ年計画、及び調査団

（４）貴徳・黄河のオアシスと歴史地区整備

龍羊峡から下流部の断崖絶壁の岩肌をむき出しにした溪谷は、貴徳の町の前後 30km では広い沖積盆地を形成する。その間を黄河の流路が複雑に分かれて島を作り、豊かな農地が展開している。貴徳は、マチンを経由する広域のシャングリラ回廊や玉樹への唐番古道回廊とも連携しており、黄河観光サーキットの観光拠点としての機能集積が望まれる。貴徳県では既に観光民宿の振興が進み、春の梨花祭や週末観光に訪れる県外客を対象とする宿泊機能を担っている。短期においては、これら地域経済への直接的な裨益効果の高い民宿を継続的に開発・促進して 500 室規模の集積を図り、同時に省外や海外からの観光客にも対応するホテル機能として 1,500 室規模を目標に開発・集積する。

貴徳県は黄河沿いの観光開発に努力を傾注しており、西部・上流域、中央部の県都・河阻鎮周辺、東部・李家峡への下流域の各々において、観光拠点と観光スポット開発を計画している。西部・黄河上流では、山坪台地区に宿泊施設を含む観光拠点を開発・形成し、黄河を活用した李家峡への河川交通と遊覧拠点の整備も計画している。県都・川阻鎮の周辺では、地場の特産を生かした観光果樹園整備、黄河沿いの観光スポット整備を計画している。また、李家峡への下流域でもスポーツ・レクリエーション・スポット整備と民宿村開発等、黄河沿いの観光開発が計画されている。町の南部にある温泉を利用し、温泉保養施設の開発が計画されている。

一方、町の中央部には城壁が取り巻く歴史的な町並みと歴史的な建造物が残され、町並み保全も進められている。歴史観光スポット整備とそれを活用した観光プロダクト開発、黄河だけでない歴史・文化観光プロダクトによる多様化を提案する。

中長期的には、短期の黄河沿い東西方向の観光開発に加え、唐番古道やシャングリラ・観光回廊開発の効果が重なり、新たな宿泊・観光機能の需要と休憩地点としての機能が求められ、集積規模の倍増が必要と見られる。

表 8.5.3 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(貴徳県)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
貴.1	山坪台黄河観光総合 開発	河西鎮 黄河西部南岸	道路、展望台、棧橋、遊覧船、 ホテル、娯楽など	28,000
貴.2	虎実崖旅遊総合開発	黒峡口・ 河東郷の対岸	ロープウェイ、魚釣、水泳、 スケートリンク、休憩、会議、 農家楽	5,000
貴.3	扎包熱水薬浴中心	扎包熱水溝	源泉、及び保養所	1,200
貴.5	賀尔加衣觀光園	河西鎮	百草園、梨苑、果物・野菜園	2,000
貴.6	黄河生態旅遊度假村	河東郷～李家峡	休憩、水上遊び、魚釣、水泳、 娯楽など	3,000
貴.7	貴徳温泉	羊峡外口	温泉ホテル	4,000
貴.8	貴徳古城	河阻鎮	城壁都市内の歴史観光	4,000

備考 太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 貴徳県第十一次五ヵ年計画、及び調査団

(5) 黄河北山麓チベットン・ルート

当ルートは、西寧から貴徳へ抜ける峠越えた朶址から、黄河北岸の拉鷄山・馬陰山の山麓部のチベット族居住地区をぬって整備中の放射環状道路の終点・扎巴に至り、そこから規格の高い整備済み道路で化隆県都に至る。

貴徳県は、起点となる朶址に交通拠点施設の整備を計画している。また、化隆県はルート上に西側から李家峡北岸・支扎蔵族郷、八宝山・雄先蔵族・查甫蔵族郷、昂思多鎮、馬明山（瞿曇寺から巴燕鎮への道路沿い）、合群峡・謝家灘郷の観光スポット開発を計画している。李家峡上流部北岸では生態観光地点の整備、八宝山地区ではルート上の眺望の優れた所に展望・休憩地点整備、貴徳から扎巴鎮に至るルートに変化と適切な休憩・観光活動の選択肢を与え得る。

中長期においては、昂思多鎮では温泉を活用した保養・療養施設整備、巴燕鎮の北部山麓には蒙古式テント村整備、合群峡地区では溪谷の上流に位置するダム湖周辺のレクリエーション地区整備等の観光スポット整備が計画され、扎巴鎮から黄河の甘都鎮に至るルートに適切な休憩・観光活動の選択肢の拡充を提案する。また、落石や路盤の滑り、道路開削に伴う法面の自然回復等の問題が解消すれば、楽都から瞿曇寺を経由して山越えて巴燕鎮に至る新設道路のサーキット区間では、同ルート南山麓部の馬明山の高原リゾート開発・観光拠点開発の将来性が高まる。また、黄河沿いの別荘地・休暇村開発地区や李家峡生態観光地区でも、カンブラ・李家峡観光拠点開発との連携による規模拡大や新たな観光拠点開発の需要が高まり、事業化の促進が提案される²⁵。

²⁵ 観光サーキットや広域観光回廊として観光利用を計画する道路の新設・改良事業においては、道路開削で発生する残土を谷側へ押し流さず、切土・盛土区間の法面を適切に処理し、法面の緑化なども実施することで、周辺に広がる自然環境・景観への負の影響を最小限に抑え、自然・生態観光を目指す環西寧圏、及び青海省のイメージが毀損しないよう配慮する必要がある。

表 8.5.4 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(貴徳県、化隆県)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
貴.4	朶址石林旅遊開発	朶址郷	道路・インフラ、バスセンター	6,500
化.4	李家峡北岸旅遊生態林	支扎蔵族郷	植林、野菜畑、遊船用棧橋、賓館、飲食施設、インフラ施設など	4,000
化.2	八宝山旅遊区	雄先蔵族郷・ 査甫蔵族郷	観光サーキット沿いの接待・サービス施設など	2,000
化.5	昂思多神区旅遊療養地	昂思多鎮	サナトリウム、保健所、インフラ施設など	4,000
化.6	馬明山避暑休暇旅遊区	巴燕鎮北部(瞿曇寺道路)	蒙古式テント、射撃場、飲食施設、道路・インフラ施設など	4,000
化.7	合群峡旅遊区	謝家灘郷	ダム周辺の修景・美化、娯楽・飲食施設、車両など	6,000
尖.5	黄河沿別荘地・休暇村	黄河沿	別荘地、休暇村など	17,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 貴徳県・化隆県・尖扎県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

(6) 黄河下りと民族風情観光

尖扎県から下流の黄河流域においても、化隆県と循化県の両県は観光地点整備を公伯峡ダム湖周辺、街子郷、県都・積石鎮等で進め、これらの地点を結び孟達に至る流域の河下りや遊覧船の運航を計画している。この流域には、回族やサラ族の文化豊かな農村や町が点在しており、各々の特徴的な生活文化を活かした民族風情村の開発も目指している。循化県では、地場の特産品販売センター、サラ族の歴史・文化の保全と観光利用、飲食・娯楽地区整備等を計画している。

短期では約 300 室程度の宿泊施設需要が見込まれ、需要に応じた民族風情村の整備と計画中の観光地点整備、河下りのための施設整備の実施が期待される。

中長期では、黄河観光サーキットの河下りと道路ルートが交差する甘都鎮や街子郷等で、観光客の休憩や観光活動の需要が高まるので、それに応じた施設の拡充が必要になる。省内外客の観光需要の増加に伴って民族風情村の宿泊客需要も増加し、これら農家民宿の規模拡大だけでなく各々の民謡・舞踊や生活文化の特徴を際立たせたサービスの質の向上が必要である。

表 8.5.5 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(化隆県、循化県)

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
化.3	公伯峡旅遊区	甘都鎮	訪問者センター、賓館、娯楽施設、インフラ施設など	4,000
循.1	サラ族民俗村	積石鎮	棧橋、遊覧船、河川道路、河川敷休暇村など(近中期)	913

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
循.2	サラ人伝統家屋	積石下草村、延伸 至街子郷、清水郷、 孟辻郷（4カ村）	伝統的家屋保存、道路、駐 車場など	1,957
循.3	旅遊産品	街子郷団結村	物産展示館、周辺修景、プ ロダクト開発など	500
循.4	綠色家園遊客接待中心	積石鎮	接待中心地など	3,230
循.9	積石峽丹霞地貌	積石鎮		2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 化隆県・循化県第十一次五カ年計画

(7) チベット仏教・レゴン文化（熱貢文化）郷

貴徳から山越えで同仁県都・隆務鎮に至る道路の一部新設区間、隆務鎮から保安鎮を経て循化県の街子郷へ至る既存道が、西寧都市圏の外環状道路として整備が進められており、黄河観光サーキットの同仁レゴン文化郷へのアクセスルートとなる。また、保安鎮から尖扎県を經由して化隆県の牙什小鎮に至るカンブラ公園や平安ルートとの連携ルートも観光サーキットの一環として整備する。これらの観光サーキットでは、峠越えや黄河横断、他の観光サーキットルートとの交差ポイント等に展望施設や休憩施設を整備し、快適な観光ルート環境を形成・提供する。

同仁・隆務鎮は、古くよりチベットの文化と宗教の拠点として都市の集積が進み、その宗教芸術はレゴン文化として地域の産業の重要な一翼を担っている。そして、大規模な伽藍配置をもつ宗教施設集積と一体となって、国内の宗教観光プロダクトだけでなく国外を含む文化観光プロダクトの観光拠点となっている。また、同仁は環西寧圏を中心とするチベット仏教・文化観光回廊の拠点となっており、タール寺から同仁の隆務寺、甘肅省・夏河のラプラン寺を經由して蘭州に至るルートが既存チベット仏教観光コリドーの基幹ルートとなっている。

同仁県の第十一次五カ年計画では、隆務鎮のレゴン芸術村整備を中心にした隆務寺の寺院修復と周辺の古都の街並み保全・修復、隆務河の下流約 3km に位置する年都乎郷の吾屯寺の上寺と下寺の寺院建築の修復・再建や道路・インフラ整備、上流に位置する曲庫乎鎮の温泉山荘のアクセス道路やサービス施設整備が計画されており、隆務河に沿った一体的なチベット仏教文化郷としての観光拠点形成を目指す。周辺地域では、貴徳への新設山越え道路の起点となる県境の蘭采郷に温泉山荘開発を進める。

現在、同仁県には 200 室の星級ホテルと約 1,000 室のその他ホテル、民宿が集積しているが、短期開発では星級以外のホテルの改善を含めたホテル客室数集積を 1,700 室に高め、隆務鎮や年都乎郷等の市街地内の民宿や民族村の集積を 300 室へと拡大することを目指す。

中長期においては、黄河観光サーキットの本格化に合わせてチベット仏教・文化回廊やシャングリラ回廊、唐番古道回廊等の広域観光開発も本格化するため、より一層の省外・国内客の観光需要の増加が見込まれる。同仁観光拠点への宿泊観光需要増加に対応した、中・高級ホテル整備を含む宿泊機能の拡充と多様化、観光プロダクトとサービスの質の向上を目指す。また、隆務鎮の北約 6km の郭麻日では、寺院の修復と保養・療養目的に民族村開発、隆務河の上流約 15km の曲庫乎郷では、温泉保養施設へのアクセス道路と付帯サー

ビス施設を整備し、当観光拠点の拡大とプロダクトの多様化を進める。

循化県は、街子郷への観光サーキットの文都チベット族郷のパンチェンラマ 10 世生誕地・文都大寺の観光利用・プロダクト開発も計画している。

表 8.5.6 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（同仁県、循化県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
同.1	同仁古都整備	隆務鎮	道路・インフラ施設、寺院修復、環境整備など	850
同.2	隆務寺維持整備	隆務鎮	建築補修、道路・インフラ施設など	440
同.3	郭麻日寺維持整備	郭麻日村	建築補修、道路・インフラ施設など	250
同.4	吾屯上下寺維持整備	年都乎郷	建築補修、道路・インフラ施設など	570
同.5	重点民族村賽保全整備	郭麻日村 他 4 村	サナトリウム、保健所、インフラ施設など	640
同.6	レゴン文化芸術村整備	隆務鎮	制作・展示室、芸術学校、博物館、インフラ施設など	5,950
同.7	曲庫乎温泉山荘	曲庫乎鎮	アクセス道路、接待・サービス施設など、ミネラルウォーター、森林景観	972
同.8	蘭采薬浴温泉山荘	蘭采郷	山荘、道路・インフラ施設など	3,140
循.7	十世班禅故居	文都蔵族郷	アクセス路、駐車場、案内施設など	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 同仁県・循化県第十一次五ヵ年計画

（8）孟達自然保護区

この保護区へのアクセスは、街子郷から県都・積石鎮を經由し、黄河南岸の絶壁を削ったような道路を黄河の絶景を足下に見ながら東進し、孟達鎮の木場からは新設された観光道路を南進して保護区のゲートへ至る。

孟達国家自然保護区は、黄河から 5km 程度しか隔たっていないが黄河谷の地質とは異なり黄土沖積層のない古い地層より構成され、地質・表土層も安定している。80 年代に伐採された落葉樹林も徐々に回復し、登山ルート沿いに緑豊かな自然景観を形成して、多様な野鳥のための良好な生息環境を形成している。保護区内の山上の天池は、周囲の森林を映す清らかで美しい景観を有し、チベット族の 5 つの聖なる池の内の要となる中央の池とされ（西の池は青海湖、北の池は門源県の仙米森林公園の池等）、チベット族の夏の巡礼地ともなっている。山麓にはチベット族の伝説を伝える地点も残されている。

自然保護区では、ゲート地区、そこから登山口にかけてのアクセス道路、登山口から山頂の天池にいたるロバ登山路と徒歩で上る階段、天池周辺を周回する歩道と宿泊施設用地などが带状の実験区に指定され、その他保護区の大部分を占める周辺の森林と天池は核心区に指定されて自然環境が保護されている。

循化県、及び自然保護区管理局は、頂上の天池隣接地にある宿泊施設機能を入り口地区へ移転し、ビジターセンター機能や宿泊施設機能を拡充すると共に、山上の核心区に囲まれた既存ホテルを孟達自然保護区に関連する自然生態等を紹介する植物園・博物館へと機能を変える計画を立てている。これらは、より適切な自然環境保護の確立が目的である。登山ルートは急峻であるが、現在 1 箇所しか整備されていない休憩・展望地点の追加整備

が望まれる。また、沿道の伝説地点や野鳥観察地点等の紹介・案内板の設置と小規模スポットの整備が必要である。登山用階段は、現在は磨きをかけた石材舗装となっているが、自然に近い素材による階段舗装の方が周辺の自然環境になじみ、雨天時に滑る危険もなく、より適切な登山ルート整備となる。

短期開発では、孟達自然保護区の特徴である柔らかい森林と天池の作り出す自然環境資源を背景に、周辺の民宿村開発やゲート地区のホテル、テント村開発を含め、1,100室規模の宿泊機能を持った孟達観光拠点の形成を目指す。また、孟達観光道路の起点である木場地区では、黄河河下りの拠点となる船着場やカヌーやカヤック等のスポーツ施設を整備し、道路ルートと河川ルートの結節点を形成する。

同時に、県で計画している黄河沿い清水郷のサラ族民族風情村では、農家民宿の促進だけでなく、村内のアクセス道路整備、民族資料館や催し物広場、土産品や地場産品販売店等の施設も整備し、特異なペルシャ風生活文化を活かして質の高い特徴のある民族風情村開発を目指す。

中長期では、孟達自然保護区内の実験区規模が観光客入込み容量を決定する要因となり、大規模な量的拡大は望めず、付加価値の高い観光客誘致への方針転換が必要となる。方針転換に応じて、施設の大幅改善やサービスの質の向上を図ると共に、生態観光ガイドの質の向上を目指す。

表 8.5.7 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（循化県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
循.5	孟達国家級自然保護区	孟達鎮	植物園、ゲート地区のビジターセンター、ホテルなど	6,000
循.6	清水サラ民俗旅遊村	清水郷	村内道路改善、商業・サービス施設、民俗館・広場など	4,000
循.8	喜饒法師足跡探訪	道張蔵族郷	ルート整備	2,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 循化県第十一次五ヵ年計画

（9）黄河から民和ルート

一番東に位置する黄河観光サーキットの南北ルートは、蘭西高速道の民和と孟達自然保護区を結ぶ山岳ルートで、西寧都市圏の外環状道路としての機能の整備が目的とされている。孟達から黄河の南岸沿いに下る4-5kmの区間は甘粛省内を経由する。

民和県は、南北ルートの沿線に位置する自然観光資源や歴史・文化資源、伝統的な民族風情等の観光資源を活かした観光地点開発を目指し、各々へのアクセス道路の整備、資源周辺の修景整備、トイレなどの付帯施設整備を8地区で計画している。

現状では知名度が低く観光利用に至っていないが、黄河観光サーキット全体の宿泊観光需要が増加し、蘭西高速を利用した西寧都市圏や蘭州からの日帰り余暇観光需要の増加に応じて当ルートを利用する観光客の滞留が増え、地区内観光地点への入込客も増加することとなる。

観光スポット開発を計画している8箇所は、その大部分が観光ルートから各々2-10km離れているという不利な条件にある。まずは、観光サーキット上の展望・休憩地点の整備か

ら開始して快適な観光サーキット環境を形成し、次いで20 - 30kmおきに位置する観光地点整備を進めつつ、当ルート・区間に係わる観光地点をプロダクト化する等、段階的な開発戦略の導入が必要である。

表 8.5.8 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（共和県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
民.2	松山原始森林風景区	西溝郷	道路改善、景点修景、便所など	3,718
民.3	西溝自然風景区	西溝郷	道路改善、景点修景、便所など	3,589
民.4	麻地溝刀山	古善鎮	道路改善、景点修景、便所など	3,550
民.6	七里寺自然風景区	古善鎮	道路改善、景点修景、便所など、 世界4大良質ミネラルウォーター	3,590
民.1	桃花園林区	川口鎮	道路改善、景点修景、便所など	18,398
民.5	古都古城	川口鎮	道路改善、景点修景、便所など	3,590
民.7	馬場垣遺跡	馬場垣郷	国家級重要文化財	4,000
民.8	三川土族風情		民族風情村	4,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 共和県第十一次五カ年計画

8.6 祁連山観光サーキット整備と観光プロダクト開発

祁連山脈と大通川が東西に走る環西寧圏北部は、万年雪を頂く祁連山脈の5,000m級の峰々、それと平行して流れる大通川、これらと交差する歴史的なシルクロード南ルートが南北に縦断している。春にはシルクロード沿いに門源の国営農場の菜花畑が50kmにもわたり広大な黄色の野原をつくり。夏には、大通川に沿った北山や仙米森林公園の豊かな緑、多種・多様な高山植物が繁茂し、それら自然の野山では多種の山鳥や動物が豊かに生息し、清涼な緑陰・環境を提供している。また、これらの山や谷・池にはチベット族の伝説があちこちに残され、大通側沿いの平野や盆地には中原文明の城祉や遺跡が点在し、回族・土族・チベット族・モンゴル族等の多様な民族の伝統的な生活文化が今も息づいている。

広大な北山や仙米の国家森林公园は、春・秋の行楽期と夏にはアクセスに優れた西寧や蘭州都市圏を市場とし、水辺や森林の清涼な環境を活用した市民の憩いの場・オアシスとして週末観光・レクリエーション地域開発を進める。また、西寧から大通・大阪山・門源の青石嘴・祁連の岷堡を經由して甘粛省に至るルートは、広域のシルクロード南ルートと重なり、省外・国外客を対象とする観光プロダクトにも対応した観光地の開発・形成を目指す。当サーキットの観光拠点、北山・仙米の大通川沿いの週末観光拠点に加え、門源県の浩門鎮から青石嘴（放射道路と環状道路の交差点）周辺と大通回族土族自治県の大阪山地区とし、宿泊機能や域内の歴史・文化観光のスポット整備を進める。祁連県・八宝鎮周辺は、手付かずの山や河の自然を利用した冒険的な観光オプション目的地としてのスポット整備を進める。



図 8.6.1 祁連山観光サーキット

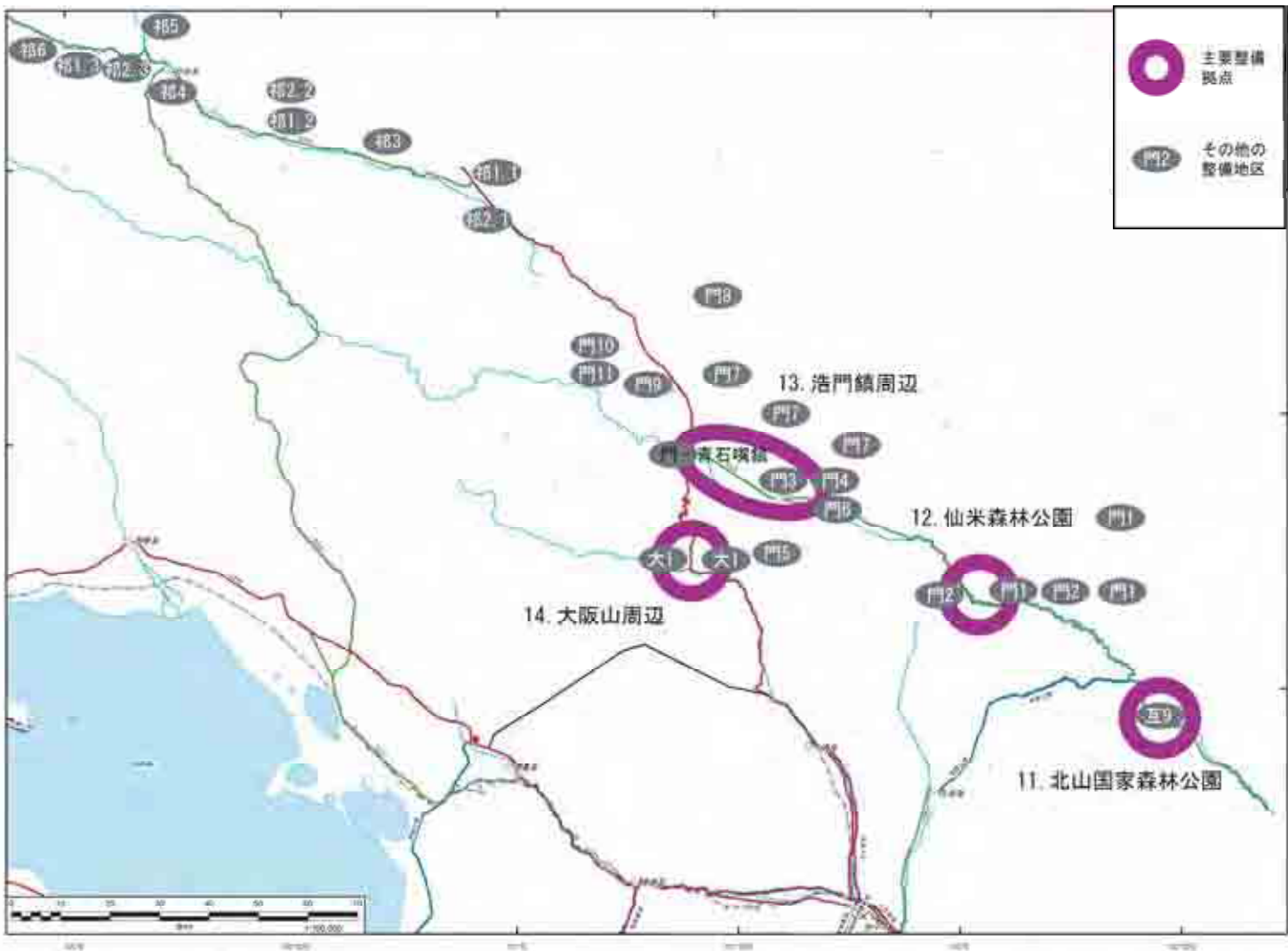


図 8.6.2 短期プロジェクト位置図（祁連山観光サーキット）

(1) 周回路・地区整備

祁連山観光サーキットの骨格は、西寧を基点として互助を経由して北山森林公園に至る西寧都市圏の放射幹線道路、大通回族土族自治州を経由して門源回族自治区を縦断する甘肅省・敦煌に向かう放射幹線道路・国道 227 号、またこれらの放射幹線道路を東西に結ぶ大通川に沿った外環状道路によって形成される。これらのサーキットの骨格となる道路は、既に国道 227 号の阪山区間を除きほぼ完成している。北山森林公園地区と共和を結ぶ省級道路・環西寧圏の外環状道路も、サーキットを形成する骨格道路として甘肅省と調整しつつ整備を進める。

観光サーキットの整備は、沿道の自然林森林や草池等の景観を保全しつつ、眺望の優れた箇所には、駐車場や展望台を整備するだけでなく飲食施設や地場の特産品・土産品販売コーナーを併設し、風景探勝・休憩機能に加え地場産業振興機能を持った展望・休憩スポットを整備する。また、沿道の町や集落では、道路や民家敷地内の清掃、地場の花木や草花の植栽を新興し、地元社会・住民が一体となった観光地に相応しい沿道環境を形成する。

中長期においては、祁連山観光サーキットと青海湖観光サーキットとの連携を強化する青石嘴鎮・門源县と西海鎮・海晏県を結ぶ外環状道路の整備に応じ、連携サーキットの整備を進める。また、祁連の大自然を活用したオプション・ツアールートは、中長期においての本格なエコツーリズム、及びアドベンチャー観光プロダクトの形成を目指し、蛾堡から八宝鎮を経由して青海湖沙島（海晏県）に至るアクセス・ルートを整備する。

(2) 互助県・北山国家森林公园の林間余暇観光拠点形成

互助県北部に位置する北山森林公園は森林被服面積が省内最大の国家森林公园で、夏の清涼な森林環境や高山植物を始めとする自然生態を対象に、西寧・湟水谷や蘭州居民の憩いの場としての利用が始まっている。短期では、夏季をはじめ春秋の大型連休における居民の余暇活動拠点の形成を目指し、中級・簡易なホテル、民宿村やテント村等の 1,700 室規模の宿泊拠点整備・集積を図る。また、自然探勝ルートや生態観察ルート整備、スポーツ・レクリエーション施設整備を進め、昼間の多様な余暇活動の選択肢を提供する。これらの開発は、森林、及び森林生態系の保全に留意し、過度な分散を避け、アクセス性や取水や電気の供給に優れ、森林生態への影響が少ない箇所を選定して開発する。

中長期においては、80 年前後に伐採された森林の自然回復も進み、深い林層に戻る事が期待され、省内と近隣省市自治区だけでなく、より広範囲の国内市場を対象とする観光拠点形成・チベット高原森林リゾート地の形成とそれに対応した宿泊施設の整備と生態環境プロダクト開発を目指す。

(3) 門源县・仙米国家森林公园の自然とチベット伝説の余暇休暇村

東西に走る外環状道路に沿って約 40km わたり展開する祁連山東部の仙米国家森林公园の森林と大通川、及びその支流の溪谷は、清水と清涼な森林環境に恵まれている。また、チベット族伝説の北の聖湖など、言い伝えが各所に残され、北山国家森林公园同様に西寧や蘭州市民の憩いの場となりつつある。

門源县では、これらの観光動向・社会的ニーズに応えつつ地元産業・経済開発を目指し、東部甘肅省隣接地区では地域の民族ごとに生活文化や農業・牧畜、伝統工芸・芸能を活用した民族風情村の整備を目指している。また、風光明媚な溪谷での森林浴や伝承観光、生

態観光プロダクトを開発し、省内外の夏季を中心とする余暇観光地形成を目指している。大通川上流域においても、支流沿いの溪谷を活用した民族の生活文化活用型の余暇休暇村形成を目指し、道路整備、休憩・レクリエーション・スポット整備や周辺の景観・環境整備事業の実施を計画している。

中長期においては、北山森林公園同様、木々の成長によって豊かで深い森が形成され、生態観光・登山・チベット伝承に関する観光プロダクトの質を向上し、近隣省市自治区だけでなく国内外を市場とする観光プロダクト開発が展開できる。

表 8.6.1 観光プロダクト開発プロジェクトリスト(門源县1)

図中番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト(万元)
門.1	寺溝森林浴場	珠固郷	展望塔、森林浴、民俗風情館等	2,500
門.2	仙米国家級森林公園旅遊区	仙米郷	道路、休憩施設、環境整備等	5,060

出所 門源县第十一次五ヵ年計画

(4) 門源县・菜の花の里・シルクロード南ルート of 歴史文化観光

県都・浩門鎮から国道 227 号・シルクロード南ルートと外環状道路との交差点・青石嘴鎮付近 50km の区間は、大規模な菜の花畑の中を走り、近くに万年雪を頂く祁連山の山並を望む。ここに祁連山観光サーキットとシルクロードの観光拠点機能としてのホテル・民宿を中心とする宿泊施設の開発・集積を図る。門源县では、浩門鎮周辺においても各民族や地場の特産品販売店や民族資料館の開発、大通川対岸の大阪山にある石仏公園整備、アクセス路整備等の観光スポット整備を計画している。本調査では、これらの観光スポット整備に加え、市内に残された立派な城壁の浩門古城の観光プロダクト化のための場内・周辺の園地・歴史文化情報案内板、駐車場の整備等を提案する。また、当地域は菜の花畑街道で知られるようになっており、国营農場、または路側に休憩スポットやレストランを兼ねた地場の養蜂産品即売店(蜂蜜、ローヤルゼリー、プロポリス等)の開発・設置を提案する。現在、県は国道 227 号深溝から祁連山の 5,000m を越える高峰・岡什袞雪峰の登山口に向けてアクセス道路の整備を進めている。第十一次五ヵ年計画では、ベースキャンプの諸施設や登山ルートの整備を進め、大規模な氷河の侵食谷を通して広大な菜の花の咲く草原を望む展望地としての整備を進めている。さらに、上記の菜の花観光プロダクトとも連携して、地元日帰り客と国内外の登山客を対象に、万年雪を頂く祁連山登山観光プロダクトの本格的な開発を目指している。また、中長期では環西寧圏における登山観光の拠点として、国内外の市場を対象に本格的にプロダクト開発し、600 室以上の宿泊施設を含む観光地整備を進める。ベースキャンプ予定地周辺には、石灰岩が溶解・結石化した奇岩が形成されつつあり、これらの保護と観光利用を進めることになっている。国道 227 号から数キロに中原文明の前哨基地であった永安城(古城) 祉があり、残された 1 辺 500m の城壁の保全・修復と 1km 弱のアクセス道路・インフラ整備、観光サービス施設や周辺の園地整備が提案され、事前に考古調査と場内の一部を使っている農場施設の移設が必要である。

中長期的には、祁連山観光サーキットと青海湖観光サーキットを結ぶ外環状道路と広域のシルクロードの交差点である青石嘴鎮付近の風向明媚な地区を選び、より一層の観光拠点機能集積を目指し、600 室程度のホテルや民宿村等の宿泊施設の開発を提案する。国道

227号深溝から甘粛省にかけてのシルクロードの南ルート沿道には、乱海子（池）や永安城等の自然・歴史的遺産が点在し、これらを活用した南ルート観光プロダクトの多様性と質を高める観光地区整備が提案される。乱海子（池）では、日帰り客を対象とするピクニック地の整備と周辺を放牧地とするチベット族の生活文化を活用した観光施設整備が計画されている。また、永安城祉近くの中国科学院の西北高原生態研究所では、チベット高原の自然生態系や希少な動植物の展示施設やレクチャー機能の整備、生態観光の実施等が望まれる。

表 8.6.2 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（門源県 2）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
門.4	百里花海旅遊区	浩門鎮	回族民俗風情館、環境整備など	6,150
門.5	二塘溝郊野林閑園	浩門鎮	登山道路改善、インフラ、歩道、環境整備など	1,050
門.6	浩門古城	浩門鎮	城壁の保全と観光サービス施設など	2,000
門.7	浩門国営農場及び青石嘴鎮周辺地区	浩門鎮～青石嘴鎮	国営農場又は、青石嘴鎮周辺に宿泊拠点、休憩・土産品店整備	6,000
門.8	岡什袞雪峰登山探検旅遊	皇城蒙古族郷	登山・キャンプ場、登山訓練基地、環境整備、接待・サービス施設など	1,320
門.10	永安城影視外景拍摄基地	皇城蒙古族郷	道路・インフラ、古城の城壁保全、観光サービス施設、環境整備など	1,100
門.3	回族民族村	浩門鎮	商店、駐車場など	670
門.9	花海鶯鳥風景区（乱海子）	皇城蒙古族郷	野鳥観測園、民族風情園、博覧館、接待施設、道路・インフラなど	1,150
門.11	高原生物・地学研究基地	皇城蒙古族郷	中国科学院の自然観察・研究所	1,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

太字は JICA 調査団提案の開発プロジェクト

出所 門源県第十一次五ヵ年計画、及び JICA 調査団

（5）祁連県・大自然と冒険オプション観光ルート

現在祁連県は未開放地区であり、外国人客は許可証が必要である。しかし、県内の自然資源や環境は手付かずの状態に近く、希少な動植物の生態や歴史文化遺産があり、短期では祁連山観光サーキットの自然・冒険オプションツアー・プロダクトの開発と施設整備を進める。県の第十一次五ヵ年計画では、国道 227 号の蛾堡鎮から県都・八宝鎮、油葫芦自然保護区の県東部・環西寧圏内での開発プロジェクトが挙げられ、蛾堡鎮では古城やチベット族の聖地、寺院の観光スポット整備が挙げられている。また、八宝鎮に至る区間では、阿柔地区で寺院観光・テント村等の地区整備が計画されている。八宝鎮では、街の南に位置する 4,664m の牛心山の山麓を活用した休暇村と観光施設の整備が計画され、民宿村やホテルを中心とする 700 室規模の宿泊施設整備による拠点機能形成の開始が期待される。

中長期においては、蛾堡河から黒川の年間を通して水量が豊かな川を利用し、変化に富んだスポーツ・ラフティングのプロダクト開発が提案される。甘粛省境を北流する黒川溪谷では、溪谷美の探勝ルート整備が計画されている。八宝鎮の西に位置する油葫芦自然保

護区には、希少かつ貴重な宝鹿を産出する半野生の鹿牧場があり、アクセス道路やインフラの整備に加え、牧場、及び周辺の観光施設や土産品店を整備し、県西部の原生の自然資源を活用した生態観光プロダクト開発を進める。また、短期で観光開発・利用を開始する県東部の観光スポットの観光集積を高め、本格的な祁連山観光サーキットの一部としての観光地形成を目指す。

表 8.6.3 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（祁連県）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
祁.1	古遺跡開発保全	峨堡、扎麻什地区	遺跡保全、道路・環境整備、小型展示館、接待施設など	4,000
祁.4	八宝旅遊区	八宝鎮	スキー場、ロープウェイ、休暇村、接待施設、道路・インフラ施設、筏など、祁連山森林公園	5,100
祁.2	寺院旅遊開発保全	峨堡、阿柔、八宝地区	寺院保全、環境整備など	2,000
祁.3	小東草旅遊風情区	阿柔郷小東草溝内	水泳プール、テント、商店、道路・インフラ施設など	1,270
祁.5	黒河大峡谷	八宝鎮来道溝	道路・インフラ施設、筏など	2,000
祁.6	アジア最大野生美鹿基地	半野生美鹿場、油葫芦自然保護区	貧寒、商業・サービス、博物館、道路・インフラ、レクリエーション施設など	1,000

備考 グレー枠内は中長期プロジェクト

出所 祁連県第十一次五カ年計画

（6）大通回族土族自治県・大阪山の大通森林公園の自然と伝統的民族文化観光

大通回族土族自治県北部の門源回族自治県境にある大阪山山麓は、祁連山観光サーキットとシルクロード南ルートを兼ねる国道 227 号が南北に横断し、地区内には察汗河風景区・国家森林公园の滝（冬季には氷滝）や特異な自然資源、多様な民族の集落が点在している。第十一次五カ年計画において、これら資源を活用する道路・遊歩道・インフラ整備が計画されている。本マスタープランでは、この地区が主要観光ルート上に位置する優位性を活かし、1,200 室規模の民族風情村や民宿村、ホテル等の観光拠点としての施設整備・集積を提案する。

中長期には、観光拠点としての施設集積を高めると同時に、国道 227 号以西の宝庫河沿いに位置する自然資源を活用し、野生のヤクや山鳥、水鳥、雪豹等を含む質の高いアトラクティブな生態観光プロダクトの開発を進める。また、北京市や上海市などの大都市圏で市場が拡大する農村観光・農家民宿市場の獲得を目指した、質の高い農家民宿村を開発・形成する。

表 8.6.4 観光プロダクト開発プロジェクトリスト（大通回族土族自治州）

図中 番号	開発プロジェクト名	位置	整備内容	コスト (万元)
大.9	大通県国家森林公園察汗河風景区	宝庫郷	景区道路、駐車場、観光旅遊歩行道、インフラ施設	4,000

出所 大通県第十一次五ヵ年計画

8.7 観光関連施設とインフラ計画

(1) 主要観光プロダクトへの観光客配分

観光サーキットの主要観光プロダクト

環西寧圏内における開発プロジェクトリストを踏まえ、各々のサーキットでの主要観光プロダクト（宿泊を含む観光プロダクトと日帰り観光プロダクト）を表 8.7.1 のように整理する。

省内、及びより広域を対象とする西藏高原・唐番古道・シルクロード等の広域観光コリドープロダクトは、観光交通の拠点である環西寧圏・西寧観光拠点都市を玄関口として展開しており、いずれかの環西寧圏の観光サーキットの観光プロダクトと連携する事となる。同じく、各観光サーキットの観光プロダクト利用客の大部分が交通拠点である西寧を観光活動の拠点とする事となる。省内の宿泊・日帰り客についても、大部分が西寧を中心とする都市部の観光市場から発生し、各観光サーキットの宿泊・日帰り観光プロダクトを利用する事となる。

● 西寧観光拠点都市

域内での宿泊、ないしは日帰りプロダクト 3 種、日帰りだけに対応したプロダクト 5 種に加え、環西寧圏、青海省、及び広域の観光プロダクトを利用するほとんどの客が、観光目的だけでなく交通の乗り換え・乗り継ぎを含めて西寧観光拠点都市で宿泊するとして、広域・省内連携プロダクトを開発する。

● 青海湖観光サーキット

現在の青海湖日帰り観光プロダクトの滞在型化が大きな課題であり、湖畔周辺のリゾートや生態観光拠点開発に合わせた宿泊型の観光プロダクトを 5 種開発する。同時に、生態観光の多様化により、周辺にある観光スポット整備を従来の 1 日周遊型のプロダクトから各観光拠点や観光スポットを訪れるプロダクトへ、単目的地日帰りプロダクト 7 種へと発展させる。また、青海湖の北岸・南岸を走る西藏鉄道や国道はいずれも主要広域観光プロダクトのルートとなっており、これらを取り込む観光プロダクトを 4 種開発する。

● 黄河観光サーキット

いずれの観光拠点や観光スポットも無理をすれば日帰り観光での往復は可能であるが、複数スポット訪問型、黄河の流れにそって周遊するプロダクト、歴史文化ルートなど、宿泊型のプロダクトを 6 種開発して滞在化を図る。同時に、貴徳県や同仁県は広域観光プロダクトルートの拠点に位置しており、これら広域観光プロダクトと連携するプロダクトを 3 種開発する。

● 祁連山観光サーキット

現在、サーキットの東端部が西寧都市圏と蘭州市民の週末観光利用、西部の国道 227 号経由の広域シルクロード南ルート観光が端緒についたところである。各観光スポットと拠

点整備によって観光活動の多様化と質を向上し、日帰り、または宿泊観光プロダクトを 6 種開発する。また、広域シルクロード南ルートと連携した広域観光プロダクトを 1 種開発、宿泊を含む滞在型のサーキット開発を目指す。

以上、各サーキットの観光拠点やスポット開発に合わせ、西寧観光拠点都市で 9 種、青海湖観光サーキットで 16 種、黄河観光サーキットで 9 種、祁連山観光サーキットで 7 種、合計 41 種の観光プロダクトを開発し、観光市場・客の多様なニーズに応えられる選択性のある品揃えを提供する。

表 8.7.1 観光サーキットの主要観光プロダクトリスト

	活動タイプ	プロダクトコード	観光プロダクト名
西寧観光拠点都市	圏内プロダクト (日帰り/宿泊)	西-泊/日-1	大通の遺跡・文化観光
		西-泊/日-2	互助・土族民族風情観光
		西-泊/日-3	西寧高地スポーツ (含ゴルフ、スキー等)
	圏内日帰り プロダクト	西-日-1	タール寺・チベット仏教観光
		西-日-2	柳湾古代遺跡と彩陶土器観光
		西-日-3	瞿曇寺・李家峡観光
		西-日-4	西寧市内観光 (南・北禅寺・清真寺・文廟)
	西-日-5	青海省伝統民謡・芸能ツアー	
	広域・省内連携 プロダクト	西-広連-1	交通拠点・観光の玄関：総ての観光プロダクトと連携
青海湖観光サーキット	圏内宿泊 プロダクト	青-泊-1	青海湖 151 高原リゾート
		青-泊-2	鳥島・水鳥の楽園生態観光
		青-泊-3	原子城・金銀灘・沙島
		青-泊-4	沙柳河鎮・牧場・生態観光
		青-泊-5	青海湖高原周遊観光
	圏内日帰り プロダクト	青-日-1	青海湖一周観光 (鳥島メイン)
		青-日-2	原子城・金銀灘日帰り観光
		青-日-3	沙島・東岸生態・親水観光
		青-日-4	沙柳河鎮・牧場・生態日帰り観光
		青-日-5	鳥島水鳥ウォッチング
		青-日-6	都蘭・吐谷渾遺跡観光
		青-日-7	151 日帰り観光
	広域・省内連携 プロダクト	青-広連-1	ゴルムド・柴達盆地
		青-広連-2	シルクロード敦煌ルート
青-広連-3		西藏高原観光コリドー (道路)	
青-広連-4		西藏高原観光コリドー (鉄道)	
黄河観光サーキット	圏内プロダクト (日帰り/宿泊)	黄-泊/日-1	カンブラ公園・李家峡自然探勝
		黄-泊/日-2	黄河・民族風情村と河下り
		黄-泊/日-3	同仁・チベット歴史と伝統の町
		黄-泊/日-4	孟達天池と生態観光
		黄-泊/日-5	民和民族風情観光
		黄-泊/日-6	貴徳・黄河・温泉・歴史の街観光
	広域・省内連携 プロダクト	黄-広連-1	唐番古道観光コリドー
		黄-広連-2	シャングリラ観光コリドー
		黄-広連-3	チベット宗教コリドー (タール寺～隆務寺～甘粛省)

	活動タイプ	プロダクトコード	観光プロダクト名
祁連山観光サーキット	圏内プロダクト (日帰り/宿泊)	祁-泊/日-1	北山国家森林公园・週末リゾート
		祁-泊/日-2	仙米国家森林公园・週末リゾート
		祁-泊/日-3	門源・百里花海・菜の花の里
		祁-泊/日-4	大通・大阪山の自然と民族風情村
		祁-泊/日-5	祁連山・雪山ベースキャンプと百里花海展望
		祁-泊/日-6	祁連山エコ・アドベンチャーツアー
	広域・省内連携プロダクト	祁-広連-1	シルクロード南ルート

(泊：宿泊、日：日帰り、西：西寧観光拠点都市、青：青海湖観光サーキット、
黄：黄河観光サーキット、祁：祁連山観光サーキット)

出所 JICA 調査団

各々の観光プロダクトには、観光スポットの周辺環境や景観、資源の特性、観光活動の種類、そこでの滞留時間や費用など、プロダクトが有する特性がある。一方、各プロダクトを利用する観光客側にも省内発生の日帰り客と宿泊客、近隣・周辺省市自治区からの観光客、遠く東部沿海地域や先進省市自治区からの観光客、外国人観光客などの特性がある。表 8.7.2 に、各観光客層が宿泊を含む観光プロダクト、日帰りで訪問する観光プロダクトとしての利用の相関を整理した。西寧のように観光活動の玄関として利用せざるを得ない圧倒的な観光プロダクト、各観光客層に利用される主要プロダクト、準主要プロダクトとなるもの、補助的プロダクト、または特定客層に対応したプロダクトに分類した。

表 8.7.2 観光客層の観光プロダクト利用特性

プロダクトコード	観光プロダクト	省内客		周辺省市自治区客		東部沿海地域客		外国人客	
		宿泊	日帰	宿泊	日帰	宿泊	日帰	宿泊	日帰
西-泊/日-1	大通の遺跡・文化観光	△	○	△	△	△	△		△
西-泊/日-2	互助・土族民族風情観光	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
西-泊/日-3	西寧高地スポーツ (含ゴルフ、スキー等)	△	△	△	△	△	△	△	△
西-日-1	タール寺・チベット仏教観光		●		◎		●		◎
西-日-2	柳湾古代遺跡と彩陶土器観光		○		○		○		○
西-日-3	瞿曇寺・盛家峡観光		○		○		○		○
西-日-4	西寧市内観光 (南・北禅寺・清真寺・文廟)		◎		●		◎		○
西-日-5	青海省伝統民謡・芸能ツアー		●		●		●		◎
西-広連-1	交通拠点・観光の玄関:総ての観光プロダクトと連携	●	●	●	●	●	●	●	◎
青-泊-1	青海湖 151 高原リゾート	○		◎		◎		◎	
青-泊-2	鳥島・水鳥の楽園生態観光	△		○		◎		○	
青-泊-3	原子城・金銀灘・沙島	◎				○			
青-泊-4	沙柳河鎮・牧場・生態観光	△							
青-泊-5	青海湖高原周遊観光			◎		◎		◎	
青-日-1	青海湖一周観光 (鳥島メイン)		◎		◎		◎		◎

プロダクト トコード	観光プロダクト	省内客		周辺省市 自治区客		東部沿海 地域客		外国人客	
		宿泊	日帰	宿泊	日帰	宿泊	日帰	宿泊	日帰
青-日-2	原子城・金銀灘日帰り観光		○		○		○		
青-日-3	沙島・東岸生態・親水観光		○		○		○		○
青-日-4	沙柳河鎮・牧場・生態日帰り観光		△		△		△		
青-日-5	鳥島水鳥ウォッチング		○		○		◎		◎
青-日-6	都蘭・吐谷渾遺跡観光		△		△		△		○
青-日-7	151日帰り観光		◎		○		◎		△
青-広連-1	ゴルムド・柴達盆地					△	△		
青-広連-2	シルクロード敦煌ルート	△		△	△	○	△	○	○
青-広連-3	西藏高原観光コリドー（道路）	△		△	△	△	△	△	△
青-広連-4	西藏高原観光コリドー（鉄道）	○		◎	◎	◎	○	◎	◎
黄-泊/日-1	カンブラ公園・李家峡自然探勝	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○
黄-泊/日-2	黄河・民族風情村と河下り	△	△	△	△	△	△		
黄-泊/日-3	同仁・チベット歴史と伝統の町	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○
黄-泊/日-4	孟達天池と生態観光	○	○	○	○	◎	○	○	○
黄-泊/日-5	民和民族風情観光	△	△	△	△		△		
黄-泊/日-6	貴徳・黄河・温泉・歴史の街観光	◎	○	◎	○	◎	○	△	○
黄-広連-1	唐番古道観光コリドー	△		○	○	○	△	◎	○
黄-広連-2	シャングリラ観光コリドー	△		△	△	△	△	△	△
黄-広連-3	チベット宗教コリドー （タール寺～隆務寺～甘肅省）	△		○	○	○	△	◎	○
祁-泊/日-1	北山国家森林公园・週末リゾート	◎	◎	◎	○	△	△		
祁-泊/日-2	仙米国家森林公园・週末リゾート	◎	◎	○	○	△	△		
祁-泊/日-3	門源・百里花海・菜の花の里	△	○	○	○	◎	△	◎	○
祁-泊/日-4	大通・大阪山の自然と民族風情村	○	○	△	△	○	△	△	○
祁-泊/日-5	祁連山・雪山ベースキャンプと 百里花海展望	△	△	△	△	○	△	△	△
祁-泊/日-6	祁連山エコ・アドベンチャーツアー	△	△	△	△	△	△	○	○
祁-広連-1	シルクロード南ルート	△		○	○	○	△	◎	○

●：圧倒的プロダクト、◎：主要プロダクト、

○：準主要プロダクト、△：補助的・特定プロダクト

備考：宿泊-宿泊を含む目的地・プロダクト、日帰-宿泊を含まない目的地・プロダクト

出所 JICA 調査団

環西寧圏内の観光需要

観光需要予測より、環西寧圏内での観光客の宿泊客数と宿泊数、各観光拠点やスポットでの観光活動客数を次のように設定する。

- **省内宿泊客**

青海省の観光統計では、省内発生 of 宿泊客の 90%以上が環西寧圏に集中しており、このような傾向は、西寧・湟水谷の都市部発生 of 純粋な観光活動と地方部で発生する西寧市の都市型観光が西寧市に集中していると理解される。現在、青海省発生 of 宿泊観光の平均泊数は 1.5 泊で、環西寧圏が目的地となっている。環西寧圏への観光投資の集中もあり、短期 5 ヶ年では環西寧圏への集中状況が一時的に助長される。青海省の一人当たり GDP が 2 倍を越える中期以降は、滞在日数の伸びと地方部から発生する観光客の増加によって変化・分散し始めると想定する。

表 8.7.3 環西寧圏内の省内宿泊客数

	2010	2020
入込客数：全青海省	2,366,000	2,825,000
入込客数：環西寧圏	2,300,000	2,500,000
環西寧圏シェア	97%	88%
平均泊数	1.5 泊	1.75 泊
環西寧圏内総泊数	3,450,000 人泊	4,380,000 人泊

出所 JICA 調査団

- **省内日帰り客**

青海省の観光統計では、省内発生 of 日帰り客の 90%以上が環西寧圏に集中している。このような傾向は短期 5 ヶ年計画期間中継続し、宿泊客同様に GDP、及び可処分家計所得が増加する中期以降は、環西寧圏外への日帰り客数は増加するものの、地方部の日帰り観光客発生 of 増加によって分散してシェアは低下すると想定される。

表 8.7.4 環西寧圏内の省内日帰り客数

	2010	2020
入込客数：全青海省	4,763,000	4,903,000
入込客数：環西寧圏	4,350,000	4,400,000
環西寧圏シェア	91%	90%

出所 JICA 調査団

- **省外客**

省外客は、ほぼ 100%に近い客が往路、復路、または往復路共に環西寧圏をゲートとして使っており、短期 5 ヶ年では環西寧圏入込客数は青海省入込観光客数と同数とする。一方、省外からの観光客の平均滞在日数は、観光事業者ヒアリングによると青海省内で 2 - 2.5 泊とされており、短期・中長期における青海省、及び環西寧圏内での平均滞在日数の目標を以下のように設定する。

表 8.7.5 環西寧圏内の省外客数

	2010	2020
全青海省：入込客数	2,544,000	3,792,000
平均泊数	2.25 泊	2.5 泊
環西寧圏：入込客数	2,540,000	3,500,000
環西寧圏シェア	100%	92%
平均泊数	2 泊	2.1 泊
環西寧圏内総泊数	5,080,000 人泊	7,350,000 人泊

出所 JICA 調査団

青海省、及び環西寧圏にとって主要な省外観光市場は、北京市や上海市などの大都市、先進省市自治区、隣接・周辺省市自治区の都市部である。上記の環西寧圏入込観光客数の発生地は、都市人口集積から3分の2が東部沿海地域と先進省市自治区で、3分の1が近隣・周辺省市自治区とする。

表 8.7.6 環西寧圏内の省外客の発生地

	2010	2020	シェア
入込客数	2,540,000	3,500,000	100%
東部沿海地域・先進省市自治区	1,690,000	2,330,000	67%
近隣・周辺省市自治区	850,000	1,170,000	33%
総人泊数	5,080,000	7,350,000	-
東部沿海地域・先進省市自治区	3,380,000	4,893,000	-
近隣・周辺省市自治区	1,700,000	2,457,000	-

出所 JICA 調査団

● 外国人客

国外からの観光客もほぼ100%が往路、復路、または往復路共に西寧圏をゲートとして使っており、短期5ヵ年では環西寧圏入込客数は青海省入込観光客数と同数とする。一方、外国人客の平均滞在日数は観光事業者ヒアリングによると青海省内で2.5泊であり、短期・中長期における青海省内、及び環西寧圏内での平均滞在日数の目標を以下のように設定する。

表 8.7.7 環西寧圏内の外国人客数

	2010	2020
全青海省：入込客数	175,000 人	500,000 人
平均泊数	2.5 泊	3.0 泊
環西寧圏：入込客数	175,000 人	450,000 人
環西寧圏シェア	100%	90%
平均泊数	2 泊	2.5 泊
総泊数	350,000 人泊	1,125,000 人泊

出所 JICA 調査団

● 観光スポット入込客数・観光活動量

省内日帰り客と宿泊客は、その大部分が近隣のリピート可能な範囲に居住しており、トリップごとに一つの観光プロダクトを利用すると想定される。省外客と外国人客の一部は、宿泊機能のある観光拠点で終日を過ごす事もあるが、宿泊地以外の観光プロダクトをオプションとして利用し、他の観光スポットを訪れる客が大部分を占めると想定される。ここでは、省外客と外国人客は、宿泊地以外に一日平均 1.5 箇所訪れて観光・休憩・飲食等の活動を行うとすると、観光市場別に以下のような観光スポットへの訪問客数の発生が推計される。

表 8.7.8 環西寧圏内の発生地別観光客数

(単位：人)

	2010	2020
1.東部沿海地域・先進省市自治区客の総泊数	3,380,000	4,893,000
2.近隣・周辺省市自治区客の総泊数	1,700,000	2,457,000
3.外国人客の総泊数	350,000	1,125,000
4.省外・国外客の総泊数 (1+2+3)	5,430,000	8,475,000
5.省外・国外客の他の観光スポット入込総数 (4×1.5)	8,145,000	12,713,000
6.省内宿泊客の観光スポット入込人数 (泊数)	3,450,000	4,375,000
7.日帰り客の観光スポット入込人数	4,350,000	4,400,000
8.観光スポット入込総人数 (4+5+6+7)	21,375,000	29,963,000

出所 JICA 調査団

観光プロダクトへの短期観光活動量の配分

短期5カ年の観光開発目標である2010年の宿泊日数・観光スポット入込客数を、観光客層別の観光プロダクト利用特性をもとに41種の観光プロダクトに配分する。

省内客は、都市型観光活動や発生地からのアクセス等も関係し、日帰り客だけでなく宿泊観光も西寧観光圏・湟水谷に60%以上が集中する。近隣・周辺省市自治区客の活動は、宿泊が西寧観光圏に45%、その他のサーキットにそれぞれ15%から23%と分散する一方、観光スポットへの昼夜間の入込客数では西寧観光圏に63%が集中する。東部沿海地域、及び先進省市自治区からの客は、宿泊が西寧観光圏に44%、青海湖観光サーキットに26%、黄河観光サーキットに20%と高く、祁連山観光サーキットは10%と低くなり、観光スポットへの入込客数も同様の傾向になる。外国人客は、宿泊数の青海湖観光サーキットと黄河観光サーキットのシェアが34%、29%と高く、西寧観光圏での活動量のシェアが低い。全観光客では、西寧観光圏の宿泊数が50%、黄河観光サーキットが20%、青海湖観光サーキットが18%、祁連山観光サーキットが12%となり、宿泊と入込客を足した総入込客数では西寧観光圏が54%と高く、他の3サーキットは10%から19%となっている。青海湖観光サーキットは、宿泊よりも入込客数のシェアが高く、黄河と祁連山観光サーキットは相対的に宿泊者のシェアが高くなっている。

中長期においては、観光客の環西寧圏内・青海省内での滞在期間を伸ばし、青海湖沿岸のリゾート客層が増加すると青海湖の宿泊率が増加し、バランスさせる。また、各サーキットでの宿泊数を増やす事で、環西寧圏全体の観光の魅力が多様化することになり、西寧観光圏以上に周辺の3観光サーキットでの宿泊施設開発に力を入れる。

表 8.7.9 観光サーキットの観光活動量需要（短期：2010年）

客層・活動		西寧観光圏	青海湖観光 サーキット	黄河観光 サーキット	祁連山観光 サーキット	合計 (千人泊)
省内客	宿泊客（泊）	2,090	345	615	400	3,450
	（シェア）	61%	10%	18%	12%	100%
	日帰り（人）	2,780	620	510	440	4,350
	（シェア）	64%	14%	12%	10%	100%
治区客 近隣・周 辺省市自 治区	宿泊客（泊）	770	290	390	250	1,700
	（シェア）	45%	17%	23%	15%	100%
	入込客（人）	1,610	410	310	220	2,550
	（シェア）	63%	16%	12%	9%	100%
市域・東 部沿海地 自治区客 先進省	宿泊客（泊）	1,490	870	690	330	3,380
	（シェア）	44%	26%	20%	10%	100%
	入込客（人）	2,520	1,270	890	390	5,070
	（シェア）	50%	25%	18%	8%	100%
外国人客	宿泊客（泊）	70	120	100	60	350
	（シェア）	20%	34%	29%	17%	100%
	入込客（人）	170	195	95	65	525
	（シェア）	32%	37%	18%	12%	100%
合計 (千人)	宿泊客（泊）	4,420	1,625	1,795	1,040	8,880
	（シェア）	50%	18%	20%	12%	100%
	入込客（人）	7,080	2,495	1,805	1,115	12,495
	（シェア）	57%	20%	14%	9%	100%
	総入込客	11,500	4,120	3,600	2,155	21,375
	（シェア）	54%	19%	17%	10%	100%

出所 JICA 調査団

表 8.7.10 観光プロダクトへの観光客・活動配分

プロダクト コード	観光プロダクト	省内客		近隣・周辺省 市自治区客		東部沿海地 域・先進省市 自治区客		外国人客		合計（千人）		
		宿泊客 （泊）	日帰客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	総入込客
西-泊/日-1	大通の遺跡・文化観光	20	50	10	20	20	50		5	50	125	175
西-泊/日-2	互助・土族民族風情観光	150	150	90	130	150	200	15	10	405	490	895
西-泊/日-3	西寧高地スポーツ	20	30	20	10	20	20	5	5	65	65	130
西-日-1	タール寺・チベット仏教観光		350		200		400		35	0	985	985
西-日-2	柳湾古代遺跡と彩陶土器観光		50		50		200		10	0	310	310
西-日-3	瞿曇寺・李家峡観光		50		50		200		10	0	310	310
西-日-4	西寧市内観光		150		250		300		10	0	710	710
西-日-5	青海省伝統民謡・芸能ツアー		350		300		500		35	0	1,185	1,185
西-広連-1	西寧市：交通拠点・観光の玄関	1,900	1,600	650	600	1,300	650	50	50	3,900	2,900	6,800
青-泊-1	青海湖 151 高原リゾート	70		60		200		20		350	0	350
青-泊-2	鳥島・水鳥の楽園生態観光	30		30		100		10		170	0	170
青-泊-3	原子城・金銀灘・沙島	140				50				190	0	190
青-泊-4	沙柳河鎮・牧場・生態観光	20								20	0	20
青-泊-5	青海湖高原周遊観光			90		250		30		370	0	370
青-日-1	青海湖一周観光（鳥島メイン）		160		90		300		50	0	600	600
青-日-2	原子城・金銀灘日帰り観光		100		30		100			0	230	230
青-日-3	沙島・東岸生態・親水観光		100		40		100		20	0	260	260
青-日-4	沙柳河鎮・牧場・生態日帰り観光		30		10		20			0	60	60
青-日-5	鳥島水鳥ウォチング		60		50		200		50	0	360	360
青-日-6	都蘭・吐谷渾遺跡観光		20		20		80		10	0	130	130
青-日-7	151 日帰り観光		150		60		200		5	0	415	415

プロダクト コード	観光プロダクト	省内客		近隣・周辺省 市自治区客		東部沿海地 域・先進省市 自治区客		外国人客		合計（千人）		
		宿泊客 （泊）	日帰客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	宿泊客 （泊）	入込客 （人）	総入込客
青-広連-1	ゴルムド・柴達盆地					10	10			10	10	20
青-広連-2	シルクロード敦煌ルート	5		20	20	70	70	10	10	105	100	205
青-広連-3	西藏高原観光コリドー（道路）	30		10	10	40	40	5	5	85	55	140
青-広連-4	西藏高原観光コリドー（鉄道）	50		80	80	150	150	45	45	325	275	600
黄-泊/日-1	カンブラ公園・李家峡自然探勝	150	150	80	60	140	200	15	10	385	420	805
黄-泊/日-2	黄河・民族風情村と河下り	40	40	10	10	20	20			70	70	140
黄-泊/日-3	同仁・チベット歴史と伝統の町	145	120	90	70	150	200	20	20	405	410	815
黄-泊/日-4	孟達天池と生態観光	50	80	50	40	100	140	15	10	215	270	485
黄-泊/日-5	民和民族風情観光	20	20	10	10		20			30	50	80
黄-泊/日-6	貴徳・黄河・温泉・歴史の街観光	150	100	70	40	120	150	5	10	345	300	645
黄-広連-1	唐番古道観光コリドー	20	0	30	30	70	70	20	20	140	120	260
黄-広連-2	シャングリラ観光コリドー	10	0	10	10	20	20	5	5	45	35	80
黄-広連-3	チベット宗教コリドー	30	0	40	40	70	70	20	20	160	130	290
祁-泊/日-1	北山国家森林公园・週末リゾート	150	160	80	60	10	20			240	240	480
祁-泊/日-2	仙米国家森林公园・週末リゾート	100	120	60	50	10	20			170	190	360
祁-泊/日-3	門源・百里花海・菜の花の里	20	50	30	30	100	100	20	20	170	200	370
祁-泊/日-4	大通・大阪山の自然と民族風情村	50	50	20	20	50	70	5	10	125	150	275
祁-泊/日-5	雪山ベースキャンプ/百里花海展望	30	30	15	20	30	50	5	5	80	105	185
祁-泊/日-6	祁連山エコ・アドベンチャーツアー	30	30	15	10	50	50	10	10	105	100	205
祁-広連-1	シルクロード南ルート	20	0	30	30	80	80	20	20	150	130	280
合計		3,450	4,350	1,700	2,550	3,380	5,070	350	525	8,880	12,495	21,375

出所 JICA 調査

観光拠点と観光スポットの短期開発需要

主要観光プロダクトへの観光客配分より、宿泊型の観光プロダクトごとの宿泊需要が以下のように設定される。各々の観光プロダクトの宿泊需要に対応した宿泊施設整備が求められ、既定の観光開発計画、地元地方自治体へのヒアリング、及び現地踏査結果を踏まえて以下のような宿泊施設整備地を選定した。

表 8.7.11 主要宿泊観光プロダクトの宿泊需要と宿泊施設整備地

プロダクトコード	宿泊型観光プロダクト	宿泊需要 (千泊/年)		宿泊施設整備地
		泊数	(%)	
西-泊/日-1	大通の遺跡・文化観光	50	1%	大通市内と周辺
西-泊/日-2	互助・土族民族風情観光	405	5%	互助市と周辺
西-泊/日-3	西寧高地スポーツ	65	1%	西寧市周辺地区
西-広連-1	西寧：交通拠点・観光の玄関	3,900	44%	西寧市内と周辺
西寧観光拠点都市計		4,420	50%	
青-泊-1	青海湖 151 高原リゾート	350	4%	共和県の 151 地区と青海湖南岸
青-泊-2	鳥島・水鳥の楽園生態観光	170	2%	海晏県の鳥島自然保護区外・周辺
青-泊-3	原子城・金銀灘・沙島	190	2%	海晏県の原子城・金銀灘・沙島の 3 地区
青-泊-4	沙柳河鎮・牧場・生態観光	20	0%	剛察県の沙柳河鎮と国営農場・牧場
青-泊-5	青海湖高原周遊観光	370	4%	共和・151/剛察・鳥島/海晏・沙島の 3 地区
青-広連-1	ゴルムド・柴達盆地	10	0%	海晏県の鳥島自然保護区外・周辺
青-広連-2	シルクロード敦煌ルート	105	1%	共和県の 151 地区と青海湖南岸
青-広連-3	西藏高原観光コリドー(道路)	85	1%	共和県の 151 地区と青海湖南岸
青-広連-4	西藏高原観光コリドー(鉄道)	325	4%	海晏県の鳥島自然保護区外・周辺
青海湖観光サーキット計		1,625	18%	
黄-泊/日-1	カンブラ公園・李家峡自然探勝	385	4%	尖扎県・公園内/化隆県・李家峡沿岸
黄-泊/日-2	黄河・民族風情村と河下り	70	1%	化隆県と循化県の黄河沿岸部
黄-泊/日-3	同仁・チベット歴史と伝統の町	405	5%	同仁県の隆務鎮周辺
黄-泊/日-4	孟達天池と生態観光	215	2%	循化県の孟達ゲート周辺
黄-泊/日-5	民和民族風情観光	30	0%	民和県の満坪周辺
黄-泊/日-6	貴徳・黄河・温泉・歴史の街観光	345	4%	貴徳・河西鎮と黄河沿岸
黄-広連-1	唐番古道観光コリドー	140	2%	貴徳・河西鎮
黄-広連-2	シャングリラ観光コリドー	45	1%	貴徳・河西鎮と同仁・隆務鎮
黄-広連-3	チベット仏教コリドー	160	2%	同仁県の隆務鎮周辺
黄河観光サーキット計		1,795	20%	

プロダクトコード	宿泊型観光プロダクト	宿泊需要 (千泊/年)		宿泊施設整備地
		泊数	(%)	
祁-泊/日-1	北山国家森林公园・週末リゾート	240	3%	互助県の北山公園内外
祁-泊/日-2	仙米国家森林公园・週末リゾート	170	2%	門源県の仙米森林公園内外
祁-泊/日-3	門源・百里花海・菜の花の里	170	2%	門源県の浩門鎮～青石嘴鎮と獅子口の2地区
祁-泊/日-4	大通・大阪山の自然と民族風情村	125	1%	大通県の大阪山察汗河・周辺
祁-泊/日-5	雪山ベースキャンプと百里花海展望	80	1%	門源県のガンシカ山ベースキャンプ
祁-泊/日-6	祁連山エコ・アドベンチャーツアー	105	1%	祁連山の八宝鎮周辺
祁-広連-1	シルクロード南ルート	150	2%	大通県・大阪山と門源県・獅子口間の2地区
祁連山観光サーキット計		1,040	12%	
合計		8,880	100%	

出所 JICA 調査団

(2) 短期宿泊施設需要

各観光プロダクトの宿泊施設整備地における観光客の年間宿泊人・日数をもとに、各々の地区において必要とされる2010年の宿泊施設の室数需要を推定する。

将来の宿泊施設の客室需要は、各々の地区での宿泊・観光施設の年間の運営期間目標（長期化、通年化を目指す）、営業期間中の月・週間のピーク率目標（平均化による稼働率の向上を目指す）、同伴率の設定により以下のように推定する。

年間運営期間目標

現在の環西寧圏における観光開発の現状は、端緒についてところで気候条件の優れた7月から9月の3ヵ月間が観光のピークで、全国的な観光シーズンである5月と10月の連休をカバーする観光プロダクトが整備できていない状況にある。短期目標の2010年で、いずれの観光プロダクトも最低限年間6ヵ月間の運営を目標とし、省都・西寧関連の観光プロダクト、比較的温暖な黄河観光サーキット下流部関連の観光プロダクト、ラサ延伸と新型車両とで活況を呈するであろう西蔵高原観光コリドーの鉄道ルート等については、通年運営を目標とした施設整備とプロダクト開発を目指す。冬季・積雪中の観光活動が不可能なプロダクトについては6ヵ月・半年運営とするが、その他のプロダクトは下表に示すように8ヵ月運営を目指した施設整備とプロダクト開発を進める。

営業期のピーク率と客室稼働率の目標

青海省観光統計では、夏季の繁忙月のピーク率は2004年で2.5近くになっており、2.0を最低目標に1.4を目指して平均化する。週のピーク率にしても、現在では大部分の観光客が週末に集中していて2.5を超えている。短期においても、市場予測の入込客数が省外市場の増加が多くなっており、省内の週末観光だけでなく市場の多様化とプロダクト開発で平均化を目指し、最低を2.1とし最大1.2のピーク率を目標とする。

これらの月ピーク率と週ピーク率の目標設定より、どの宿泊施設も同様に観光客に受け入れられると仮定した場合、地区の目標となる稼働率が算定され、以下ようになる。観光統計による稼働率は、星級ホテルの平均が2003年で38.4%、2004年が43.5%であり、社会旅館（公的機関が運営する招待所）は2003年で39%であったとされる。青海省内では、地価・建設費・運営費がいずれも安く、ホテルの採算分岐点が星級ホテルでも50%以下とされ、算定されたホテルの目標稼働率が45%から55%の範囲であり、現在以上の採算性を得られることとなる。また、民宿は、国際的な目標とされる25%稼働率を下回っても初期投資が非常に小さく家内労働型であり、新たな現金収入の方策となる。ここで示す各地の稼働率は、「西寧市とその周辺」のようなホテルを主とする地区では55%の高い稼働率となり、短期では平均化が難しいプロダクトで民宿村を主とする地区では15%の稼働率の地区もある。観光サーキットでは、西寧観光拠点都市の稼働率が最も高く平均で53%となり、次いで通年型の観光を目指す黄河観光サーキットが37%、青海湖観光サーキットは31%にとどまり、民宿村が多く運営期間の短い祁連山観光サーキットでは19%にとどまる。

同伴率（1室当たりの平均宿泊者数）

都市型ホテルでは同伴率は1.1程度と低くなり、団体観光や家族観光グループを主に受け入れる観光地・リゾート地のホテルでは同伴率が1.5を超える。ここでは、各観光プロダクトの特性と地区特性から西寧の1.2を最低とし、最大2.1の同伴率を各々の観光プロダクトに設定した。

観光プロダクト・地区別の宿泊施設客室需要

宿泊需要を満たすための客室需要は上記の客室稼働率と同伴率より算定され、2010年の年間宿泊需要8.9百人泊を受け入れるには4万室の宿泊施設集積が必要となる。

西寧観光圏では環西寧圏の宿泊需要の50%に当たる4.4百万人泊の年間宿泊需要が集中するが、客室の稼働率が高く客室需要の45%に当たる1.8万室の客室集積を目指すこととなる。青海湖観光サーキットでは宿泊需要の18%に当たる1.6百万人泊であるが、客室の稼働率が低くなるため客室需要の19%に当たる7.7千室の集積が必要となる。黄河観光サーキットでは、宿泊需要の20%約1.8百万人泊に対して、7.1千室で18%の客室集積を目指すこととなる。祁連山観光サーキットでは客室需要の12%約1百万人泊に対し、19%の7.2千室と黄河観光サーキット以上の客室集積が必要となる。

表 8.7.12 主要宿泊観光プロダクト・宿泊施設整備地別の宿泊施設需要

プロダクトコード	宿泊施設整備地	運営月	営業期ピーク率		同伴率 人/室	目標稼働率		室数 需要
			月	週		営業期	年平均	
西-泊/日-1	大通県・橋頭鎮周辺	8	1.5	1.4	2.0	48%	34%	200
西-泊/日-2	互助県・威遠鎮周辺	10	1.7	1.4	2.5	42%	34%	1,300
西-泊/日-3	西寧市周辺	8	1.5	1.2	1.5	56%	40%	300
西-広連-1	西寧市周辺	12	1.4	1.3	1.2	55%	55%	16,200
西寧観光圏合計・平均					1.3		53%	18,000
青-泊-1	共和県・151地区と青海湖南岸	8	1.5	1.4	2.0	48%	32%	1,500

プロダクト コード	宿泊施設整備地	運営月	営業期 ピーク率		同伴率 人/室	目標稼働率		室数 需要
			月	週		営業期	年平均	
青-泊-2	海晏県・鳥島自然保護区 外周辺	6	1.5	1.4	2.0	48%	23%	1,000
青-泊-3	海晏県・原子城・金銀 灘・沙島の3地区	8	1.6	1.8	2.5	36%	23%	900
青-泊-4	剛察県・沙柳河鎮と 国营農場・牧場	6	1.8	1.8	2.5	32%	22%	100
青-泊-5	共和・151/剛察・鳥島/ 海晏・沙島の3地区	8	1.5	1.4	2.0	48%	32%	1,600
青-広連-1	海晏県・鳥島自然保護区 外周辺	6	2.0	1.2	1.5	42%	18%	100
青-広連-2	共和県・151地区と 青海湖南岸	8	1.6	1.2	1.5	53%	38%	500
青-広連-3	共和県・151地区と 青海湖南岸	6	1.8	1.2	1.5	47%	22%	700
青-広連-4	海晏県・鳥島自然保護区 外周辺	12	1.8	1.2	1.5	47%	46%	1,300
青海湖観光サーキット合計・平均					1.8		31%	7,700
黄-泊/日-1	尖扎県・公園内/化隆 県・李家峡沿岸	8	1.4	1.4	2.0	50%	33%	1,600
黄-泊/日-2	化隆県と循化県・黄河沿 岸地区	12	1.5	2.0	2.0	33%	32%	300
黄-泊/日-3	同仁県・隆務鎮周辺	12	1.4	1.4	1.8	50%	49%	1,300
黄-泊/日-4	循化県・孟達ゲート周辺	8	1.8	1.4	2.0	40%	27%	1,100
黄-泊/日-5	民和県・満坪周辺	8	1.8	1.4	2.5	40%	33%	100
黄-泊/日-6	貴徳・河西鎮と黄河沿岸	12	1.5	1.5	2.0	44%	43%	1,100
黄-広連-1	貴徳・河西鎮	8	1.8	1.2	1.5	46%	32%	800
黄-広連-2	貴徳・河西鎮と同仁・隆 務鎮	8	2.0	1.2	1.5	42%	27%	300
黄-広連-3	同仁県・隆務鎮周辺	10	1.5	1.2	2.0	56%	44%	500
黄河観光サーキット合計・平均					1.9		37%	7,100
祁-泊/日-1	互助県・北山森林公園内 外	6	1.5	2.1	2.5	32%	15%	1,700
祁-泊/日-2	門源県・仙米森林公園内 外	6	1.5	2.1	2.5	32%	16%	1,200
祁-泊/日-3	門源県・浩門鎮 - 青石嘴 鎮/獅子口2地区	6	1.8	1.4	2.0	40%	19%	1,200
祁-泊/日-4	大通県・大阪山周辺	6	1.8	1.6	2.0	35%	17%	1,000
祁-泊/日-5	門源県・ガンシカ山 ベースキャンプ	6	1.8	1.6	2.0	35%	18%	600
祁-泊/日-6	祁連県・八宝鎮周辺	6	1.8	1.4	2.0	40%	21%	700
祁-広連-1	大通県・大阪山/門源 県・獅子口間2地区	8	1.6	1.2	1.5	52%	34%	800
祁連山観光サーキット合計・平均					2.1		19%	7,200
環西寧圏合計合計・平均					1.5		40%	40,000

出所 JICA 調査団

2010年までの短期で、観光プロダクト別の宿泊施設需要を宿泊施設整備地別に集計すると、西寧観光圏の16,500室は客室整備需要の41.3%を占める。下記の地区で宿泊施設の整備・集積を図ると共に、観光施設整備を含む観光スポット開発を進め、各々の観光サーキットにおける観光拠点形成を形成する。

- 1,000以上の客室整備需要のある12地区
- 互助土族自治県では威遠鎮周辺と北山森林公園の内外の2地区
- 海晏県では原子城（金銀灘を含む）と沙島地区周辺
- 剛察県では鳥島自然保護核心区の背後地区
- 共和県では青海湖151基地を中心とする青海湖南岸地区
- 貴徳県では河西鎮を中心とする黄河沿岸地区
- 尖扎県と化隆県にまたがるカンブラ公園と李家峡地区
- 循化県では孟達自然保護区のゲート周辺地区
- 同仁県では隆矛鎮周辺地区
- 大通県では大阪山周辺地区
- 門源县では浩門鎮周辺地区と仙米森林公園の内外地区の2地区

2020年の長期には、短期2010年の約1.45倍となる12.85百万人泊の年間宿泊需要が見込まれており、各観光サーキットの12観光拠点における宿泊施設整備を進める。また、短期2010年までの開発において観光拠点化の対象とならなかった祁連山の八宝鎮周辺地区等の観光拠点化を進める。

● 青海湖観光サーキット

短期2010年の宿泊需要1.63百万人泊の観光需要に応える7,700室の客室整備は、観光拠点とする青海湖151地区、及び周辺南岸、鳥島自然保護核心区背後地、原子城・青海湖沙島の3地区を中心に進める。これらの地区は、青海省旅遊業發展与布局総体計画（2000）における青海湖観光地区開発計画の主要観光開発地区とも一致しており、青海湖自然保護区の豊かな自然を利用した生態観光と高原リゾート、スポーツ・レクリエーション観光の拠点を形成すると共に、青蔵高原広域観光コリドーのオアシスとする。

長期2020年には、短期観光開発に弾みがついて通年稼働が達成され、1.5倍以上の宿泊需要に対し3,000から4,000室の新たな宿泊施設集積の需要が発生すると見られる。短期整備目標の3観光拠点の拡充に加え、青海湖北岸の沙柳河鎮周辺や青海湖の東岸にも新たに観光開発拠点整備が必要となる。

● 黄河観光サーキット

短期2010年では約1.8百万人泊の観光需要に応える7,100室の宿泊施設を、黄河に沿いの観光拠点とする河西鎮と黄河沿岸地区、カンブラ公園・李家峡地区、孟達自然保護区ゲート周辺の3地区と、チベット仏教広域観光コリドーの拠点である隆務鎮周辺地区を加えた4観光拠点を中心に開発整備し、変化に富んだ黄河流域の景観と民族文化、歴史観光の形成を支援する。これらの観光開発拠点は、青海省旅遊業發展与布局総体計画（2000）の黄河観光地区の開発計画における主要観光開発地区とも一致している。

長期2020年には、2.6百万人泊から3百万人泊の宿泊需要に達し、稼働率の向上を見込んでも10,000室の宿泊施設集積が求められ、新たに必要となる約3,000室を短期開発における

4 観光拠点に整備するだけでなく、化隆回族自治州と循化サラ族自治県の黄河沿岸地区や民和県に新たな観光拠点集積を進める。

● 祁連山観光サーキット

短期 2010 年では約 1.04 百万人泊の観光需要に応える 7,200 室の宿泊施設を、大通回族土族自治州の大坂山周辺地区から、浩門鎮・菜の花畑周辺地区、大通側沿いの仙米森林公園内外、北山森林公園内外を經由して威遠鎮・土族民族村に至る 4 観光拠点を中心に開発・集積し、祁連山系と大通川に沿って展開する山岳・森林生態、少数民族文化、歴史観光を支援する。

長期 2020 年では、省内・近隣省市自治区市場から省外・国外市場へと市場を拡大し、宿泊需要も年間 1.5 百万人泊を超え、宿泊施設の稼働率を向上しても新たに 2,000 から 3,000 室の宿泊施設整備が必要となる。既存の 4 観光拠点への拡充整備を進めると共に、祁連山の開放に合わせて八宝鎮周辺地区の宿泊施設整備を進め新たな観光拠点化を進め、短期において観光オプションとしていた八宝鎮周辺の自然系冒険観光をサーキットの主要プロダクトの一つとする。

表 8.7.13 観光拠点、及び宿泊地別の宿泊施設構成

地区	客室需要		宿泊施設構成 (室)			
	室数	シェア (%)	Hotel	Tent	民宿	コンドミニアム
大通県・橋頭鎮周辺	200	0.5%	150		50	
互助県・威遠鎮周辺	1,300	3.3%	200		1,100	
西寧市周辺	16,500	41.3%	16,500			
西寧観光圏	18,000	45.0%	16,850	0	1,150	0
共和県・151 地区/南岸	3,500	8.8%	3,000	50		450
剛察県・鳥島背後/西岸	1,500	3.8%	1,200	200	100	
剛察県・沙柳河鎮/牧場	100	0.3%		100		
海晏県・原子城/沙島	2,600	6.5%	2,000	200	400	
青海湖観光サーキット	7,700	19.3%	6,200	550	500	450
貴徳県・河西鎮周辺	2,000	5.0%	1,500		500	
尖扎県・カンブラ公園内	480	1.2%	350	50	80	
化隆県・カンブラ公園外	1,120	2.8%	900	100	120	
化隆県・黄河沿岸地区	100	0.3%			100	
循化県・黄河沿岸地区	200	0.5%			200	
循化県・孟達ゲート周辺	1,100	2.8%	600	200	300	
同仁県・隆務鎮周辺	2,000	5.0%	1,700		300	
民和県・満坪周辺	100	0.3%			100	
黄河観光サーキット	7,100	12.8%	5,050	350	1,700	0
互助県・北山森林公園内外	1,700	4.3%	800	300	600	
門源县・仙米森林公園内外	1,200	3.0%	300	300	600	
門源县・浩門鎮周辺	1,300	3.3%	1,200		100	
門源县・獅子口及び西部	600	1.5%	500		100	

地区	客室需要		宿泊施設構成（室）				
	室数	シェア（%）	Hotel	Tent	民宿	コトブニアム	
門源县・ガンシカ山 BC	600	1.5%	600				
大通県・大阪山周辺	1,100	2.8%	600		500		
祁連県・八宝鎮周辺	700	1.8%	500		200		
祁連山観光サーキット	7,200	18.0%	4,500	600	2,100	0	
合計	室数	40,000	100.0%	32,600	1,500	5,450	450
	シェア（%）			82%	4%	14%	1%

出所：JICA 調査団

（3） 宿泊施設の既存集積と開発需要

既存宿泊施設集積

青海省内の宿泊施設は以下の5種によって構成されているが、観光産業として旅遊局の管理・指導下にあるのは、新たに導入された星級ホテル、農家楽（民宿）、テント村システムである。既存集積の大きい社会旅館と個人旅館は旅遊局の管理・指導が及ばず、詳細な情報の入手も難しく今後の観光産業の計画的な開発への参画が不透明な状況にある。

● 星級ホテル

観光業が新たな青海省の産業開発の基幹として位置づけられ、省内外からの観光客の宿泊需要に対応するため、旅遊局が5段階評価の観光宿泊施設制が導入して開発・許可に当たっている。2002年では39軒・3,515室であった集積が年々増加し、2004年には58軒・5,760室に達し（室数が年率28%増加）、環西寧圏内に5,025室87%が集中しており、今後の省観光開発を担う宿泊施設システムとして期待される。

● 社会旅館

行政、及び企業単位が迎賓館・出張者用の宿泊施設として整備してきたが、資本主義化の進展に伴って独立採算制が導入され、年々廃業ないしは星級ホテルへ転業する施設が増えている。2002年には610軒・約3万室あった集積が、2004年には395軒・約1.7万室にまで激減し（室数が年率31%で減少）、環西寧圏には約7,150室42%が計上されている。これら施設は一般客も受け入れるが、2重価格制を取り料金体系も明示されておらず、また、従業員数が0.53人/室と星級ホテルの半分以下のサービスレベルにある。これら社会旅館は省の観光開発方針とは別の目的で整備・運営され、今後の動向が不透明でもあり観光開発とは一線を画す宿泊施設と考えられる。

● 個人旅館

家内経営の都市型下宿・民宿のような施設で、一部は学生の休暇中の見学・観光旅行の宿泊施設として使われている。地方自治体への登録軒数では2002年に708軒で約9,400室あるとされ、環西寧圏では2004年に約600軒が登録されている。毎年増減を繰り返す、無登録営業も多いと言われ、安いだけがとりえの相部屋の宿泊施設であって実体が把握できていない。今後青海省の観光産業開発を進める上において、期待できる安定した宿泊施設供給システムとは言えない。

● 農家楽・民宿

観光開発を志向する自治体・旅遊局が指導しつつ、観光振興を進めるための宿泊機能として整備を進めている。これらの農家楽は、国内の大都市圏で増加しつつある農村観光・農家民宿の市場開発の可能性を秘めている。省内で最も先行しているのが互助土族自治県の土族民族風情村で、数百世帯が観光客を受け入れ、伝統民謡・舞踊に加え疑似結婚式への観光客の参加等の観光メニューを整えて環西寧圏の3大観光地の一つとなっている。今後、飲食・接客の質の向上だけでなく、伝統的な生活文化や農作業等の観光活動のトレーニングとメニューの拡充により、小さな初期投資で裨益効果の大きい宿泊施設として観光地形成を担うことが期待される。現在統計を整備中であり、既存の施設整備状況を各県旅遊局にヒアリングして既存施設情報を設定した。

● テント村

青海省では、厳しい気候条件のもと、観光開発の草創期に当たり夏季だけの季節的な営業を強いられる地区が多く、初期投資の小さなテント形式での観光・宿泊施設が随所に見られる。今後とも設備の充実と衛生・清潔管理が十分であれば、経済的な側面からだけでなく、自然を感じられる宿泊施設として期待される。現在統計を整備中であり、既存の施設整備状況を各県旅遊局にヒアリングして既存施設情報を設定した。

表 8.7.14 環西寧圏の既存宿泊施設（室数）集積

	星級 ホテル	その他 ホテル*5)	ホテル合計 *6)	テント *7)	民宿 *8)	宿泊施設合計 *9)
西寧市	5,193	1,385 (5,230)	6,578 (9,023)	n.a	n.a	6,578 (9,023)
西寧市近郊*1)	188	180 (635)	368 (823)	20 (n.a)	220 (220)	608 (1,043)
青海湖観光サーキット*2)	250	110 (1,006)	360 (1,256)	70 (70)	20 (n.a)	450 (1,326)
黄河観光サーキット*3)	480	150 (1,828)	630 (2,308)	20 (22)	150 (145)	800 (2,475)
祁連山観光サーキット*4)	314	- (166)	314 (480)	40 (35)	60 (60)	414 (575)
合計	6,425	1,825(8,865)	8,250 (13,890)	150 (127)	450 (425)	8,850 (14,442)

備考：表数字は、データが収集できた分のみの表示であり、完全なものではない。

*1) 互助県・大通県の各南部、及び湟源・湟中・平安・楽都の4県が含まれる

*2) 共和・剛察・海晏の3県（青海湖観光サーキット）

*3) 民和・化隆・尖扎・循化・同仁・貴徳の6県が含まれる（黄河観光サーキット）

*4) 互助県・大通県の各北部、及び祁連・門源の2県が含まれる（祁連山観光サーキット）

*5) その他ホテルのうち、星級ホテルに再登録されると想定される室数。（ ）内は、社会旅館（青海省統計局資料）及び個人旅館（県別統計がなく、旅遊局ヒアリング情報）。

*6) 星級ホテル、及び社会旅館（再登録想定）客室数。（ ）内は、星級ホテル・社会旅館・個人旅館の客室数総計

*7) 想定テント張り数とする。（ ）内は、ヒアリング結果

*8) 想定民宿室数とする。（ ）内は、ヒアリング結果

*9) 観光利用可能客室数の合計。（ ）内は、統計、及びヒアリングの合計客室数出所 省旅遊局、各県・市の観光統計・ヒアリングなど

表 8.7.15 2005 年星級ホテルの既存集積（ホテル数・室数）

	環西寧圏				省内合計		
	ホテル数	室数	シェア	2-9月	ホテル数	室数	シェア
5 星	1	307	5%	n.a	1	307	4%
4 星	5	1,077	17%	57.1	5	1,077	13%
3 星	23	2,519	39%	47.7	30	3,557	43%
2 星	28	1,929	30%	41.0	36	2,566	31%
1 星	3	138	2%	39.5	5	203	2%
無星	4	455	7%	33.6	8	634	8%
合計	64	6,425	100%	43.8	85	8,344	100%

出所 省旅遊局、星級ホテルリスト（2005 年度新規登録、建設中を含む）

2004 年の既存宿泊施設集積は星級ホテルの 5,025 室がベースとなるが、その他の社会旅館の約 20%・1,825 室が施設・設備、及びサービス水準を改善し星級ホテルとして再登録すると仮定すると星級ホテルとしての集積が 6,850 室となる。ヒアリングによるテントと民宿の既存集積値を四捨五入して 150 室、450 室と集積とすると、全体で 7,350 室となる。

宿泊施設の開発需要

● 短期 2010 年

年間総宿泊需要 8.88 百万人泊に対し客室同伴率を 1.5 人とし、各観光プロダクトの客室稼働率目標をホテル・コンドミニアムで 30 - 55%、テント・民宿では 10 - 20%と設定すると、全体で 40,000 室の客室需要となる。2004 年の既存集積 8,850 室に対し、2010 年までの短期 5 ヶ年における客室開発需要は 31,150 室となり、毎年ホテル・コンドミニアムでは 5,000 室、テントが 300 張り、民宿を 1,000 室の追加整備が必要となる。今までの省内観光客の宿泊需要が大半を占める観光活動に対し、2010 年には省外客と外国人客の宿泊需要が 61%にまで増加する。本格的な観光産業への展開の過渡期・黎明期に当たり、急激な中・高級ホテルを中心とする 24,800 室の宿泊施設の開発が必要となる。一方、39%を占める省内観光客の宿泊需要の一部は地元宿泊施設情報に詳しく、実態と動向が定かでない社会旅館や個人旅館などの既存集積を活用できると見られ、これら施設の既存集積が 2010 年までの宿泊施設の開発需要に対し、20%程度のショックアブゾーバとなる可能性があるとして想定される。

● 長期 2020 年

省外客、及び外国人客の宿泊需要の増加により、短期の 1.45 倍に相当する年間 12.85 百万人・泊の宿泊需要の発生に対して同伴率を短期と同じ 1.5 人/室とし、客室稼働率の目標を星級ホテル・コンドミニアムでは短期よりも引き上げて 54%を目標とし、テント・民宿でも短期より引き上げて 20%を稼働率目標とすると全体で 50,000 室の客室需要となる。長期 2020 年では、短期の客室需要 40,000 室に対して 50,000 室の需要が見込まれており、新たに中・高級ホテルを中心とする 10,000 室の客室開発が必要となる。また、長期における環西寧圏では、省外・国外客の宿泊需要が 66%を占め、国内・外の主要観光目的地の一つへと成長をとげており、短期で省内客の宿泊需要を代替した社会旅館と個人旅館の宿泊機能を中期で新たに開発整備する必要がある。

表 8.7.16 宿泊施設の開発需要

宿泊施設種	総客室需要 (A)			客室開発需要量 (A-前期集積)	
	2004 既存集積	2010 (短期)	2020 (長期)	2010 (短期) *	2020 (長期)
星級ホテル・ コンドミニウム	8,250	33,050	40,000	24,800	6,950
テント	150	1,500	2,000	1,350	500
民宿	450	5,450	8,000	5,000	2,550
合 計	8,850	40,000	50,000	31,150	10,000

* 2010年までの星級ホテルの追加整備には一部の社会旅館の転業(2,000室程度)が含まれ得る。

出所 JICA 調査団

表 8.7.17 星級ホテル開発需要

	既存		2010		追加建設		2020		追加建設	
	室数	(%)	室数	(%)	室数	(%)	室数	(%)	室数	(%)
5 星	307	4	3,305	10	2,998	12	6,000	15	2,695	39
4 星	1,077	13	6,610	20	5,533	22	8,000	20	1,390	20
3 星	2,519	31	9,915	30	7,396	30	12,000	30	2,085	30
2 星	1,929	23	8,263	25	6,334	26	9,000	22.5	738	11
1 星	138	2	4,958	15	4,820	19	5,000	12.5	43	1
無星*	455	6			-455	-2				0
社会旅館*	1,825	22			-1,825	-7				0
合計	8,250	100	33,050	100	24,800	100	40,000	100	6,950	100

* 現在、星級ランクが付けられていない旅游局登録ホテル455室、及び星級への再登録が想定される社会旅館1,825室は、短期2010年までに星級に登録が完了するものとする。

出所 JICA 調査団

宿泊施設開発量の地区配分

- 現在の西寧市への宿泊施設の1極集中型から、短期→中期→長期へと徐々に各観光サーキットに宿泊・観光拠点を開発し、多核型構造に変革していく。
- 都市型宿泊拠点の充実に加え、リゾート宿泊拠点を開発する。
- サークット内の移動を便利にする。

下表は、将来の宿泊施設をサーキット別に配分したものである。

表 8.7.18 宿泊施設の配分

	総客室需要 (A)			客室開発需要量 (A-前期集積)	
	2004 既存集積	2010 (短期)	2020 (長期)	2010 (短期)	2020 (長期)
西寧観光圏	5,780	18,000	20,000	12,220	2,000
青海湖観光サーキット	450	7,700	11,000	7,250	3,300
黄河観光サーキット	800	7,100	10,000	6,300	2,900
祁連山観光サーキット	420	7,200	9,000	6,780	1,800
合 計	7,450	40,000	50,000	32,550	10,000

出所 JICA 調査団

(4) 主要観光整備拠点の施設整備

各観光サーキットの拠点の中から、特に次の条件に該当する地区を主要観光整備拠点として選定し、短期から開発プロジェクトを推進する。

- サークットを形成する上で基幹となる役割を担う地区
- 宿泊施設需要が 1,000 室以上（短期）ある地区
- インフラと基本的な観光施設が集積し、短期から観光開発・利用に着手できる地区
- 東部沿海地域や海外からの観光客のニーズに対応した観光プロダクト形成に大きく貢献できる地区
- 開発プロジェクトによる環境への大きな悪影響が想定されない地区、または必要な緩和策の実施により環境への大きな悪影響が防止できると想定される地区

IEE レベルでの環境社会配慮調査結果を受け、下記に挙げる環境項目で複数の重大な問題が生じると想定される地区は、特に短期の開発プロジェクトの対象から除く。

- 大きな経済格差が生じる可能性が高い地区
- 少数民族への大きな悪影響が危惧される地区（経済格差や伝統的生活様式・文化）
- 道路の不備や不適切な開発による災害や二次的な交通事故、森林火災などの発生が危惧される地区
- 遺跡・文化財の損傷が危惧される地区
- 汚水やゴミなど廃棄物による環境や保健衛生の悪化が危惧される地区
- 大規模な造成による地形・地質への悪影響と土壌浸食が危惧される地区
- 湖沼・河川の水質への大きな悪影響が想定される地区
- 地区特有の景観への大きな悪影響が危惧される地区

● 西寧観光拠点都市

青海省、及び環西寧圏の観光拠点都市である西寧市を中心に、郊外の互助県（威遠鎮）、及び大通県（橋長鎮）などの半日日帰り観光圏を整備する地域。西寧市内では、観光客の入込の増加に伴い、5 星級ホテルを始め各級の宿泊施設を整備する。また、中心市街地の商業・娯楽・飲食などのアメニティ、及びサービス施設や観光スポットなどを整備し、市の南部では大南山旅遊休暇区、温泉休暇村等の整備を進め、新たな観光サブ拠点を形成する。威遠鎮では土族民族風情村、橋長鎮では老斧山や姫姫山などの観光拠点やスポット整備とアメニティサービス施設の整備を進める。

● 青海湖観光サーキット

宿泊拠点として、青海湖 151 基地、金銀灘、青海湖沙島、鳥島の 4 拠点を重点的に整備する。また、その他の観光拠点として沙柳河鎮、白佛寺、観光牧場、日月山、龍羊峽などの整備を行う。

● 黄河観光サーキット

宿泊拠点として、同仁（隆務鎮）、及び貴徳（県都と黄河沿い）、黄河沿いのカンブラ・李家峽、孟達などを重点的に整備する。また、その他の観光拠点として、化隆県の夏涼寺、

循化県の浩門鎮のサラ族民俗村、同仁県の隆務寺やレゴン文化郷、民和県の満坪などの整備を行う。

● 祁連山観光サーキット

宿泊拠点として、北山森林公園、仙米森林公園、大通森林公園（察汗河）などの自然公園立地型の宿泊拠点、及びシルクロード南ルート上の浩門鎮・青石嘴鎮を重点的に整備する。また、その他の観光拠点として、大通の北川河川敷や東峡鎮の森林公園、門源の浩門鎮の回族風情館、祁連の半野生美鹿場や八宝鎮の休暇村などの整備を行う。

以上の観光拠点の中から表 8.7.19 に挙げる 14 の主要観光整備拠点をとり上げ、表 8.7.20 以降にて各観光整備拠点における観光施設整備方針とその内容を示す。

これら 14 の主要観光整備拠点は、本調査のカウンターパートである青海省旅遊局、各整備拠点の地元関係者、及びその他関連機関と調整し、合意を得た上で選定した。また、この選定結果は、青海省人民政府の各機関・組織で構成されるプロジェクト指導グループとの協議（2006年2月22日開催）で報告し、承認されている。

表 8.7.19 主要観光整備拠点

主要観光整備拠点	観光サーキット
西寧市観光拠点（主西-1）	西寧観光拠点都市
互助民族旅遊区（主西-2）	西寧観光拠点都市
青海湖 151 基地（主青-1）	青海湖観光サーキット
金銀灘（原子城）（主青-2）	青海湖観光サーキット
青海湖沙島地区（主青-3）	青海湖観光サーキット
鳥島背後地（主青-4）	青海湖観光サーキット
カンブラ公園・李家峡地区（主黄-1）	黄河観光サーキット
貴徳（主黄-2）	黄河観光サーキット
孟達自然公園周辺（主黄-3）	黄河観光サーキット
同仁宗教・文化地区（主黄-4）	黄河観光サーキット
北山国家森林公园（主祁-1）	祁連山観光サーキット
仙米国家森林公园（主祁-2）	祁連山観光サーキット
浩門鎮周辺（主祁-3）	祁連山観光サーキット
大阪山周辺（主祁-4）	祁連山観光サーキット

表 8.7.20 主要観光整備拠点（西寧市観光拠点）

拠点名	1. 西寧市観光拠点（主西-1）			観光サーキット名	西寧観光拠点都市		
住所	西寧市				0 - 50km	到達時間	30 分以内
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>歴史</u> ・ <u>文化</u> ・ 自然 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>国</u> ・ <u>省</u> ・ <u>県</u> ・ <u>民間</u> 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>2000 年以降</u> ・ <u>1995 - 1999</u> ・ <u>それ以前</u> 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>国</u> ・ <u>自治体</u> ・ <u>民間</u> ・ その他 		
役割	青海省観光のゲートウェイで、市内観光の中心地						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内各所に 5 星級ホテルを含む、各級ホテルの整備を促進し、ゲートウェイ及び市内各所の観光センターとしてのアメニティ・サービス施設の充実を図る。 ・ 南山の緑化、及びレクリエーション地区としての基盤整備を進める。将来的には、大都市圏や海外からの客層にも対応できるゴルフ場・スキー場などの整備を行う。すでに着手されている城南温泉休暇村においても、同様にスタンダードの高い施設整備を進める。 ・ 市内の南・北禅寺、清真寺などと日帰り観光拠点である、タール寺、柳湾古代遺跡、瞿雲寺などの拠点整備も平行して行う。 ・ 新空港ターミナルの景観整備、バスターミナル、観光案内所等を整備する。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	570 万人 (主に省内)	宿泊数	145 万人・泊	目標観光客数	702.30 万人	宿泊数	410 万人・泊
現況市場	・ 省内・周辺省自治区			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省内・周辺省自治区 ・ 大都市圏・海外 		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業・娯楽・飲食施設 ・ 星級ホテル（約 5,000 室） ・ タール寺 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏都大劇場 ・ 長江路飲食・娯楽センター ・ 青蔵民族民俗風情園 ・ 大南山旅遊休暇区 ・ 城南温泉休暇村 ・ 5 星級を含むホテル 12,000 室 		
イベント/活動	冰雪旅遊祭、国際蔵族絨毯展覧会、中国青海チューリップ祭、中国青海民間芸術・文化旅遊祭、観青海湖国際自転車ロードレースなど、各種イベント・コンベンションなど			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界の屋根」「三江源」「チベット・少数民族」等をテーマとする新たなイベントの形成・実施 		
備考				備考			

表 8.7.21 主要観光整備拠点（互助民族旅遊区）

拠点名	2. 互助民族旅遊区（主西-2）			サーキット名	西寧観光拠点都市		
住所	互助県威遠鎮			西寧から	35 km	到達時間	35 分
資源分類	・ 自然 ・ <u>文化</u>	管理運営 主体	・ 国 ・ 省 ・ <u>県</u> ・ <u>民間</u>	整備時期	・ <u>2000 年以降</u> ・ 1995 - 1999 ・ それ以前		
				財源	・ 国 ・ <u>自治体</u> ・ <u>民間</u> ・ その他		
役割	土族の民族文化・伝統芸能・地元物産のセンター及び西寧観光圏の宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 現在新築中の民族博物館に加え、訪問客の増加に対応し、大ステージ、物産展示・販売館、シルクアート館、白酒工場・展示・販売館、ジャガイモ料理館など、土族の民族文化/伝統芸能、地元物産の展示・販売施設などを整備、センターとしての充実化を図る。 ここを基点に、北サーキットの大通、北山森林公園、門源など観光拠点へのトリップへの主要宿泊拠点として、民宿（農家楽など）を中心に宿泊施設並びに関連サービス施設を整備する。 整備地区は、必ずしも 1 箇所に集中する必要はなく、むしろ街全体が観光客受入地として整備することが望まれる。 このプロジェクトは、北山森林公園と共に、同県の最も高いプライオリティが置かれている。 						
	現況			2010 年			
年間観光客数	60 万人	宿泊数	10 万人（推定）	目標観光客数	89.5 万人	宿泊数	20 万人（目標）
現況市場	・ 省内・周辺省自治区			目標市場	・ 省内・周辺省自治区 ・ 大都市圏・海外（近隣アジア）		
現況施設	・ 民族文化展示・販売館 ・ 飲食宴会施設 ・ 小ステージ			計画施設	・ 物産展示・販売館 ・ シルクアート館 ・ 大ステージ ・ 白酒工場・展示・販売館 ・ 民宿、星級ホテル 1,035 室		
イベント/活動	・ 伝統芸能の披露			イベント/活動	・ ジャガイモフェスティバル ・ 白酒祭り		
備考				備考	・ 西互高速道路の開通（2006 年）によりさらにアクセスがよくなる。		

表 8.7.22 主要観光整備拠点（青海湖 151 基地）

拠点名	3. 青海湖 151 基地（主青-1）			サーキット名	青海湖観光サーキット		
住所	共和県江西溝郷			西寧から	168km	到達時間	1 時間 40 分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000 年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	<ul style="list-style-type: none"> 青海湖国家級自然保護区におけるリゾート・レクリエーション拠点、及び青海湖観光サーキットの宿泊拠点（西寧に次ぐ宿泊拠点の形成） 						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 大パノラマを活かした滞在型観光拠点形成（静寂空間づくり） 立地性を活かしたレクリエーション・レジャー型観光拠点形成（賑わい空間づくり） 						
現況				2010 年			
年間観光客数	30.0 万人	宿泊数	6.0 万人・泊	目標観光客数	76.5 万人	宿泊数	17.5 万人・泊
目標市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 大都市圏・海外（海外同胞） 		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> 2 星級ホテル、テント 飲食・商業施設 遊覧船・栈橋 チベット文化部落 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 南岸傾斜地の高級リゾート及びタワーホテル（短期宿泊施設需要；3,300 室） ピクニックランド、観光牧場、南山眺望台 現 151 基地の再開発（高原地下城、多目的テント、移動博物館・遊園地、野外劇場） 		
イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> サイクリング 			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> 各種の高原スポーツ競技会、アトラクション、演芸イベント（夏都フェスティバル：西寧市とタイアップ） 草原・牧場での BBQ 祭など 		
備考				備考	<ul style="list-style-type: none"> 将来の上水需要の増加にあわせた新たな井戸・水源開発による容量確保が不可欠。 観光客の増加に伴う下水処理・ゴミ処理需要の増加に合わせた施設の拡充が必要。 		

表 8.7.23 主要観光整備拠点（金銀灘）

拠点名	4. 金銀灘（原子城）（主青-2）			サーキット名	青海湖観光サーキット		
住所	海晏県西海鎮			西寧から	98km	到達時間	75分
資源分類	・ 自然 ・ <u>文化</u>	管理運営 主体	・ <u>国</u> ・ <u>省</u> ・ <u>県</u> ・ <u>民間</u>	整備時期	・ 2000年以降 ・ 1995 - 1999 ・ それ以前		
				財源	・ 国 ・ 自治体 ・ 民間 ・ その他		
役割	都市型の記念公園地区、レジャー・レクリエーション地区及び青海湖観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 既存の原子力科学の研究施設を記念・展示施設に転用・整備し、多くの国内観光客・訪問者に教育・文化知識を広報 近接する沙島地区と連携する青海湖観光サーキットの主たる宿泊拠点機能の整備 西寧市からの日帰り観光需要に対応し、東大灘ダム湖畔整備や金銀灘地区の飲食・買物・娯楽・公園施設整備 その他、周辺にある夏格山登山・トレッキングルート整備 						
現況				2010年			
年間観光客数	-万人	宿泊数	-万人	目標観光客数	50.5万人 (沙島を含む)	宿泊数	1.5万人/泊 (沙島を含む)
現況市場				目標市場			
現況施設	なし			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 原子博物館 飲食・買物・娯楽・公園施設 ホテル、民宿など900室 		
イベント/活動				イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> 原子力科学に関するイベント 		
備考				備考			

表 8.7.24 主要観光整備拠点（青海湖沙島地区）

拠点名	5. 青海湖沙島地区（主青-3）			サーキット名	青海湖観光サーキット		
住所	海晏県			西寧から	117 km	到達時間	90 分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然 ・ 文化 	管理運営 主体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国 ・ 省 ・ 県 ・ 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2000 年以降 ・ 1995 - 1999 ・ それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国 ・ 自治体 ・ 民間 ・ その他 		
役割	エコ・レクリエーション地区及び青海湖観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂丘と親水スポーツ・レクリエーション基地形成 ・ 環境観光モデル地区形成 ・ 青蔵鉄道北側のゲート地区に宿泊拠点形成 						
現況				2010 年			
年間観光客数	n.a.万人	宿泊数	なし	目標観光客数	50.5 万人 (金銀灘含む)	宿泊数	1.5 万人/ 泊 (金銀灘含む)
目標市場				目標市場			
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセス道路 ・ 汚水処理・上水施設 ・ サンドバギーなどレジャー用機材 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂丘・砂浜・水上レクリエーション地区の整備 ・ 普氏原羚サテライト・センターの整備 ・ クリーン・エネルギー・パークの整備 ・ 沙島ホテルとアメニティ施設の整備（沙島ゲート地区） ・ ホテルなどの整備 1,000 室 		
イベント/活動	なし			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂丘・親水スポーツ競技会 ・ 普氏原羚モニタリングツアー 		
備考	保護対象の水鳥や普氏原羚の生息状況に変化があるとされ、化学的な生態調査に基づく、青海湖国家級自然保護区の核心区・緩衝区の見直しが急がれる。			備考	青蔵鉄道のラサ延伸と複線化事業に伴い、新沙島駅の整備計画が進行中		

表 8.7.25 主要観光整備拠点（鳥島背後地）

拠点名	6. 鳥島背後地（主青-4）			サーキット名	青海湖観光サーキット		
住所	剛察県吉尔孟郷、 布哈河口地区・沙陀寺郷			西寧から	250 km	到達時間	2 時間 50 分
資源分類	・ 自然 ・ 文化	管理運営 主体	・ 国 ・ 省 ・ 県 ・ 民間	整備時期	・ 2000 年以降 ・ 1995 - 1999 ・ それ以前		
				財源	・ 国 ・ 自治体 ・ 民間 ・ その他		
役割	バードウォッチングの拠点及び青海湖観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 水鳥の生態観察施設を再整備する。（観光サービスの向上対策） 地区ゲート付近と沙陀寺地区、及びダライラマ 5 世の泉地区（鳥島駅周辺地区）において宿泊・観光施設を整備する。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	11.4 万人 (2004 年)	宿泊数	n.a. 万人	目標観光客数	133.5 万人 (延べ)	宿泊数	36.5 万人・泊
現況市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 大都市圏・海外 			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 大都市圏・海外 		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> 域内道路（電気自動車） ホテル 野鳥観察用施設 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 既存のマスタープラン（F/S 調査）に沿って、野鳥観察のための諸施設の再整備 後背地（ゲート付近と沙陀寺地区）でのホテル整備(1,000 室) ダライラマ 5 世泉地区・鳥島駅周辺での観光施設整備 周辺観光拠点（伏埃城跡、湟魚観察場、都蘭の吐谷渾など）との連携強化を図り、過度の集中を排除する。 		
イベント/活動備考	祭海			イベント/活動備考	渡り鳥・水鳥・塩湖などをテーマとしたセミナーを提案		

表 8.7.26 主要観光整備拠点（カンブラ公園・李家峡地区）

拠点名	7. カンブラ公園・李家峡地区 (主黄-1)			サーキット名	黄河観光サーキット		
住所	尖扎県・カンブラ鎮、及び化隆県の李家峡北岸地区			西寧から	163km	到達時間	2時間40分
資源分類	・ 自然 ・ 文化	管理運営 主体	・ 国 ・ 省 ・ 県 ・ 民間	整備時期	・ 2000年以降 ・ 1995 - 1999 ・ それ以前		
				財源	・ 国 ・ 自治体 ・ 民間 ・ その他		
役割	自然系観光・レクリエーション地区、及び黄河観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特異な丹霞地貌・李家峡の景観探勝観光 ・ 南宗溝地区の丹霞地貌内に点在するチベット仏教寺院を活かした宗教・文化観光の推進（青海省におけるシャングリラ観光地の形成）。 ・ 李家峡湖水観光・黄河河下り観光拠点の形成 						
現況				2010年			
年間観光客数	5.0万人	宿泊数	n.a.万人	目標観光客数	94.0万人	宿泊数	38.5万人・泊
現況市場	・ 省内・周辺省自治区			目標市場	・ 省内・周辺省自治区 ・ 大都市圏・海外		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセス道路（崩壊箇所多く危険）及び景区内道路（中間部は崩壊のため通行不便） ・ ゲート施設 ・ テント 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳洪ゲート地区の整備（丹霞地形鑑賞ゴンドラ、ビジターセンター、眺望台など） ・ 丹霞地貌中心区及びトレッキングルート整備 ・ 南宗宗教・文化観光拠点の整備 ・ 李家峡遊覧区と拠点整備（李家峡ビジターセンター、丹山碧水ホテル、湖水観光区と船着場の整備） ・ ホテル、民宿、テント合計1,440室 		
イベント/活動	なし			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹霞地貌のライトアップ ・ 湖上イベント（民族舞踊、花火大会など） ・ 僧房生活体験 		
備考				備考	平阿高速道路の供用（2006年）によりアクセスが120分程度に短縮される。		

表 8.7.27 主要観光整備拠点（貴徳）

拠点名	8. 貴徳（主黄-2）			サーキット名	黄河観光サーキット		
住所	貴徳県（河阻鎮及び周辺地域区）			西寧から	100 km	到達時間	1 時間 30 分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000 年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	<ul style="list-style-type: none"> 貴徳温泉と黄河沿いの自然公園・レクリエーション地区及び黄河観光サーキットの宿泊拠点 マチン・広域シャングリラ回廊・玉樹へ繋がる唐番古道回廊の主要拠点 						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 既に集積が進む民宿（農家楽）の拡張・高質化を推進する。 周辺省や大都市圏の観光客に対応した、貴徳温泉の観光施設の拡充とサービスのスタンダード向上を行う。 黄河河川沿いの山坪台や虎実崖その他地区において、自然溪谷美と河川を活用したレクリエーション地区の整備を行う。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	35.0 万人 (2004 年)	宿泊数	n.a. 万人	目標観光客数	50.1 万人 (延べ)	宿泊数	25.1 万人・泊
現況市場	省内・周辺省自治区			目標市場	省内・周辺省自治区 大都市圏・海外		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> 貴徳温泉利用施設 農家楽 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷の山坪拠点整備（道路、棧橋、遊覧船、レクリエーション施設、宿泊施設など） 貴徳温泉でサナトリウム施設整備 観光農園（梨、果物、野菜、百草園など） 河陽鎮歴史的建造物の保全と観光利用 星級ホテル、テント合計 1,079 室 		
イベント/活動	梨花祭り			イベント/活動	果物・野菜に関連づけたイベント		
備考				備考			

表 8.7.28 主要観光整備拠点（孟達自然公園）

拠点名	9. 孟達自然公園周辺（主黄 - 3）			サーキット名	黄河観光サーキット		
住所	循化县孟達郷			西寧から	150 km	到達時間	1 時間 30 分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000 年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	自然公園・レクリエーション地区及び黄河観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 公園山頂の天池にある施設を再整備する。 ゲート部に主要観光施設を集積させる。 ゲート周辺や黄河河川敷を活用した周辺観光拠点を整備する。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	23.6 万人 (2004 年)	宿泊数	n.a. 万人	目標観光客数	24.8 万人 (延べ)	宿泊数	1.8 万人・泊
現況市場	省内・周辺省自治区			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 大都市圏 		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> 公園内ホテル、テント 園路（階段）・湖周遊路 ゲート施設（馬、トイレ、駐車場など） 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 天池の既存施設の再整備（宿泊施設をなくし、植物園・博物館、及びレストラン・喫茶店を整備） 公園内の園路・休憩・展望施設・案内板などの整備 ゲート部ホテル・ビジターセンター・アメニティ施設 ゲート周辺でのテント村、農家楽・観光農園整備 木場周辺での黄河くんだり拠点整備（船着場、カヌー・カヤック） 宿泊施設合計 1,083 室（周辺地含む） 		
イベント/活動	チベット族の 5 つの聖池であり、夏には巡礼を行っている。			イベント/活動	チベット族夏の巡礼祭り		
備考				備考			

表 8.7.29 主要観光整備拠点（同仁宗教・文化地区）

拠点名	10. 同仁宗教・文化地区(主黄-4)			サーキット名	黄河観光サーキット		
住所				西寧から	178 km	到達時間	3 時間
資源分類	・ 自然 ・ <u>文化</u>	管理運営 主体	・ <u>国</u> ・ <u>省</u> ・ <u>県</u> ・ <u>民間</u>	整備時期	・ <u>2000 年以降</u> ・ <u>1995 - 1999</u> ・ <u>それ以前</u>		
				財源	・ <u>国</u> ・ <u>自治体</u> ・ <u>民間</u> ・ その他		
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教・文化観光整備地区、及び黄河観光サーキットの宿泊拠点 ・ タール寺～同仁～甘肅省・夏河のラブラン寺（チベット仏教・文化観光回廊）の拠点 						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隆務寺や吾屯村の整備を通して、古都同仁の宗教・文化や歴史的雰囲気醸し出す魅力を向上する。 ・ 唐カ芸術の発展・継続・観光への活用を図るため、熱貢文化芸術村を整備する。 ・ 周辺の曲都乎鎮、及び蘭采郷の温泉山荘、郭麻日の民族村開発の推進と連携強化を行う。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	10.0 万人 (2004 年)	宿泊数	n.a. 万人	目標観光客数	67.7 万人 (延べ)	宿泊数	31.7 万人・泊
現況市場	・ 省内・周辺省自治区			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省内・周辺省自治区 ・ 大都市圏・海外(近隣アジア) 		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隆務寺その他チベット仏教寺院と観光関連施設 ・ 唐カ村と観光関連施設 ・ 曲都乎鎮の温泉山荘 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隆務寺その他寺院の建築補修、アクセス道路、環境施設整備 ・ 熱貢文化芸術村(制作・展示室、芸術学校、博物館など)の整備 ・ 周辺観光拠点の整備(曲都乎鎮、蘭采郷(新規整備)の温泉山荘、及び郭麻日の民族村開発 ・ ホテル・民宿合計 770 室 		
イベント/活動	なし			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唐カ展示・販売フェスティバル 		
備考				備考			

表 8.7.30 主要観光整備拠点（北山国家森林公园）

拠点名	11. 北山国家森林公园（主祁-1）			サーキット名	祁連山観光サーキット		
住所	互助県加定鎮			西寧から	117 km	到達時間	2 時間
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000 年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	大通河流域の自然公園・レクリエーション地区及び北（大通河）サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 現在は 5 つの森林区のうち、浪士当と扎龍溝の 2 区が旅遊区として整備が進んでいる。浪士当では河川敷きにキャンプ場・テント村（25 箇所）があり、週末を中心に西寧・蘭州からの客に利用されている。扎龍溝では、溪谷の散策路が整備されている。 現在のところ利用客も少なくキャンプ村も小規模であるが、利用客の増大に伴い、宿泊のみならず各種観光関連施設の整備が進むと考えられることから、計画的に環境保全の観点からの規制の強化が必要になってくる。 自然観察教育の場としても適当と思われることから、省内外の小中学校を対象とした夏季林閑学校などの整備が望まれる。 このプロジェクトは、互助民族旅遊区と共に同県の最も高いプライオリティが置かれている。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	8 万人	宿泊数	3 万人（推定）	目標観光客数	67.8 万人（延べ）	宿泊数	43.8 万人・泊
現況市場	省内・周辺省自治区			目標市場	省内・周辺省自治区 大都市圏		
現況施設	<ul style="list-style-type: none"> キャンプ場・テント村 散策路・東屋 レストラン 			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> ビジターセンター・自然観察館 環境衛生施設（下水・ゴミ処理） 星級ホテル、民宿・林間学校・ヒュッテ・テントなど合計 1,675 室 山菜（わさび等）開発 		
イベント/活動	なし			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> 学生文化祭（コーラス・写真・絵画など） 山菜料理フェスティバル 		
備考				備考			

表 8.7.31 主要観光整備拠点（仙米森林公園）

拠点名	12. 仙米国家森林公园（主祁-2）			サーキット名	祁連山観光サーキット		
住所	門源县仙米郷			西寧から	200 km	到達時間	3時間 20分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	大通河沿いの自然公園・レクリエーション地区及び祁連山観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性（方針）	<ul style="list-style-type: none"> 互助の北山森林公園と同様、西寧・蘭州からの週末観光客の需要が高まってきており、道路、インフラ施設、休憩施設、環境整備など基礎的な施設整備が必要とされている。 北サーキットの宿泊拠点形成を目的とした美しい自然景観に立地するリゾート型ホテル及び民宿やテント施設の整備を行う。 このプロジェクトは、同県では浩門鎮を中心とした西部地区と同様、最も高いプライオリティが置かれている。 						
現況				2010年			
年間観光客数	37万人 (全県)	宿泊数	n.a.万人 (推定)	目標観光客数	67.8万人 (延べ)	宿泊数	43.8万人・泊
目標市場	省内・周辺省			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 大都市圏 		
現況施設				計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 景区内道路・散策路 休憩施設 環境衛生施設 星級ホテル、及び民宿・テント合計 1,150 室 		
イベント/活動	なし			イベント/活動	<ul style="list-style-type: none"> 高山植物祭り 		
備考				備考			

表 8.7.32 主要観光整備拠点(浩門鎮周辺)

拠点名	13. 浩門鎮周辺 (主祁-3)			サーキット名	祁連山観光サーキット		
住所	門源县浩門鎮			西寧から	145 km	到達時間	2 時間 25 分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000 年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	菜の花及び祁連山観光サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> 浩門鎮から西へ 50km (200km²) にわたって展開する国営農場の菜の花畑は、既に省を代表する観光プロダクトになっており、この地区への観光客の入込数も増加している。浩門鎮には既に 3 星ホテルが申請中であるが、さらにホテル需要が予測されるため、北 (大通河) サークットの宿泊拠点として整備する。 この道路は、古くはシルクロードの 1 ルートとしてあったことから、西寧と張掖市との中間地点であるこの地区に、周辺の二糖溝郊野林閑園、回族民俗村、百里花海旅遊区などの整備も進め、歴史・文化と自然景観が一体となった旅遊区を整備する。 このプロジェクトは、仙米森林公園と共に同県で最も高いプライオリティが置かれている。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	37 万人 (全県)	宿泊数	n.a. 万人 (推定)	目標観光客数	52.3 万人 (延べ)	宿泊数	34.3 万人・泊
目標市場	省内・周辺省			目標市場	省内・周辺省自治区 大都市圏		
現況施設	崗什峠雪峰登山施設			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> 景区内道路・散策路 民俗風情村・地場産品販売店 休憩施設・公園施設 環境衛生施設 国営農場・養蜂業の観光利用 星級ホテル、及び民宿 1,176 室 		
イベント/活動	菜の花フェスティバル			イベント/活動	蜂蜜・ローヤルゼリー・プロポリスなど地場産品をテーマにしたイベント		
備考				備考	将来的には、青石嘴鎮・登山観光・乱海子・永安城などにも新しい観光拠点を整備し、多様化・多面化を図っていく。		

表 8.7.33 主要観光整備拠点(大阪山周辺)

拠点名	14. 大阪山周辺 (主祁-4)			サーキット名	祁連山観光サーキット		
住所	大通県宝庫郷			西寧から	100 km	到達時間	1 時間 20 分
資源分類	<ul style="list-style-type: none"> 自然 文化 	管理運営主体	<ul style="list-style-type: none"> 国 省 県 民間 	整備時期	<ul style="list-style-type: none"> 2000 年以降 1995 - 1999 それ以前 		
				財源	<ul style="list-style-type: none"> 国 自治体 民間 その他 		
役割	大阪山、及び宝庫河沿いの自然公園・レクリエーション地区及び祁連山サーキットの宿泊拠点						
整備の方向性 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> 宝湖及びその周辺の奇岩地区、野生動物観察区 (ユキヒョウ、野生鹿・ヤクなど)、黒泉ダム、及び上流の氷結滝群、自噴温泉、土族・回族・蒙古族の伝統生活文化などを活用した、総合自然公園・レクリエーション地区の整備をする。 自然立地型の星級ホテルや民宿の整備を進め、祁連山観光サーキットの宿泊拠点の形成を図る。 このプロジェクトは、浩門鎮地区と共に同県で最も高いプライオリティが置かれている。 						
現況				2010 年			
年間観光客数	10 万人 (全県)	宿泊数	n.a. 万人 (推定)	目標観光客数	25.5 万人 (延べ)	宿泊数	12.5 万人・泊
現況市場	省内・周辺省自治区			目標市場	<ul style="list-style-type: none"> 省内・周辺省自治区 大都市圏 		
現況施設	なし			計画施設	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション地区内道路・散策路、駐車場、休憩所など 民俗風情村、農家楽 エコツアー (野生ヤク、山鳥、水鳥、雪豹など) 休憩施設 環境衛生施設 星級ホテル、及び民宿 1,190 室 		
イベント/活動備考	なし			イベント/活動備考	なし		

(5) 観光サーキットのネットワーク整備

下図は、環西寧圏の観光サーキットを形成する主要道路網の整備計画を示したものである。



図 8.7.1 環西寧圏の道路整備状況

表 8.7.34 観光サーキットの道路整備計画

種類	区間	現況	完成予定	備考
高速道路	西寧～倒淌河	整備済		
	西寧～大通	整備済		
	西寧～蘭州	整備済		
	西寧～互助	建設中	2006	
	平安～阿岱	建設中	2006	平阿道路
第1環状道路	南線	整備済		
	北線		11.5 計画	
第2環状道路	平安～互助	3 級	12.5 計画	既存道路のグレードアップ (3 級→1 - 2 級)
	互助～大通	3 級	12.5 計画	同上
	大通～多巴	3 級	12.5 計画	同上
	多巴～湟中	3 級	12.5 計画	同上
	湟中～古城	3 級	12.5 計画	同上
	古城～平安	3 級	12.5 計画	同上
第3環状道路	民和～門源	整備中	2006	
	門源～海晏	3 級	11.5 計画	設計済
	海晏～151	2 級 (整備済)		
	151～共和	整備中	2006	
	共和～貴徳	3 級		
	貴徳～同仁	整備中	2006	
	同仁～循化	3 級		
	循化～民和	3 級	11.5 計画	
その他	西海～漁場			
	鳥島			
	カンブラ			
	孟達公園			
	北山公園			
	楽都～化隆			
	貴徳～岷巴台	3 級		
	共和～龍羊峽	3 級		
	龍羊峽～ 日月山口	3 級		
	海晏～馬匹寺			

出所 青海省交通庁

西寧観光拠点都市

西寧都市圏の放射幹線道路は、タール寺の湟中、民族村の互助、大通、日月山がある湟源、平安・楽都などを結び、その殆どが高速道路規格で整備されている。あるいは来年中に整備完了予定であり、観光サーキットの基本的なルートは確保される。また、大通～互助～平安は比較的良好な既存道路（3 級）で結ばれており、第十一次五カ年計画で外環状線、さらには第十二次五カ年計画で内環状線が整備予定となっており、中長期にかけてこれらの観光拠点間のアクセス性がより一層高まりってくる。

青海湖観光サーキット

青海湖東岸道路（2級）の整備が完了したことで、基本的な青海湖一周の道路機能が確保されている。また、下記2道路の整備により、祁連山観光サーキットと黄河観光サーキットとの連絡がさらに強化され便利になる。

- 青海湖 151 基地と共和を結ぶ道路（2006 年完成予定）
- 海晏～門源を結ぶ道路（第十一次五ヵ年計画路線）

黄河観光サーキット

西寧市～平安～尖扎（カンブラ）～同仁～循化～化隆等を結ぶ道路については整備中の道路が多く、以下の区間が現在整備中である。

- 平安～阿岱を結ぶ平阿高速道路
- 尖扎～同仁を結ぶ道路
- 楽都（瞿県寺）～化隆を結ぶ道路
- 貴徳～同仁を結ぶ道路
- 尖扎（カンブラ鎮）～貴徳～共和を結ぶ道路

これらの整備が完了すれば、各観光拠点間のアクセスが確保されることになる。しかし、これらの整備路線のうち特に下記の2区間については整備状況が思わしくなく、谷側の路盤の陥没箇所や山側の落石箇所が非常に多く見られる。カンブラについては、西寧市から1時間半（高速開通時）の好位置にあることから多くの入込客が予想され、そのアクセス道路の再整備は緊急であり重要である。

- 尖扎（カンブラ鎮）～貴徳～共和を結ぶ道路の内、カンブラ鎮～カンブラ森林公園入口間
- 楽都（瞿県寺）～化隆を結ぶ道路の山間部

祁連山観光サーキット

西寧市～大通・門源～北山公園・互助～西寧を結ぶルートも一部整備中区間があるが、概ね良好な道路で結ばれている。門源～民和を結ぶ S302 号線も甘粛省内を含めて整備が進んでおり、将来は蘭州からのアクセスが大幅に強化されることになる。また、門源～海晏を結ぶ新設道路が第十一次五ヵ年計画路線となっていることから、青海湖観光サーキットへの繋がりが強化される予定である。

青海湖・湖上交通施設整備

大湖・青海湖では観光開発以前から湖上交通が利用され、湟魚を中心とする漁業操業のための拠点・青海湖漁場が整備されてきた。現在、青海湖沿岸の湖上交通施設は、青海湖 151 基地と青海湖漁場に中小規模の船舶（50 トン未満程度）に対応した船着場、鳥島突端部に小規模な船着場、青海湖沙島の金沙湾に極小規模な船着場が整備されている。青海省の海上交通管理部局では、上記4箇所に加え 151 基地西部の青海湖周回道路と国道 25 号の分岐点に位置する黒馬河、剛察県の県都・沙柳河鎮に近い湖岸、湖真に位置する海心山の3地区に湖上交通施設整備を計画している。また、青海湖漁場付近において青海湖クルーズ用の大型船（1 万トン弱）が建造されているが、現在これらの大型船に対応する船着場整備の予定が

なく、小型船での乗り継ぎ輸送、結氷する青海湖での冬季の対応も定かでない（揚陸施設の整備）。

湖上交通と親水性スポーツ・レクリエーション活動は、青海湖における観光活動に多様性を確保する上で必要不可欠な要素である。しかし、青海湖は国家自然保護区に指定され、湖水・沿岸の希少・貴重な野生生態系の保護が必要である一方、青海湖が内陸の流出河川を持たない陸封湖であり、排水やゴミによる環境汚染に対して非常に脆弱な状況におかれている。港湾・船着場施設等の開発計画は、青海湖自然保護区の核心区・緩衝区内外に位置する沙島・海心山・鳥島・黒馬河の4地区では法的には容認されず、緩衝区に隣接する実験区内に適地を探し、船着場・管理施設・待合室等に加えて下記の環境対策施設の整備が提案される。また、湖上交通には徹底した環境汚染対策が求められ、船舶上で発生する汚水・排油・ゴミの全ては、遺漏のないよう港湾施設に汚水と排油回収パイプを整備し、全て地上に回収・処理する事が必要とされる。同様に、給油施設に付いても同様の厳しい環境基準の適用を受けるものと判断される。沖留めする大型のクルーズ船に対応した港湾施設整備が予定されており、これらの船舶の営業については、別途の観光汚染対策が必要となる。

黄河河川ルート整備

景観探勝を兼ねた河下り船の拠点整備を進め、道路ルートだけでなく黄河を利用した龍羊峡ダム下流から孟達にいたる河川交通ルートを整備する。同ルート上には新たに複数の発電用ダム湖が形成されており、起終点の龍羊峡ダム下流と孟達に河下りの拠点を形成し、途中の貴徳西部に新設のダム、李家峡ダム、公伯峡ダムには、ダム湖内とダム下流部にも各々拠点を整備する。各拠点には、上下する水位に対応するフローティング式の船着場、小規模な管理用施設・待合室に加え、カヌー・カヤック等の黄河ラフティング・スポーツ・レクリエーションのための拠点機能としての用具の貸し出し・管理施設と艇の離着岸用のスリップヤードの整備を行う。また、途中にある新設ダム・李家峡ダム・公伯峡ダムでは、ダム湖とダム下流の拠点間を結ぶ道路整備に合わせ、距離がある場合にはバス（乗客用）とトラック（艇用）の公共交通サービスを導入整備する。

給水施設整備

給水施設は、西寧市や隆務鎮、威遠鎮、西海鎮・原子城、河西鎮等の宿泊施設を含む観光拠点開発地区を除き既存の給水施設が整備されており、新たに井戸の掘削・整備、一次処理施設・貯留層整備、圧送施設と管路整備が必要となる。同様に、観光開発を進めるほとんどの観光スポットや展望・休憩スポットについても、需要に応じて小規模な井戸の掘削・整備と給水施設整備が必要となる。

特に、共和県151基地など大規模な宿泊施設や観光施設が整備される地区においては、25号線付近の既設井戸からの水量（1,500トン/日）では不足する。短期で整備されるホテルの室数、及びレストラン、その他観光施設の規模から推定すると、2010年までに少なくとも3,000トン/日の水量の確保が必要となる。地元でのヒアリングによると、江西溝郷では十分な水量が確保できる可能性があるとのことだが、周辺の水源に関する科学的情報がない。確保できる水量は開発規模を決定する重要な要素であるので、早急に調査を実施して確認する必要がある。

中長期において、宿泊施設集積が 5,000 室を超える規模にまで拡大する観光拠点においては、サービスタウン人口の増加に伴う水需要をも含む給水システムの整備が必要となる。一方、集中的な地下水利用による周辺環境への影響に配慮しつつ、水源の分散開発や付近にある大規模河川の河川敷の伏流水を開発・利用する等、環境と調和する新たな水源開発が必要となる。

汚水処理施設整備

観光施設の整備計画地は、自然保護区や森林公園、湖、河川など自然資源が豊富で、その保護・保全が重要な地区が多い。したがって、観光施設からの汚水・排水には十分な配慮が必要である。中でも、近年湖水の汚染が進む青海湖周辺では、その汚染源の大部分が牧畜や農業による面的な汚染に起因するとの報告があり、青海湖集水域内に広域下水道・処理施設の整備が計画されている。湖岸の観光拠点についても、適切な汚水処理施設の整備だけでなく、処理水の再利用施設も整備して湖へ処理水を排水しない。

鳥島も青海湖 151 基地も既に汚水・排水処理施設が整備されており、鳥島では 2002 年に設計処理水量 30 トン/時間の汚水処理生物化学処理施設 2 級が設置され、151 基地では 2004 年に生物化学処理方式の汚水処理施設が整備され、沈殿→ろ過→生物化学処理→1 級標準の処理が行われている。また、青海湖沙島においても、汚水処理施設が整備されている。今後は、入込みの増大と施設の拡充に伴い、これらに対応した処理施設の拡充と処理水の再利用施設整備が必要となる。

ゴミ処理施設整備

ゴミも汚水と同様に、今後の観光入込み客の増大、観光施設の拡充に伴い、適切なゴミの収集と処理施設の整備をする必要がある。ゴミの処理方法は、基本的に拠点毎に小規模埋立地（サニタリーランドフィルが望ましい）、または小型焼却炉を整備する。しかし、将来的には、発生量の増加に伴い県や鎮による公共のゴミ回収サービスの拡充が望まれる。同時に、観光客が「ゴミを捨てない・散らかさない」マナーを身に付け、ゴミの発生量を少なくしていく必要がある。

(6) 施設の建設コストの算定

整備コストは下記に従って算定した。

- 星級の宿泊施設の整備コスト

宿泊施設（星級ホテル、民宿、テントなど）と、それらの施設用地にかかる整地、道路、給排水、電気などのインフラ施設は下記の方式で見積もりをした。

整備コスト＝追加建設が必要な宿泊施設室数×星級毎の整備単価×1.3（インフラ整備費として、上物の 30%とした）

- 宿泊施設以外の整備コスト

宿泊施設以外の各種観光関連施設（商業・飲食・娯楽施設、公園、旅遊休暇村、民俗村、など）は、先の主要観光整備拠点については施設内容と規模を想定の上算定した。主要拠点以外については小規模から大規模なものまでであるが、概算を出すため各期毎に 1 地区当たり 500 万元 - 3,000 万元と想定した。

表 8.7.35 宿泊施設の整備コストの算定

	短期 (2010)		長期 (2020)	
	室数 (室)	整備コスト (万元)	室数 (室)	整備コスト (万元)
5 星	2,998	261,126	2,695	234,735
4 星	5,533	244,559	1,390	61,438
3 星	7,396	163,452	2,085	46,079
2 星	6,334	57,639	738	6,716
1 星	4,820	28,197	43	252
小計	27,081	754,973	6,950	349,220
その他の宿泊施設	6,350	7,025	3,050	3,300
総合計	33,431	761,998	10,000	352,520

*1) 星級ホテル 1 室当たりの建設単価については、5 星：67 万元、4 星：34 万元、3 星：17 万元、2 星：7 万元、1 星：4.5 万元。また、インフラは一律、上物のコストの 30%として計算した。

*2) テントは 1.5 万元/張、民宿は 1 万元/室、いずれもインフラ・環境整備費込みとした。

出所 JICA 調査団

表 8.7.36 宿泊施設以外の施設の整備コストの算定

	整備拠点	整備コスト (万元)	
		短期 (2010)	長期 (2020)
西寧観光 拠点都市	西寧市	211,770	23,530
	互助民族旅遊区	6,435	715
	その他拠点	36,500	4,055
青海湖観光 サーキット	青海湖 151 基地	66,450	28,478
	金銀灘	18,850	8,079
	青海湖沙島地区	1,170	501
	鳥島背後地	18,395	7,884
	その他拠点	14,250	6,107
黄河観光 サーキット	カンブラ公園・李家峡地区	18,395	7,513
	貴徳	16,250	6,637
	孟達自然公園	390	159
	同仁宗教・文化地区	9,100	3,717
	その他拠点	16,000	6,535
祁連山観光 サーキット	北山国家森林公园	780	195
	仙米森林公园	6,890	1,723
	浩門鎮周辺	6,695	1,674
	大阪山周辺	6,695	1,674
	その他拠点	5,000	1,250
合計		460,015	110,426

*1) 2010 年以降 2020 年までの整備コストは、長期の宿泊施設需要の増加分に準じて、追加投資が必要となると考える。

出所 JICA 調査団

8.8 事業実施手順・手続き

青海省における観光開発事業の実施手順とその手続きについて整理し、表 8.8.1 に挙げる項目について提案を示す。事業実施手順は、「計画立案・策定段階」、「施設建設・インフラ整備段階」、「運営・維持管理段階」の3段階に分けて示す。

事業実施手順・手続きは、当該事業の実施主体や規模、対象地域、特性（緊急性や重要性など）によって様々な形態が可能であるが、事業を効果的・効率的に実施して成功に導くためには、事業ごとに最適な実施方針・方法を検討することが必要である。ここでは、今後青海省で実施される観光開発事業を想定し、主に県旅遊局²⁶が実施主体となる公的資金を用いた事業、また民間資金を活用した民間企業による事業を主に想定する。

表 8.8.1 事業実施手順・手続きに係る提案

項目
1 実効性の高い計画の策定
2 資金調達方法の検討
3 事業実施方針の検討
4 発注方式の検討
5 入札方式の検討
6 施設建設・インフラ整備段階における監理システムの改善
7 運営・維持管理段階における監理システムの改善

8.8.1 事業実施手順

青海省における観光開発事業を実施する上で実際に採用されている手順を基本としつつ、後述する提案事項を反映させた実施手順の流れを図 8.8.1 に示す。ここでは、主に県・市区旅遊局が主体となる事業を想定しているが、県・市区旅遊局による事業でも必ずしもそれら全てに対してこの手順が適用されるわけではなく、可能な限り一般的な実施手順としている。なお、後述する提案にて言及している箇所については太字で記載した。

²⁶ 提案する項目によっては、一部省旅遊局や国営企業も含めて考えている。

	県・市区旅遊局	民間業者
計画立案・策定段階	<p>計画立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位組織への報告（例えば、県・市区旅遊局→州・市旅遊局→省旅遊局） ・事業実施方針の検討 ・資金調達方法の検討 ・事業アドバイザー制度導入の検討 <p>観光開発計画・観光区計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算申請・確保 ・計画作成業者の選定（入札実施→契約） ・関係諸機関・組織や住民との調整 ・計画作成業者の監督 ・審議会の開催と承認 ・情報公開（必要に応じて） ・詳細設計から運営・維持管理までの一括発注方式の検討 ・コンセッション契約による事業実施の検討 <p>詳細設計 実施可能性調査（F/S）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算申請・確保 ・詳細設計・F/S実施業者の選定 ・関係諸機関・組織や住民との調整 ・審議会の開催と承認 ・情報公開（必要に応じて） <p>事業実施の検討と決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施の検討と決定 ・地域住民への説明会（必要に応じて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札への応札→契約 ・各種調査の実施 ・関係諸機関・組織や住民との調整 ・計画策定 ・旅遊局への報告 ・審議会の結果を受けての計画修正 <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細設計から運営・維持管理までの一括発注 ・コンセッション契約による事業実施 <ul style="list-style-type: none"> ・応札→契約 ・詳細設計・F/Sの実施 ・環境アセスメントの実施 ・旅遊局への報告 ・審議会の結果を受けての設計修正
インフラ建設・整備段階	<p>予算申請と承認（資金調達）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算申請・確保 ・民間資金や他資金調達方法の検討 ・委託方法と入札方法の再検討 <p>入札の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札の実施 ・業者の選定→契約 <p>工事技術者委員会の開催（必要に応じて）</p> <p>施設建設、インフラ整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督（施工監理コンサルタントの活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札への応札→契約 <ul style="list-style-type: none"> ・施設建設、インフラ整備 ・施工進捗や完了等の報告
運営・維持管理段階	<p>予算申請と承認（資金調達）</p> <p>入札の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札の実施 ・運営・維持管理業者の選定→契約 <p>運営・維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札への応札→契約 <ul style="list-style-type: none"> ・運営、維持管理

図 8.8.1 事業実施手順

8.8.2 事業実施手順・手続きに係る提案

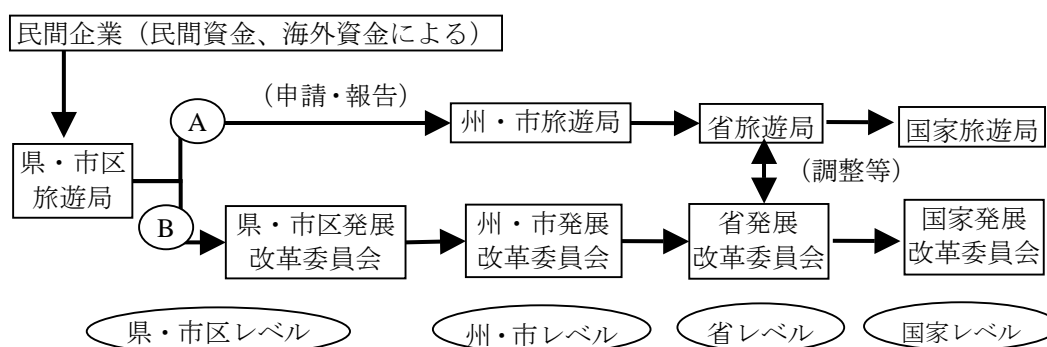
(1) 実効性の高い計画の策定（計画立案・策定段階）

現在の計画立案・策定システム

計画策定の手順は、国家旅遊局が発行した国家標準「旅遊計画通則（観光計画通則）（2003）」で規定されている。今まで青海省で策定されてきた、また策定中の観光発展計画や観光区計画の検討・作成段階では、委員会や個別ヒアリングを通じて環境保護局や林業局などの関連諸機関、及び各分野の専門家から意見を聴取している。また、村民委員会や城市居民委員会²⁷（地域住民委員会）への個別ヒアリングなどによって住民の意見を把握し、住民代表者を含めた関係者一同を集めて議論する公聴会も開催されている。

策定された計画は、審議会において審議、承認されることとなる。7名以上²⁸の委員で構成される審議会が設置され、委員の4分の3以上の同意をもって承認、委員全員の署名を持って有効となる。計画承認と審議会開催の申請、及び報告は、県・市区レベルの旅遊局であればまず州・市レベルの旅遊局に申請し、続いて省旅遊局に申請するという、一つ上級の組織へ順次申請するシステムとなっている（図 8.8.2）。²⁹国家旅遊局にまで申請・報告するかは事業規模や必要となる予算規模による。海外からの投資も含め、民間資本によって民間会社が計画を策定する場合にも、旅遊局への報告と旅遊局の承認が必要となる。

また、比較的大きな計画は計画承認後に新聞や広告で公開され、一般市民からの意見を受け付ける期間も設けられている。施設建設・インフラ整備前には、事業実施予定地域の住民を対象に説明会が開かれる場合もある。³⁰



→は、申請と報告の流れを表している。

対象地域が複数の県にまたがる場合やより広域な事業の場合は、民間企業から旅遊局への申請と報告は省旅遊局や州・市旅遊局に対して行われる。

A：主に 20 - 30 万元程度の比較的小さな観光事業の場合

B：インフラ整備などを含むより大きな事業や他分野を含む事業の場合

出所 JICA 調査団作成

図 8.8.2 申請と報告の流れ

²⁷ 1990 年施行の中国主席令「城市居民委員会組織法」にて定められている、地区ごとに一般市民で構成される委員会。

²⁸ 委員のうち、行政関係者は 3 分の 1 以下、地元の専門家は 3 分の 1 以上と定められており、主に経済、観光、環境、都市計画、建設などの専門家が含まれている。

²⁹ 青海省では州・市レベルでは審議会は設置されておらず、省レベルで審議されている。

³⁰ 住民移転に係る補償などはこの段階で話し合われる。

以上のように、各関連主体の意見を計画作成段階で取り込むシステムや計画承認の際の審議システムはあるものの、事業対象地域の実情と合わない計画、また法規則や他計画等との整合性が十分に確保されていない計画が策定、及び承認されていることが問題点として指摘されている。

実効性の高い計画の策定

第4章で示したように、青海省における観光開発では、「観光開発による現金収入増加の枠組みに事業対象地域周辺の住民を巻き込む」アプローチを採ることが重要であり、今後実施される比較的大きな事業では、計画策定段階において今まで以上に関係者や住民の参加を促し、住民の意見をより反映できる仕組みを作ることが必要である。

計画立案段階から地域の事情や住民の意見を汲み取り、また策定段階から住民や関係機関・組織を巻き込んで現地の実情に即した計画を策定することは、施設建設・インフラ整備段階へのよりスムーズな移行のためにも重要である³¹。加えて、関連法制度や他関連計画との整合性を確保するよう調整して実効性の高い計画を策定することは、承認手続きや資金調達に当たって不可欠である。

これらを踏まえ、下記に実効性の高い計画を策定することを目的としたいくつかの方策を示す。公的資金を用いた旅遊局³²による計画策定と民間資金を活用した民間自身による計画策定の2つを想定して整理する。

公的資金による旅遊局主体の計画策定

● 計画作成業者（コンサルタントや大学など）への監督の強化

計画を作成する業者（コンサルタントや大学）などとの契約を綿密なものとし、対象地域の現状や地域住民の生活を踏まえた計画作成、法制度や関連計画との整合性の確保の必要性を調査委託事項（TOR）にて明確に記す。同時に、旅遊局職員もコンサルタントが作成する計画が妥当なものであるかを的確に判断できるよう、地域状況を把握し、また住民の意見を吸い上げる事が今以上に必要である。

● 旅遊局職員の能力向上、及び旅遊局内や他行政組織との連携強化

コンサルタントとの契約を緻密にして監督を強化するためには、観光分野はもとより法務、建設技術、運営、金融、環境などといった観光開発に関連する分野の知見が発注者側（旅遊局職員）にも要求される。実効性の高い計画を策定するためには、発注者側が調査内容にある程度精通していることも必要である。

しかし、特に県レベルの旅遊局の職員数は十分でなく、関連分野の知見と経験を有する人材も必ずしも揃っているとは言えない。そのため、旅遊局内の事業担当課と他の課との連携はさることながら、旅遊局以外の組織（環境保護局や建設局、発展開発委員会など）とも積極的に検討会等を開くなど、組織間での柔軟な連携、協力を可能とする枠組みを整備する。

³¹ 後述する事業実施方式の策定や入札段階においても、事業アドバイザーは重要な役割を担うことになる。

³² ここでは、県・市区レベルの旅遊局が主体となった計画策定を想定している。

● 事業アドバイザー制度の導入

実効性の高い計画を策定するためには、既述のように発注者側にも観光関連領域に対する専門性が求められ、事業計画の検討や費用対効果、事業実施の妥当性などを綿密に検討することが必要となる。民間の参入意欲が働く事業の枠組みを構築し、適切な競争状態の中で事業者の選定や交渉を行うことがより良い事業の成立に向けて重要であり、このためにもある程度の専門的な知識や能力が必要である。そこで、従来の委員会の枠組みを超えた専門知識を有するアドバイザーを活用し、アドバイザーからの助言の下で事業を進めていくことが考えられる。

この事業アドバイザーは、事業担当課や計画作成業者とは独立した第3者的な立場とし、旅遊局に対する助言等だけでなく、必要に応じて旅遊局と地域住民、旅遊局と計画作成業者、また計画策定業者と地域住民との間の調整等も担う。

アドバイザーを他省の観光先進地域から招聘することも有益であるが、事業アドバイザーの導入には新たなコストが発生する。そのため、どの事業でも導入するのではなく、特に必要性が認められる事業に対して導入を検討する。また、県旅遊局が独自にアドバイザーと契約するにはコスト面での障壁が大きいことが予想される。その場合には、事業を特定しない形で省旅遊局がアドバイザーと契約を結び、県には事業単位でアドバイザーを派遣することも一案として考え得る。

● 複数の県にまたがる計画の調整に対する省旅遊局の積極的な関与

基本的に県内の事業は県レベルで担当することになるが、複数の県にまたがる事業、または異なる県の事業でも事業間の関連性が高く連携や調整が必要なものに関しては、省旅遊局、及び州旅遊局が従来以上に積極的に調整等業務を担う。

民間資金による民間企業等主体の計画策定

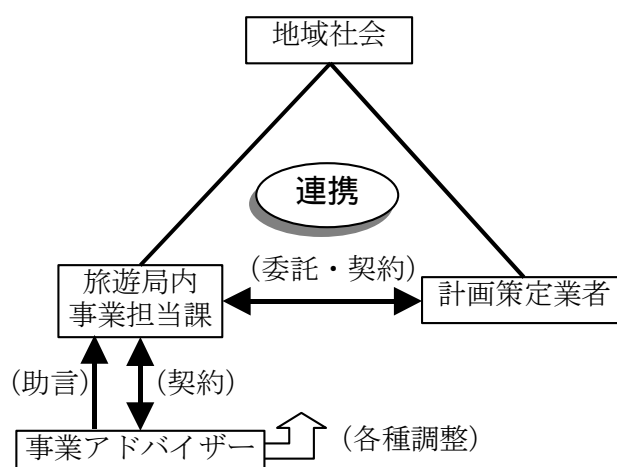
● 計画策定段階の監督の強化や計画承認時のより詳細な審査

民間企業が主体の事業においても、事業によっては計画策定段階から積極的に旅遊局が係わっていくことも必要である。その際、以上に述べた内容と同様の事項が必要となる。また、事業によっては、計画承認時により綿密な審査をする必要性も今後生じてくると思われる。

(2) 資金調達方法の検討

現在の資金調達方法システム

観光開発事業を実施する上での一般的な予算申請、及び資金の流れを図8.8.4に示す。事業を実施するための資金をどのように調達するかは青海省においても大きな課題であり、海

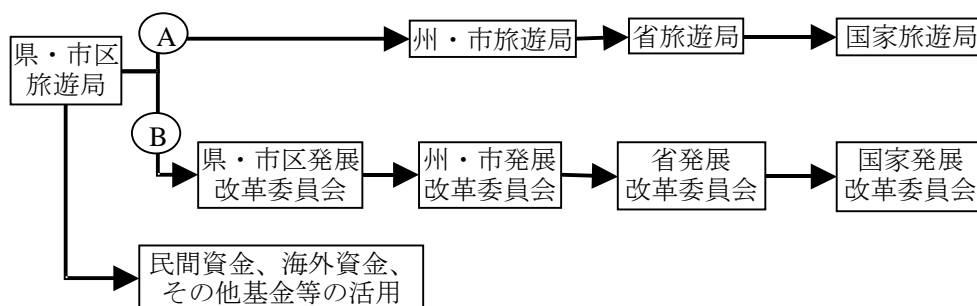


出所 JICA 調査団作成

図 8.8.3 事業アドバイザー制度のイメージ

外からの資金調達も含めて省級旅遊発展基金や国家級旅遊発展基金、民間資金の活用など当該事業に適した資金調達方法を検討する必要がある。

予算申請・資金調達手順

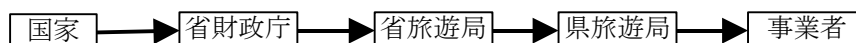


→ 申請と報告の流れを表している。

A 主に 20 - 30 万元程度の比較的小さな観光開発事業

B インフラ整備などを含むより大きな事業や他分野を含む事業

事業資金の流れ



県の事業であれば州・市旅遊局は経由しない。

出所 JICA 調査団作成

図 8.8.4 予算申請・資金調達手順と事業資金の流れ

資金調達方法の検討

資金調達方法は、事業ごとに計画策定途中から複数代替案を比較検討し、最適な方法を採用することが望ましい。その際、上記の事業アドバイザーの活用も考えられる。大きな資金を必要とする事業ほど、詳細設計から運営・維持管理までの一括発注方式によるコスト削減や民間資金の活用、事業者との明確なリスク分担による財政負担の軽減などを検討し、事業アドバイザーからの助言を得てより綿密な検討することが望ましい。今後の観光開発事業の実施資金をどのように調達していくかの検討は主要課題の一つであり、「第 11 章 資金調達方法の拡大」にて再度取り上げて記載する。

(3) 事業実施方針の検討

青海省における観光開発事業実施では、資金調達方法の拡大が特に課題となっていること、後述するように入札方式や発注方式に関して検討の余地を残していることなどに対処するには、計画立案・策定の初期段階から事業実施方針（事業実施方法）について検討し、より明確にすることが重要である。

事業実施には様々な形態があり、事業ごとに最適な実施方法は異なる。実施方針は事業内容や民間事業者の募集方針等を明らかにするものであり、民間企業が事業へ参入しやすくし、また民間資金や海外資金をより活用していくためには、可能な限り実施方針を具体的に、そして明確に示すことが必要である。

表 8.8.2 に、実施方針として明確にすべき項目の一例を挙げる。事業実施形態についてより緻密な検討ができるようにこのようなリストを作成しておく事は、県旅遊局が事業を実施する上でも有効である。

表 8.8.2 実施方針決定の際に検討する項目の一例

項目	内容
1.事業選定に関する事項	(1) 事業内容に関する事項 ・事業名称 ・事業目的 ・事業範囲 ・事業に必要とされる根拠法令 ・想定される契約形態 (2) 事業選定に関する事項 ・選定方法 ・選定基準
2.事業者の募集、及び選定に関する事項	・事業者選定の方法（公募型プロポーザル方式、総合評価一般競争入札など） ・選定手順、及びスケジュール ・応募手続 ・参加資格要件 ・応募に係る提出書類 ・審査 ・選定基準 ・結果、及び評価の公表
3.民間事業者の責任の明確化など、事業の適正かつ確実な実施の確保に関する事項	・予想される責任、リスクの分類、及び官民間での分担 ・要求されるサービス水準 ・民間事業者の責任履行に関する事項 ・事業実施状況の監理に関する事項
4.公共施設等の立地、ならびに規模や配置に関する事項	・施設の立地条件 ・土地の取得等について施設管理者等が行う措置 ・施設等の建設要件等
5.事業計画、または契約の解釈について疑義が生じた場合の措置に関する事項	・協議、調停、仲裁、裁判 ・裁判管轄の指定
6.事業の継続が困難となった場合における措置に関する事項	・事業継続が困難となった場合の対応措置
7.法制・税制上の措置、及び財政上・金融上の支援等に関する事項	・民間事業者が法制上、税制上、ならびに財政上、金融上の支援を得るために協力する場合の方針 ・行政から事業者への補助金がある場合はその方針
8.その他特定事業の実施に関し必要な事項	・情報公開の対象事項、及び公開方法 ・環境保全への配慮・環境アセスメントに関する事項 ・入札の費用負担

出所 立川市 PFI 等導入基本方針検討委員会報告書、他資料をもとに JICA 調査団が作成

(4) 発注方式の検討

資金調達方法の拡大が大きな課題となっている中で、事業者への発注が必要となる各段階で発注方式について検討する。当該事業を実施する上での確かな方式を選定する事は、事業を成功させるための大きな要因である。

● 詳細設計から運営・維持管理までの一括発注方式

詳細設計と実施可能性調査、施設建設・インフラ整備、運営・維持管理、資金調達を個々に発注する方式の他に、それらを一括して発注する方式を検討する。詳細設計から運営・維持管理までを一括発注する事で、民間事業者は運営・維持管理を踏まえた詳細設計をする事

が可能となり、民間の技術能力、経営ノウハウ、創意工夫を引き出し、事業実施の効率化とコストの削減が期待できる。この一括発注方式には、設計から建設、運営、維持管理までの幅広い専門性と技術が求められるため、1社ではなく異業種の複数の企業で企業連合を組むことが適当である。これまで行政が直接実施してきた事業分野への民間参入を促進することによって、民間事業者の新たな事業機会を創出することも期待できる。また、一括発注方式により、詳細設計から運営開始までの期間の短縮も可能となる。

なお、民間事業者の技術能力、経営ノウハウ、創意工夫を活かした設計とすることが目的であるため、発注方式は性能発注とすべきである。旅遊局は受注希望者に要求性能を示し、発注者は要求性能に対応して提出された提案性能を照査して、必要に応じて品質保証の担保条件を付す。

表 8.8.3 行政と民間の主な役割

主体	主な役割
旅遊局	基本政策立案、サービス内容計画、サービス水準設定、事業者募集、事業者選定、契約、モニタリング、支援（必要に応じて）
民間企業	詳細設計、資金調達、施設建設・インフラ整備、運営・維持管理

Box 8.8.1 性能発注と仕様発注

＜性能発注＞

性能発注とは、達成しようとする目的を明確にした事業の効果や成果に基づいた発注方式であり、計画や政策の実現に必要なサービスの内容と水準を提示し（業務要求水準書）、そのサービスを最も効率的かつ確実に提供する民間事業者に任せる。発注は提供されるサービスの質を仕様として（サービスの提供に必要な仕様は規定しない）民間の創意工夫にゆだねることになる。これにより高度な技術による自由な発想が可能になる。要求性能を満たす手段は問わないが、要求性能を満たしていることを証明するか、または検証を受ける必要がある。

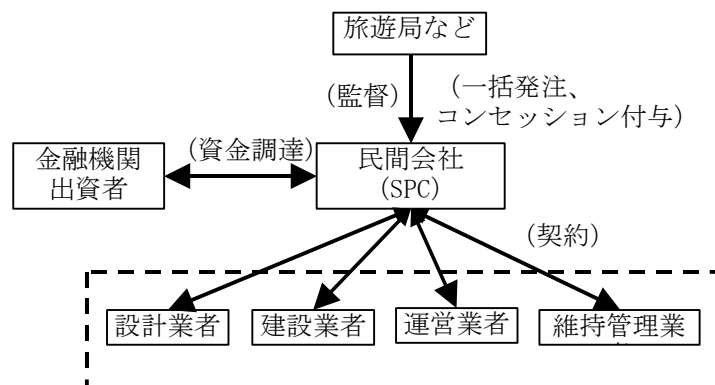
＜仕様発注＞

過去の成功事例や経験を分析し、用いられた手段や道筋が正しければ同じ結果を得られると考え、手段や道筋（方法）を指定して発注することにより、目的の達成や安全を確保する契約方法。手段や道筋（方法）が正しければ目的が達成されるものと考え、結果の検証は義務付けられない。マニュアル化が可能で実施形態が中央集権的になりやすい特性がある。完成検査は仕様で示された手段や形状に基づいて行なわれ、機能や達成すべき性能については検査しない。発注者は、仕様書の記述において標準仕様書に倣い目的達成の手段を示すが、その目的を明示しないため、その記述の目的とする機能や性能を十分には理解できない可能性がある。

● **コンセッション契約による事業実施**

旅遊局や他政府関連組織が民間企業などにコンセッション（事業権、経営権）を付与し、民間資金を活用して計画策定（または詳細設計）から実施まで民間企業が事業を実施する。事業免許を取得した事業者は、業務の執行（施設運維・維持管理）を含む経営管理業務、及び事業拡張の投資までを担う。コンセッション契約の場合、事業免許取得のため、民間事業者はその事業の遂行だけを目的として特別目的会社（SPC：Special Purpose Company）を設

立することもできる。SPCは、設計・建設請負、施設維持管理、運営など、事業遂行に伴う様々な業務を実施するため、それぞれについて高い専門性を持つ複数の民間業者と契約を締結する。事業権契約は、複数の事業者がサービスを提供することに経済的な合理性がなく、自然独占が起りやすい分野の事業に適用されることが多い。



出所 JICA 調査団作成

図 8.8.5 一括発注方式やコンセッション契約のイメージ

● 発注側と受注側でのリスク分担の明確化

上記に示した一括発注方式では、民間事業者への適切な業務移転による官民間のリスク分担が必要となり、観光局から民間に業務を移転すると同時にリスクが移転する。リスクとは、事故、需要の変動、物価や金利の変動、測量や調査のミスによる計画、仕様の変更、工事遅延による工事費の増大、事業開始の遅れ、関係法令や税制の変更などといった予測できない様々な事態によって損失を及ぼすおそれのある不確定要素のことであり、事業の遅延や大幅な追加コストなどをもたらす可能性がある。予めどのようなリスクが発生し得るのか、発生する確率はどの程度あるのか、その経済的影響はどの程度かなどを把握することが必要となる。さらに、発注者側（観光局）と受注者側（民間事業者）の管理能力に応じて個々のリスクを分担し、それぞれが責任を持ってリスク管理をすることによってコスト削減が可能となる。公共と民間の役割分担を明確にして、受注者は契約に基づいて事業を実施し、発注者は品質をモニタリングすることが必要となる。

性能発注方式の下で、民間事業者同士がアイデアやノウハウで競争することによって、単にコストを引き下げることではなく、新しい技術やリスク管理のノウハウを駆使し、質の高い公共サービスを効率的に提供できる適切な事業の仕組みや提案を引き出す可能性もある。

表 8.8.4 にリスク分担表の例を示す。

表 8.8.4 リスク分担表の例

段階	リスクの種類	リスクの内容 (負担者 ○主分担 △従分担)	負担者	
			旅遊局	民間
共通	募集要項の誤り	募集要項の誤りによるもの	○	
	法令の変更	全ての事業者に影響を及ぼすもの(税制等)	○	○
		事業実施、設建設・運営に影響を及ぼすもの	○	
	第三者賠償	調査や工事による騒音、振動、地盤沈下等による場合		○
	住民問題	施設建設に関する住民反対運動、訴訟	○	
		調査や工事に関わる住民反対運動、訴訟		○
	安全性の確保	設計、建設、維持管理における安全性の確保		○
	環境の保全	設計、建設、維持管理における環境の保全		○
	構成員のリスク	構成員の能力不足等による事業悪化		○
	保険	施設設計、建設における履行保証保険、及び維持管理期間のリスクを保証する保険		○
測量・調査の誤り		公共側が実施した測量・調査部分(想定部分を除く)	○	
事業の中止・延期		事業者が実施した測量・調査部分		○
		公共側の指示、議会の不承認によるもの	○	
		施設建設に必要な許可などの遅延によるもの		○
計画・設計段階	不可抗力	事業者の事業破棄、破綻によるもの		○
		天災、暴動等による設計変更、中止、延期	○	△
	物価	急激なインフレ・デフレ	○	○
	設計変更	公共側の提示条件や指示の不備、変更によるもの	○	
		事業者の指示、判断の不備によるもの		○
	環境アセス・公聴会による計画変更	施設建設そのものに関すること	○	
	事業者の提案内容に関すること		○	
応募コスト	落選時の応募コストの負担		○	
資金調達	必要な資金の確保に関すること		○	
建設段階	不可抗力	事業者の事業破棄、破綻によるもの		○
		天災、暴動等による設計変更、中止、延期	○	△
	物価	急激なインフレやデフレ	○	○
	用地の確保	建設予定地の確保に関すること	○	
		建設に要する資材置き場の確保に関すること		○
	設計変更	公共側の提示条件・指示の不備、変更によるもの	○	
		事業者の指示・判断の不備によるもの		○
工事遅延・未完工	工事遅延・未完工による引き渡しの遅延		○	
工事費増大	公共側の指示による工事費の増大	○		
	上記以外の工事費の増大		○	
性能	要求仕様不適合(施工不良を含む)		○	
サービス料支払い関連	支払遅延・不能	支払の遅延・不能によるもの	○	
	金利	金利変動	○	○
	債権譲渡の不備	債権譲渡の不備による障害		○
	不当な譲渡担保実行	譲渡担保の不当な実行による障害		○
	瑕疵担保	隠れた瑕疵の担保責任		○
維持管理関連	物価	維持管理費用の市場価格の変動	○	
	計画変更	用途の変更等、町の責による事業内容の変更	○	
	維持管理費の上昇	上記以外の要因による維持管理費用の増大		○
	施設損傷	事故や火災による施設の損傷	○	
	性能	要求仕様不適合(施工不良を含む)		○
仕様不適合による施設・設備への損害、施設運営への障害			○	

出所 JICA 調査団

(5) 入札方式の検討

現在の入札システム

入札に係る主な法令は以下の2つであり、入札の手順が示されている。そこには、入札に必要な書類や事業者選定の評価方法、入札公示から詳細資料（業務指示書等）の配布まで20日間以上の期間を設けること、入札から30日以内に事業者を選定することなど多くの項目が定められている。

- 入札募集、及び入札法（2000年施行）
- 工事建設事業施工入札募集法（2003年施行）

一般的な入札手順は図 8.8.6 のようになっている。発注者はまず入札募集専門の会社に入札を委託し、審議会での評価によって事業者が決定される。主な入札方式としては一般競争入札、招聘入札、直接委託が採用されている³³。

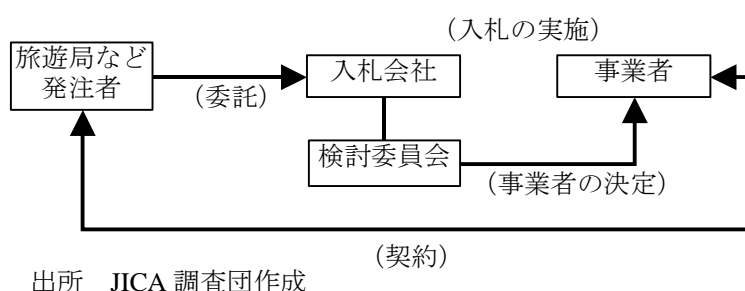


図 8.8.6 一般的な入札システム

事業特性を考慮した入札方式の検討

入札には多種多様な方式があり、事業の特質と発注者側のコスト、社会的コスト、入札に必要な期間などを考慮して入札方式を決定する必要がある。先に取り上げた一括発注方式を適用する場合には、性能発注による入札となる。性能発注による入札を行う場合には、最終的な業務要求水準書は二次募集要項配布時に公表されるが、業務要求水準書を実施方針と同時に公表することは有効な手段の一つである。参加意欲のある民間事業者に詳細な事業内容を提示し、創意工夫の時間を十分に与えるという点、及び業務要求水準に対する質疑・意見招請により、一層の業務要求水準の改善となる点がメリットとして挙げられる。

• 実施した入札リストの作成

県レベルの旅遊局が入札をする際に過去の事例を参照できるよう、各入札方式を選択する際のポイントや実際に実施した入札を整理してリストにする。例えば、特に事業内容が複雑で提案書の比較が困難と想定され、提案内容の調整等について交渉が可能なものは、公募型プロポーザル方式による随意契約が向いていると考えられる。また、競争入札により契約を締結する場合、予定価格の制限の範囲内において、価格だけでなくその他の条件（サービスの水準、環境への影響、安全性、耐用度等）も併せて最も有利な企画を持って入札に参加したものを落札者とする総合評価一般競争入札方法などがある。

リストには、事業名、事業の特性、入札方法を選択した理由、入札実施スケジュール、事業者選定方法などを整理して記載する。このリストは建設庁が作成し、省旅遊局を通じて

³³ 直接委託も入札方式の一つとして含めている。

州・市旅遊局、県・市区旅遊局に配布する。

● 青海省内の事業者と他省の観光先進地域の事業者とのジョイントベンチャーの推奨

現在、青海省内の観光開発計画の策定や詳細設計の実施は他省の観光先進地域の業者（コンサルタントや大学）に委託されることも多いが、青海省の状況、対象地域の実情に即した計画となっていないという青海省の観光関係者からの指摘がある。一方で、青海省内では計画策定や詳細設計を担うだけの人材や事業者が限られていることも事実である。

そこで、先進地域のノウハウを活かすと共に青海省の実情に即した計画を策定する一つの案として、青海省内の事業者と他省の観光先進地域の事業者とのジョイントベンチャーが考えられる。これらは、施設建設・インフラ整備段階では既に適用されているが、今後計画策定や詳細設計実施の段階でも積極的採用していく。これにより、効果的な計画策定や詳細設計の実施となることだけでなく、青海省内の業者の雇用創出や青海省内の業者育成がもたらされる事が期待できる。

● 事業者選定過程の透明性の向上

入札により事業者を選定する場合、その選定過程の透明性向上を図ることが重要である。民間事業者からの提案の選定等に際してより透明性と公平性を維持し、事業者からの提案の効率性、実現性、資金計画の妥当性など、技術、経営、法務、財務などを審査する。評価は可能な限り定量的に表して客観性を確保する事が求められる。事業者選定過程の透明性を向上させることはより適切な事業者の選定を促し、ひいては結果的に事業実施の質の向上を促す。現在でも定量的に評価する方法が用いられているが、それに加えて表 8.8.5 に一例を示すような審査項目と評価の観点を整理した表を作成し、公表できるような形にすることも透明性の向上に向けた一つの方策である。

表 8.8.5 審査項目と評価の観点の一例

審査項目	評価の観点
設計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要求にどの程度こたえているか。 ・ 現地の地理的条件を十分引き出しているか。 ・ 環境や開発計画の問題点を十分考慮したものであるか。 ・ 設計上の理念を正しく認識し、設計に反映されているか。 ・ 施設や部屋の配置の柔軟性はあるか。 ・ 仕様に示しているすべてのサービスを満たす設計になっているか ・ エネルギー節約や環境保護の考え方を反映したものであるか。 ・ 提案された設計手法は信頼できるものか。 ・ 既に他の事業で使用され、実現しているものか。
建設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案された工法によって提案された期間内に完工可能か。 ・ 建築コストは提案された予算の範囲内に収まるか。 ・ 建設会社、保証人は予想される損害を賠償するに十分な財務力があるか。 ・ 建設段階における管理体制は信頼のおけるものか。

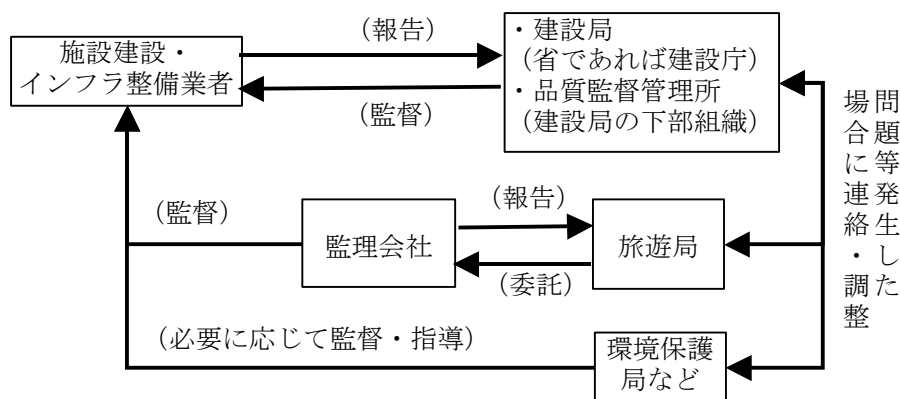
審査項目	評価の観点
維持管理 ・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案された運営方法を実施することが可能か。 ・ 提案された内容は予算の範囲内で調達することが可能か。 ・ 設備更新コストの見積りは十分か。 ・ モニタリング、及び支払減額システムは適切か。 ・ 業務要求水準で規定したサービス水準を保つことができるか。 ・ 運営に従事する人員の資格等の能力は十分か。 ・ 提案内容は法基準を満たしているか。 ・ 効率的・効果的な運営手法となっているか。
資金調達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資金は提案された条件で確実に調達することが可能か。 ・ 資金調達に係る感度分析は適切になされているか。 ・ 資金提供者が取らないリスクを関連業者などが取る用意があるか。その場合、関連業者は十分な財務力があるか。
リスク分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な官民のリスク配分がなされているか。 ・ リスク軽減策等、リスク管理体制は十分か。

出所 JICA 調査団

(6) 施設建設・インフラ整備段階における監理システムの強化

現在の監理システム

現在の施設建設・インフラ整備段階における一般的な監理システムは、図 8.8.7 に示すように、工事施工の品質管理は建設庁と建設庁の下部組織である品質監督管理所が担当している³⁴。一方、旅遊局は専門の監理会社に委託し、工事の着工から竣工にわたって別途に施工監理を行っている。この監理専門の会社からは1、2名の専門家が現場に派遣され、直接監督している。建設庁と旅遊局の監理は個別に行われているが、何か問題が発生した場合には連絡や調整がなされている。また、必要に応じて環境保護局などの関連機関が関与する。



出所 JICA 調査団作成

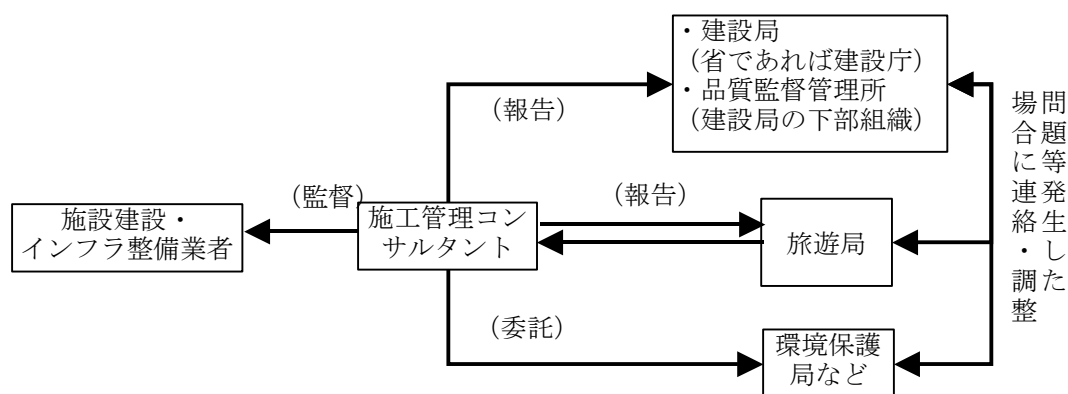
図 8.8.7 現在の監理システム (施設建設・インフラ整備段階)

³⁴ 県の事業であれば県の建設局と県の品質監督管理所が担当

自然環境（地形、地質、天候、災害）の影響を受けやすいことなど、建設事業は不確実性が高い事業である。しかし、多様な変化状況に対応した契約条件の変更内容を逐一具体的に既述する事は困難である。また、精算が適切に行われていないという問題も生じている。

● 施工監理コンサルタントによる監督

今後採用される事業方式で契約が重要になる中で、より中立的な立場からの監理が必要となる。建設局と品質監督管理所、旅遊局によるモニタリングを図 8.8.8 に示すように一括し、旅遊局（及び建設局や他関連組織）、施工管理コンサルタント、施設建設・インフラ整備事業者による明確な三者構造とすることが考えられる。施工監理コンサルタントは、発注者の業務代行、施工監理とその承認、発注者への報告、精算時の承認、施工計画や図面の審査と承認、進捗監理やコスト管理、品質管理、安全管理、環境管理を担う。



出所 JICA 調査団作成

図 8.8.8 施工監理コンサルタントによる監理

(7) 運営・維持管理段階における監理システムの強化

青海省の自然は青海省観光にとって最重要資源であり、観光開発計画と環境保全を同時に推進する事が必須であるが、青海省の自然は人間活動に極めて敏感である。また、青海省の観光産業のサービス水準は相対的に低く、観光関連の人材もマーケットの拡大に伴う要求水準の高度化に追随していない。

これらに対し、運営・維持管理段階における観光関連事業者に対する監理を強化することで、観光開発計画と観光振興の融合、また人材育成と観光サービス水準の向上を通じて青海省における観光産業の競争力の強化を図る。環境保全に係る監理システムの強化については「6.1 自然環境保全計画」、観光関連サービスに対する監理システムについては「10.2 観光業管理体制・組織整備計画」で取り上げる。

8.9 祭事・イベント開発計画

環西寧圏内では、タール寺や隆務寺で伝統的な法会等の宗教行事が6件、チベット族の伝統行事が3件、地域社会の春祭や物産展などが5件催されている。最近では、省人民政府や州人民政府、県人民政府が主催する芸術文化祭、冰雪祭、国際自転車ロードレース、文化観光祭や物産展等の新しい催し物が夏季の観光シーズンに12件催されるようになり、以下のように年間26件の催し物が実施されている。

(1) 少数民族の伝統的文化と祭事の復活・再生

環西寧圏は多数の少数民族の居住地から構成され、豊かな各々の民族文化が上げられているが、変革期における祭事・イベントの廃絶、その後の都市化に伴う伝統文化の衰退が進み、伝統的文化の再生とその晴れの場である祭事の復活は十分とは言えない状況にある。一方、かつてあった変化に富んだ各民族の伝統的な生活文化や伝統行事や祭事は、各地の民族文化観光振興の資源として大きな期待が寄せられ、その再生と復活を目指す。

各民族文化の再生には、変革期以前に伝統文化に精通した地元の古老や研究者を指導者として招聘し、地誌などの文献の再編、次世代育成のためのセミナーの開催（民族文化や地域文化に対する認識と誇りの再生）、民族文化・芸能・工芸などの技術の伝承・訓練場所の確保等に対する助成策を導入する。また、伝統的な祭事やイベントの復活には、祭事・イベント開催費の助成策を導入する。

(2) 地域の自然環境、牧畜・農業などの地域産業関連のイベント創設

現在、各地域の農業を活かしたイベントとしては、門源県で「菜の花祭」、貴徳県で「梨花祭」、循化県では「唐辛子祭」や「サラ族美食祭」など、数と種類が限られている。牧畜関係については、イベント化された催しがない状況にある。また、緑の大草原、新緑・紅葉する山々、万年雪を頂く連山、氷結した中国最大の青海湖など、四季折々の各地の特徴ある魅力的な自然を活かしたイベント化に着手されていない。

地域の特産である青裸麦・チンクウ酒、そら豆、羊・ヤクと肉や毛織物等を活かした魅力的なイベント作り、地域の四季折々の特徴的な自然景観を活かしたイベント作りによる観光の振興を目指す。省、及び州の旅遊局は、各県旅遊局の魅力的なイベントの開発と企画作りを支援すると共に、イベントの省内外の旅行者と協力してプロモーションを支援する。各県の旅遊局は、地元社会や農牧生産者と協力し、地場産品を活用した料理や土産品の開発によって、地元への裨益効果が高く魅力的な催し物を企画し、各々の自治体、及び省や州の資金援助を受けてイベントを実施する。

(3) 通年型観光を支援するイベント開発

現在の祭・イベントは、夏季の観光シーズンに集中しており、将来の観光の通年化・平旬化の方針に沿って、まずは春・秋の催し物の復活や新設を支援・促進し、夏季だけの環西寧圏の観光を3期に延長する。次に、冬季の氷結した青海湖や雪山を活かしたスポーツ・レクリエーションのイベント、また特異な自然生態を活かした生態観光イベントの開発を支援・促進し、通年化を達成する。

開催地	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
西寧市	青海民族芸術・文化祭											
	西寧市区	夏都冰雪観光祭		国際ハット毯展览会		青海チューリップ祭		環青海湖国際自転車ロードレース大会		冰雪観光祭		
	湟中県	タール寺四大法会	排灯		タール寺四大法会		タール寺四大法会		タール寺四大法会			
	大通県						大通六月六民謡大会					
海東地区	互助県							中国土族観光文化祭				
	洛都県											
	民和県											
	化隆県											
	循化県				孟達天池若者歌謡祭					循化唐辛子祭		
							街子サラ族美食祭		黄河横断水泳大会			
黄南州												
	尖扎県					カンブラ文化観光祭				カンブラ文化観光祭		
	同仁県		隆务寺、及び周辺寺院の正月祈願法会	同仁ハット族郷六月法会				レゴン文化観光祭				同仁「虎」舞
海南州												
	貴徳県							貴徳梨花祭/黄河文化観光祭				
	共和県							青海湖文化観光祭/祭海				
海北州								フォトコンテスト/祭海				
	海晏県							王洛賓音楽芸術祭				
	剛察県							祭海				
	門源县							門源菜の花祭				

出所 青海省旅遊局

図 8.9.1 環西寧圏の既存祭・イベントプログラム

表 8.9.1 環西寧圏の既存の祭・イベントリスト

場所	名称	時期	備考
青海省	青海民族芸術文化観光祭	6月より9月	各民族の伝統的歌舞・族芸術・服飾展示会
西寧市	国際チベット絨毯展・会	3月末	人数：2,000 - 3,000
	夏都・冰雪観光祭	11月20日より	3ヵ月間、2005年より開始
	中国青海チューリップ祭	5月	連休中一週間、各種イベント
	環青海湖国際自転車ロードレース大会	7月至8月	国際自転車ロードレース、恒例化済み
湟中県	タール寺四大法会	旧暦正月十四	跳欠（跳躍舞踊法会）
		旧暦正月十五	ヤクバター花展覧会
		旧暦四月十四	跳欠
		旧暦四月十五	御開帳、跳欠
		旧暦六月初七	御開帳、跳欠
		旧暦六月初八	本尊佛周回法会、跳欠
		旧暦九月二十二	五体同地・終日法会
大通県	大通六月六民謡大会	旧暦六月六	若者民謡歌謡祭、人数：3,000
互助県	土族観光文化祭	7月	若者歌謡祭、土族民族産品展示会
循化県	孟達天池・若者歌謡祭	旧暦六月六	人数：3,000前後
	街子サラ族美食祭	7月	
	黄河横断水泳競技会	8月	人数：10,000前後
	循化唐辛子祭	9月	人数：4,000 - 5,000
海北州	フォトコンテスト	7月	2005年開始
門源県	門源ヤクバター花祭	7月	人数：5 - 10万
海晏県	王洛・音楽芸術祭	隔年7月	王洛・歌謡祭、民族文化芸術活動
剛察県、共和県	祭海	旧暦七月十五	青海湖岸でのチベット族の海神への平和祈願式典
共和県	青海湖文化観光祭	7月	人数：30,000前後
貴徳県	黄河文化観光祭	4月末	有名歌手を招聘し歌謡祭など
	貴徳梨花祭	4月20日より	12日間、梨花観賞、物産展、文芸展、民族競技活・等
同仁県	隆務寺及び周辺寺院正月祈願法会	旧暦正月八日より	
	チベット郷六月法会	旧暦六月十四	半月間、11村参加、人数：8,000
	中国レゴン文化観光祭	7月	人数：30,000前後
	同仁「虎」舞	旧暦十一月二十	人数：3,000、チベットの想像上の動物
尖扎県	カンブラ文化観光祭	5月と9月	年2回開催

出所 青海省旅遊局

8.10 分野別観光開発プロジェクト

下記に、観光開発プロジェクトを分野別に整理する。

表 8.10.1 歴史・文化観光施設・スポット整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.1	紅軍西軍記念館	城中区	記念館整備	3,000	4.1
西.4	山峽会館修復・改善	城中区	歴史的建造物の修復・再建	2,000	2.7
西.5	西寧城跡修復	城中区	城壁の修復・保護・環境整備	7,000	9.5
西.13	虎台修復・ホテル開発	城西区	古代練兵場・指揮台整備、及び新規 18 階 3,000m ² のホテル建設	3,000	4.1
西.14	蘇家河湾薬水泉	城西区	泉周辺地区の環境整備・園地整備	5,000	6.8
西.27	文廟	城東区	建物の保全・歴史的街区整備	5,000	6.8
遑.4	扎麻隆～巴旅遊区	多巴鎮	道教建築・文化観光スポット整備	4,000	5.5
大.5	長城観光	大通県城 (橋頭鎮)	アクセス道路、駐車場、観光案内板、園地整備など	4,000	5.5
大.2	老斧山風景名勝区	大通県城 (橋頭鎮)	前後山道路舗装、遊歩道、長廊、駐車場、インフラ施設など	2,500	3.4
源.6	湟源古城	城美鎮	城壁、及び古建築の保全、観光利用	2,000	2.7
源.2	茶馬互市古建築一条街	城美鎮	建築補修・復元、歩道、インフラ施設など	6,000	8.2
楽.3	柳湾墓地	高苗鎮	新石器・青銅時代の文化遺跡周辺の修景・施設整備など	6,000	8.2
楽.2	彩陶博物館	高苗鎮	彩陶博物館拡張整備	2,000	2.7
循.2	サラ人伝統家屋	積石下 草・延伸至 街子・清水 ・孟辻郷	伝統的家屋保存、道路、駐車場など	1,957	2.7
門.6	浩門古城	浩門鎮	城壁の保全と観光サービス施設など	2,000	2.7
門.10	永安城影視外景拍攝基地	皇城蒙古 族郷	道路・インフラ、古城の城壁保全、観光サービス施設、環境整備など	1,100	1.5
剛.5	祭海台、ダライラマ 5 世の泉	泉吉郷	チベット族の青海湖礼拝地周辺の修景整備	2,000	2.7
祁.1	古遺跡開発保全	峨堡、扎麻 什地区	遺跡保全、道路・環境整備、小型展示館、接待施設など	4,000	5.5

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
同.6	レゴン文化芸術村整備	隆務鎮	制作・展示室、芸術学校、博物館、インフラ施設など	5,950	8.1
同.1	同仁古都整備	隆務鎮	道路・インフラ施設、寺院修復、環境整備など	850	1.2
貴.8	貴徳古城	河阻鎮	城壁都市内の歴史観光	4,000	5.5
短期プロジェクト合計				73,357	9.5
西.23	北禅寺「九窟十八」修復	城北区	石窟の修復、環境整備	13,000	33.2
西.24	沈那遺跡二期整備	城北区	緑化、環境整備、原始部落館建設等	8,000	20.4
湟.5	上五庄～李家山旅遊区	上五庄鎮、李家山鎮	古代歴史観光スポット（崆峒文化の古墳と彩陶土器等）	4,000	10.2
湟.9	扎麻隆鳳凰山	多巴鎮	九天玄女生誕地、崑崙文化の重要要素のスポット整備	2,000	5.1
互.6	五峰山青海「民歌（花卉）苑」	五峰郷、北多脳村	大型「花卉」演唱表演区修復、民歌資料展示館、山門	600	1.5
民.5	古都古城	川口鎮	道路改善、景点修景、便所など	3,590	9.2
民.7	馬場垣遺跡	馬場垣郷	国家級重要文化財	4,000	10.2
剛.9	哈龍岩画	泉吉郷	アクセス路・案内板	2,000	5.1
共.7	伏俟城	石乃亥郷	アクセス路と周辺の修景・案内板整備	2,000	5.1
中長期プロジェクト合計				39,190	16.3
歴史・文化観光施設・スポット整備プロジェクト合計				112,547	11.1

表 8.10.2 宗教・文化観光施設・スポット整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
源.8	湟源城隍廟	城美鎮	伝統宗教神社の修景、観光利用	2,000	21.6
楽.5	瞿曇寺	瞿曇鎮	寺院修復、修景整備など	6,000	64.8
同.2	隆務寺維持整備	隆務鎮	建築補修、道路・インフラ施設など	440	4.8
同.3	郭麻日寺維持整備	郭麻日村	建築補修、道路・インフラ施設など	250	2.7
同.4	吾屯上下寺維持整備	年都乎郷	建築補修、道路・インフラ施設など	570	6.2
短期プロジェクト合計				9,260	1.2
西.26	東関イスラム寺院	城東区	建物修復・保全・観光利用	3,000	15.3
源.7	扎蔵寺	寺寨郷	チベット仏教寺院の修景、観光利用	2,000	10.2

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
互.5	祐寧寺宗教観光朝観 旅遊渡假区	五十郷寺灘 村	歴代高僧大徳記念館修 復、展示館、現有殿堂修 復、大門修復	800	4.1
互.9	白馬寺	紅崖子澤 口	チベット仏教寺院の保 全・利用	800	4.1
楽.9	西来寺	展伯鎮	古典漢庭園式宗教施設、 博物館など	2,000	10.2
循.7	十世班禅故居	文都蔵族 郷	アクセス道路、駐車場、 案内施設など	2,000	10.2
循.8	喜饒法師足跡探訪	道張蔵族 郷	ルート整備	2,000	10.2
海.5	白佛寺	青海湖郷	チベット黄教寺院（大規 模伽藍配置）の修景と観 光利用	2,000	10.2
剛.7	剛察大寺	沙柳河鎮 の北 40km	駐車場、観光サービス施 設、案内板など	2,000	10.2
祁.2	寺院旅遊開発保全	峨堡、阿 柔、八宝地 区	寺院保全、環境整備など	2,000	10.2
共.5	海心山、三枚石	恰卜恰鎮	野鳥、道教	1,000	5.1
中長期プロジェクト合計				19,600	8.1
宗教・文化観光施設・スポット整備プロジェクト合計				28,860	2.8

表 8.10.3 自然・生態観光施設・スポット整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
大.3	娘娘山生態旅遊区	大通県城 (橋頭鎮)	3級道路改善、登山路、駐 車場、インフラ施設	3,400	4.3
大.9	大通県国家森林公園 察汗河風景区	宝庫郷	景区内道路、駐車場、観 光遊歩道、インフラなど	4,000	5.1
互.8	北山国家森林公園	加定鎮	ビジターセンター、林間 学校、宿泊施設、環境衛 生施設など	6,000	7.7
民.2	松山原始森林風景区	西溝郷	道路改善、景点修景、 便所など	3,718	4.8
民.3	西溝自然風景区	西溝郷	道路改善、景点修景、 便所など	3,589	4.6
民.4	麻地溝刀山	古善鎮	道路改善、景点修景、 便所など	3,550	4.5
民.6	七里寺自然風景区	古善鎮	道路改善、景点修景、 便所など、世界 4 大良質 ミネラルウォーター	3,590	4.6
循.5	孟達国家級自然保護 区	孟達鎮	植物園、ゲート地区のビ ジターセンター、ホテル など	6,000	7.7
門.2	仙米国家級森林公園 旅遊区	仙米郷	道路、休憩施設、 環境整備等	5,060	6.5

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万円)	短/中長期の シェア (%)
門.5	二塘溝郊野林閑園	浩門鎮	登山道路改善、インフラ、 歩道、環境整備など	1,050	1.3
門.8	ガンシカ雪峰登山探 検旅遊	皇城蒙古 族郷	登山・キャンプ場、 登山訓練基地、環境整備、 接待・サービス施設	1,320	1.7
剛.1	鳥島景区	吉尔孟郷	飲食、宿泊、娯楽、休憩 施設、野生生物博物館、 道路・インフラ、文化広 場、記念館、棧橋	15,833	20.3
剛.8	海西山（卵島）	吉尔孟郷	青海湖の卵島核心区を野 鳥観察施設の再整備（林 業局）	4,000	5.1
尖.1	カンブラ国家森林・地 質公園	カンブラ 鎮	接待サービス中心、 インフラ施設、宿泊施設、 展望、博物館、 飲食・娯楽、ホール	17,075	21.8
短期プロジェクト合計				78,185	10.1
湟.6	群加生態旅遊区	群加蔵族 郷	文化・娯楽施設、群加營 林場、積雪地帯、峡谷、 山峰、原始森林景觀整備	12,000	25.4
大.7	大通県国家森林公園 鶴子溝洶景区	東峡鎮	観光3級道路、4級支線路、 景区観光歩道、駐車場、 インフラ施設	4,630	9.8
源.4	貨石山探検旅遊景区	日月蔵族 郷	道路、インフラ施設、 飲食・宿泊施設など	1,200	2.5
楽.8	上北山森林公園、倉家 峡登山線路	引勝郷	上北山省森林公園の登山 道路、エコツアー関連施設 など	4,000	8.5
民.1	桃園林区	川口鎮	道路改善、景点修景、 便所など	18,398	39.0
循.9	積石峡丹霞地貌	積石鎮		2,000	4.2
門.11	高原生物・地学研究基 地	皇城蒙古 族郷	中国科学院の自然観察・ 研究所	1,000	2.1
海.4	夏格日山	甘子河郷	夏山登山・トレッキング 施設、記念碑など	1,000	2.1
剛.6	布哈河	吉尔孟郷	生態観光路整備 (湟魚の遡上)	2,000	4.2
祁.6	アジア最大野生美鹿 基地	半野生美 鹿場、油葫 芦自然保 護区	貧寒、商業・サービス、 博物館、道路・インフラ、 レクリ施設など	1,000	2.1
中長期プロジェクト合計				47,228	19.6
自然・生態観光施設・スポット整備プロジェクト合計				125,413	12.3

表 8.10.4 農業・牧畜観光スポット整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
剛.4	観光農場 (国営)	沙柳河鎮	観光農業、宿泊施設	2,000	50.0
貴.5	賀尔加衣観光園	河西鎮	百草園、梨苑、果物・野菜園	2,000	50.0
短期プロジェクト合計				4,000	0.5
共.6	湖東種羊場	倒尚河鎮	観光牧場 (生態観光を含む)	1,000	100.0
中長期プロジェクト合計				1,000	0.4
農業・牧畜観光スポット整備プロジェクト合計				5,000	0.5

表 8.10.5 スポーツ観光スポット整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.16	城南新区大型スキー場	城南区	雪と草スキー場 (冬・夏利用) 開発	10,000	100.0
短期プロジェクト合計				10,000	1.3
湟.7	多巴高原国家体育訓練基地	多巴鎮	国際的な高地スポーツ観光施設整備・トレーニングセンター再整備	6,000	75.0
祁.5	黒河大峡谷	八宝鎮 来道溝	道路・インフラ施設、筏など	2,000	25.0
中長期プロジェクト合計				8,000	3.3
スポーツ観光スポット整備プロジェクト合計				18,000	1.8

表 8.10.6 リゾート地区・ホテル開発

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.2	5 星ホテル	城中区	新規建設	20,000	8.3
西.11	城西区酒店・ホテル	城西区	5 星ホテル新規建設	5,000	2.1
西.17	夏都国際温泉休暇村	城南区	既に掘削済みの温泉を利用し、4 星温泉ホテルの建設	30,000	12.4
西.18	城南新区 5 星ホテル	城南区	ホテル・商談・会議・娯楽施設整備	20,000	8.3
化.1	黄河三峡旅遊区	李家峡北岸・黄河沿い地区	北岸湖畔リゾート、アクセス道路 (李家峡北岸広域道路)、船着場、黄河渡假村、沙灘浴場、夏涼寺修復など	100,000	41.5
化.4	李家峡北岸旅遊生態林	支扎藏族郷	植林、野菜畑、遊船用棧橋、賓館、飲食施設、インフラ施設など	4,000	1.7
門.7	浩門国営農場-青石嘴鎮周辺地区	浩門鎮～青石嘴鎮	国営農場又は、青石嘴鎮周辺に宿泊拠点、休憩・土産品店整備	6,000	2.5

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
共.1	青海湖景区	江西溝郷	道路・インフラ、二郎剣親水観光区、湖畔公園、遊園地、民族物産・飲食区、観光牧場、雪・草スキー場、宿泊施設区など	22,431	9.3
共.3	龍羊峽景区	龍羊峽鎮	道路・インフラ、水遊び施設、娯楽・飲食・サービス施設、河下り拠点、展望・休憩所	5,800	2.4
貴.1	山坪台黄河観光総合開発	河西鎮、黄河西部南岸	道路、展望台、棧橋、遊覧船、ホテル、娯楽など	28,000	11.6
短期プロジェクト合計				241,231	31.1
西.25	青海生態農林山荘	城北区	改築	2,000	9.5
剛.3	瓦彦山旅遊区	哈尔盖郷	公共駐車場、瓦彦山賓館 2 星など	2,148	10.2
尖.5	黄河沿別荘地・休暇村	黄河沿	別荘地、休暇村など	17,000	80.4
中長期プロジェクト合計				21,148	8.8
リゾート地区・ホテル開発プロジェクト合計				262,379	25.8

表 8.10.7 民族風情村開発・整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.12	青海民族民俗風情園	城西区	40ha (600 苗) 再開発、娯楽、飲食、宿泊、会議、民族舞踊など	20,000	42.2
互.1	土族民族旅遊区	威元鎮	土族伝統家屋、伝統民謡・芸能演舞場、土族文化展示館、駐車場、環境衛生施設	670	1.4
互.3	国家 4A 級故土国中心景区	威元鎮 (6km ²)	民族旅遊区、休閒渡假区、食飲買物区、高原文化展示区	6,000	12.7
循.1	サラ族民俗村	積石鎮	棧橋、遊覧船、河川道路、河川敷休暇村など (近中期)	913	1.9
循.6	清水サラ民俗旅遊村	清水郷	村内道路改善、商業・サービス施設、民俗館・広場など	4,000	8.4
門.1	寺溝森林浴場	珠固郷	展望塔、森林浴、民俗風情館等	2,500	5.3
門.4	百里花海旅遊区	浩門鎮	回族民俗風情館、環境整備など	6,150	13.0
剛.2	沙柳河鎮観魚長廊、及び民俗風情村	沙柳河鎮	水上廊下、風情渡假村、剛察賓館改善 3 星、文化広場改善、沙柳河至青海湖湿地道路など	7,150	15.1
短期プロジェクト合計				47,383	6.1

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
源.5	夏都径地雪域風情園	城郊郷薫家 庄村	蔵式建築・展示館、テント、 記念館、娯楽・飲食施設な ど	3,000	11.7
楽.6	瞿曇寺周辺区	瞿曇鎮	瞿曇寺周辺生態環境建 設、薬草台森林遊歩道、 瞿曇民俗村、薬草台寺維 修、チベット医薬	6,000	23.4
楽.4	長里民俗村	高苗鎮	民俗村、苹果園休閒施設 など	6,000	23.4
楽.4	長里民俗村	高苗鎮	民俗村、苹果園休閒施設 など	6,000	23.4
互.7	南門峡旅遊渡假区	南門峡水 庫区	主要建設渡假区別野群、 旅遊觀光、魚釣り場	600	2.3
民.8	三川土族風情		民族風情村開発・整備	4,000	15.6
中長期プロジェクト合計				25,600	10.6
民族風情村開発・整備プロジェクト合計				72,983	7.2

表 8.10.8 温泉・療養施設・スポット開発

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
貴.3	扎包熱水薬浴中心	扎包熱水 溝	源泉、及び保養所	1,200	14.4
貴.7	貴徳温泉	羊峡外口	温泉ホテル	4,000	48.0
同.8	蘭采薬浴温泉山荘	蘭采郷	山荘、道路・インフラ施 設など	3,140	37.6
短期プロジェクト合計				8,340	1.1
化.5	昂思多神区旅遊療養 地	昂思多鎮	サナトリウム、保健所、 インフラ施設など	4,000	63.2
共.4	恰卜恰温泉度假区	恰卜恰鎮	温泉利用の休暇村	720	11.4
同.5	重点民族村賽保全整 備	郭麻日村 他4村	サナトリウム、保健所、 インフラ施設など	640	10.1
同.7	曲庫乎温泉山荘	曲庫乎鎮	アクセス道路、接待・サ ービス施設など、ミネラ ルウォーター、森林景観	972	15.4
中長期プロジェクト合計				6,332	2.6
温泉・療養施設・スポット開発プロジェクト合計				14,672	1.4

表 8.10.9 地場産品開発・販売施設整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.7	青海名物センター	城中区、 71路	物産店・販売店、娯楽施 設など	18,000	47.9
西.9	北大街ファッション タウン	城中区、 大通路	再開発	2,000	5.3
西.19	青海国際絨毯センタ ー	城南区	絨毯の展示・販売施設整 備	15,000	39.9

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
互.2	中国土族刺繍專業村	威元鎮	デザイン・作業室、展示室 など	100	0.3
互.4	中国青裸麦酒物産館	威元鎮	陳列・販売館	600	1.6
循.3	旅遊產品	街子郷団 結村	物産展示館、周辺修景、 プロダクト開発など	500	1.3
尖.3	カンブラ鎮	カン ブラ 鎮	栈橋、旅遊プロダクト一 条街、バスターミナル・ チケット売場など	1,352	3.6
短期プロジェクト合計				37,552	4.8
西.20	手作り絨毯館	城南区	手作り絨毯づくり見学、 展示・販売施設整備	12,000	45.0
大.4	建国東路旅遊お土産 買物一条街	建 国 東 路 (橋頭鎮)	総合市場、駐車場など	6,000	22.5
大.8	広恵寺民俗宗教旅遊 一条街	東峽鎮	広恵寺～大通国家森林公 園道路改善、商店街改善、 山門、駐車場など	8,000	30.0
門.3	回族民族村	浩門鎮	商店、駐車場など	670	2.5
中長期プロジェクト合計				26,670	11.1
地場產品開発・販売施設整備プロジェクト合計				64,222	6.3

表 8.10.10 観光アメニティー施設・拠点整備

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.3	水井巷商店街改善	城中区	再開発・近代化	5,000	3.1
西.6	夏都大劇場	城中区	劇場・土産・娯楽施設、 駐車場	50,000	30.6
西.8	長江路飲食・娯楽セン ター	城中区、 長江路東	3ha 再開発	10,000	6.1
西.10	青蔵高原文化展示セン ター	城中区	人民映画館の改装（文 化・服飾展示）	8,000	4.9
湟.1	タール寺周辺(魯沙尔 鎮、葯水灘、南佛山)	魯沙尔鎮	タール寺道路・環境整備、 文化・娯楽施設整備	4,000	2.5
湟.2	蓮花蓮花山(湖)旅遊 風景區	魯沙尔鎮	タール寺周辺の湖畔の文 化・娯楽施設整備	4,700	2.9
湟.3	南佛(朔)山景區	多巴鎮	タール寺周辺の文化・娯 楽施設整備	4,700	2.9
大.1	北川河旅遊觀光帶	大 通 県 城、(橋頭 鎮)	緑地帯、彫塑、娯楽施設 (リクレーション)、食飲 店、觀光亭、觀光長廊、 水上釣堀、遊船娯楽施設 など	10,000	6.1
源.1	日月山景區(第二期整 備)	日月蔵族 郷	散策路、蔵族文化館、接 待施設、石刻走廊など	2,800	1.7
化.2	八宝山旅遊區	雄先蔵族 郷・查甫蔵 族郷	觀光サーキット沿いの接 待・サービス施設など	2,000	1.2

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
化.3	公伯峡旅遊区	甘都鎮	訪問者センター、賓館、娯楽施設、インフラ施設など	4,000	2.5
共.2	日月山～倒淌川景区	倒淌川鎮	「貨夏牧苑」、ホテル、情報センター、小泊湖周辺整備、倒淌河街づくり	55,000	33.7
貴.6	黄河生態旅遊度假村	河東郷～李家峡	休憩、水上遊び、魚釣、水泳、娯楽など	3,000	1.8
短期プロジェクト合計				163,200	21.1
源.3	大黒溝生態旅遊景区	東峡郷	景区内道路、インフラ、飲食、娯楽、休憩、テントなど	1,090	5.6
化.6	馬明山避暑休暇旅遊区	巴燕鎮北部(瞿曇寺道路)	蒙古式テント、射撃場、飲食施設、道路・インフラ施設など	4,000	20.5
化.7	合群峡旅遊区	謝家灘郷	ダム周辺の修景・美化、娯楽・飲食施設、車両など	6,000	30.7
循.4	綠色家園遊客接待中心	積石鎮	接待中心地など	3,230	16.5
門.9	花海鷺鳥風景区(乱海子)	皇城蒙古族郷	野鳥観測園、民族風情園、博覧館、接待施設、道路・インフラなど	1,150	5.9
尖.4	馬克唐鎮	馬克唐鎮	栈橋、尖扎県文化宣伝中心、尖扎県文化公園、スポーツ観光施設整備会館など	4,080	20.9
中長期プロジェクト合計				19,550	8.1
観光アメニティー施設・拠点整備プロジェクト合計				182,750	18.0

表 8.10.11 観光レクリエーション施設・地区開発

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
西.15	大南山旅遊休暇区	市南部(城東・城中区)	森林公園、動物園(人民公園からの移転)、スキー場、風情館、ゴルフ場、キャンプ場等	50,000	63.5
化.8	康揚下流～公伯峡水上旅遊	康揚ダム～公伯峡ダム)	旅遊船、栈橋など	6,000	7.6
海.1	沙島、金沙湾基礎施設	青海湖郷	栈橋、接待施設、青海湖自然博物館、展望塔、広場、道路・インフラなど	5,330	6.8
海.2	沙島、金沙湾観光施設	青海湖郷	遊覧船、水上遊び施設、湖浜浴場、民俗風情園、砂丘滑走施設、熱気球、環境保護対策など	3,915	5.0

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
祁.4	八宝旅遊区	八宝鎮	スキー場・ロープウェイ、 休暇村、接待施設、道路・ インフラ施設、筏、祁連山 森林公園	5,100	6.5
貴.2	虎実崖旅遊総合開発	黒峡口・河 東 郷 の 対 岸	ロープウェイ、魚釣、水 泳、スケートリンク、休 憩、会議、農家楽	5,000	6.4
尖.2	李家峡ダム	カンブラ鎮	栈橋、遊覧船、河川道路、 河川敷休暇村など（近中 期）	3,340	4.2
短期プロジェクト合計				78,685	10.2
西.21	西寧自然公園	城南区	45ha（680 苗）、都市公園 整備	6,000	58.4
滄.8	上新庄薬水泉	上新庄鎮	山水レジャー、「紅河原」 ミネラルウォーター水源 地整備	2,000	19.5
海.6	東大灘ダム	金灘郷	人造湖の湖畔園地整備	1,000	9.7
祁.3	小東草旅遊風情区	阿柔郷小 東草溝内	水泳プール、テント、商 店、道路・インフラ施設 など	1,270	12.4
中長期プロジェクト合計				10,270	4.3
観光レクリエーション施設・地区開発プロジェクト合計				88,955	8.8

表 8.10.12 その他の観光施設・関連施設開発

図中 番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容	コスト (万元)	短/中長期の シェア (%)
海.3	原子城（金銀灘）	西海鎮	王洛賓音楽生平展丁、原 子博物館、飲食・買物・ 娯楽・宿泊施設、公園	16,850	72.2
貴.4	朶址石林旅遊開発	朶址郷	道路・インフラ、バスセ ンター	6,500	27.8
短期プロジェクト合計				23,350	3.0
西.22	西寧科技館	城南区	科学技術展示、体験館 （3ha）の整備	9,500	57.6
大.6	青海アルミニウム工 業有限公司	大通 県 城、（橋頭 鎮）	工場見学施設整備（産業 観光、児童・生徒の産業 見学）	1,000	6.1
楽.1	新楽公園	展伯鎮	公園、大門、記念塔など	2,000	12.1
楽.7	七里店黄河灯	崗溝鎮	湟水と併走する国道沿い にライトアップ	4,000	24.2
中長期プロジェクト合計				16,500	6.8
その他の観光施設・関連施設開発プロジェクト合計				39,850	3.9